

令和7年度版

授 業 概 要

2025 SYLLABUS



千 葉 県 立 保 健 医 療 大 学

Chiba Prefectural University of Health Sciences

はじめに

この授業概要（シラバス）は、本年度に開講するすべての科目の授業の概要や方法が詳しく掲載してあります。

授業概要（シラバス）の構成は、

- ① 授業科目名
- ② 必修選択自由区分^注、科目ナンバリングコード、単位数、時間数
- ③ 担当教員
- ④ 授業の到達目標及びテーマ
- ⑤ 授業の概要
- ⑥ 授業計画
- ⑦ 履修条件
- ⑧ 予習・復習
- ⑨ テキスト
- ⑩ 参考書・参考資料等
- ⑪ 学生に対する評価

となっています。

皆さんが選択科目を選ぶ時、また、日常の各授業が授業計画のどの部分を講義しているかなど、授業内容を理解するためにもこの授業概要（シラバス）を活用してください。

注１：「必修科目」・・・卒業要件として修得を必要としている科目

「選択科目」・・・修得単位を卒業要件に算入する科目

「自由科目」・・・履修できるが卒業要件に算入しない科目

注２：２０２５年度入学生からカリキュラムが変わったため、旧カリキュラムでは開講しない等の科目がありますが、新カリキュラムの科目などで読替を行います。『読替表』を確認してください。

大学における単位制とは、授業科目を履修し、その授業科目に与えられた単位を、試験等に合格することによって修得する制度です。

1 単位あたり 45 時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準とされています。

1 単位あたりの学修時間は、授業時間と事前の準備学修・事後の準備復習を合わせたものとなっています。

本学の 1 単位の授業時間は、講義 15 時間、演習 30 時間、実験・実習 45 時間となっています。

1 回の授業は 2 時間で算出します。

つまり、

講義科目では、15 時間の授業（7.5 回の講義）に参加し、30 時間の事前・事後の自己学修が必要となります。

演習科目では、30 時間の授業（15 回の講義）に参加し、15 時間の事前・事後の自己学修が必要となります。

実験・実習科目では、45 時間の授業（22.5 回の講義）に参加する必要があります。

1 単位を修得するためには、授業に参加するだけでなく、事前・事後の自己学修が必要となることに留意してください。

目 次

第1部

健康科学部の概要

1	健康科学部	・ ・ ・ ・ ・	1
2	看護学科	・ ・ ・ ・ ・	6
3	栄養学科	・ ・ ・ ・ ・	33
4	歯科衛生学科	・ ・ ・ ・ ・	48
5	リハビリテーション学科	・ ・ ・ ・ ・	59
6	読替表	・ ・ ・ ・ ・	82

第2部 シラバス（授業概要）

1	特色科目	・ ・ ・ ・ ・	特色	1
2	一般教養科目	・ ・ ・ ・ ・	一般	1
3	保健医療基礎科目	・ ・ ・ ・ ・	保健	1
4	専門科目			
	（1）看護学科	・ ・ ・ ・ ・	看	1
	（2）栄養学科	・ ・ ・ ・ ・	栄	1
	（3）歯科衛生学科	・ ・ ・ ・ ・	歯	1
	（4）リハビリテーション学科理学療法学専攻	・ ・ ・ ・ ・	理	1
	（5）リハビリテーション学科作業療法学専攻	・ ・ ・ ・ ・	作	1

第 1 部

健康科学部の概要

大学の理念・目的

千葉県立保健医療大学は、保健医療に関わる優れた専門的知識及び技術を教授研究し、高い倫理観と豊かな人間性を備え、地域社会に貢献し、保健医療の国際化に対応できる人材を育成するとともに、研究成果を地域に還元することにより、県民の保健医療の向上に寄与します。

- ・高い倫理観と豊かな人間性を持った人材の育成

生命の尊厳を深く理解し、専門職としての高い倫理観を育み、人間を総合的に理解し、多様性を認めあう広い視野を持った人材を育成します。

- ・健康づくりなどの保健医療に関わるすぐれた専門職の育成

すぐれた専門的知識・技術を習得し、一人ひとりの状況に応じた健康づくりなどの多様な保健医療を研究・企画・評価する能力を持った人材を育成します。

- ・地域社会に貢献し、保健医療の国際化に対応できる人材の育成

地域に開かれた大学において、県民、保健医療関係者と広く連携・交流を行い、地域社会に貢献する意識態度を醸成します。また、国の内外を問わず国際的な視野を持って活動できる人材を育成します。

- ・県健康づくり政策のシンクタンク機能

健康づくりなどの保健医療の政策課題に関する実践的研究を行い、その成果を地域に還元し、県の健康づくり政策に貢献します。

1 健康科学部

1 教育理念

健康科学部は保健医療に関わる優れた専門的知識及び技術を教授研究し、高い倫理観と豊かな人間性を備え、地域社会に貢献し、保健医療の国際化に対応できる人材を育成します。

2 学部の目的

教育理念を達成するために、以下の人材育成を学部の目的としています。

1. 思いやりの心や高い倫理観を基本とした保健医療サービスを提供できる力
2. 生きいきとしたコミュニケーション能力
3. 確かな実践力と新たな実践をつくりだす力
4. 自己理解と責任感を基盤としたしなやかな個別対応力
5. 他の専門職と自在に連携・協働する力
6. 地域社会や地域の健康づくりに貢献する力
7. 生涯にわたる自己研さん力
8. 国際的な視野を持ち保健医療の発展に寄与する力

【健康科学部】

＜教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）＞

教育理念・学部の目的に基づき、ディプロマ・ポリシーを達成するために、以下の方針を基本に据え、カリキュラム（教育課程）を編成する。

- 1 高い倫理観と豊かな人間性を養うとともに、専門分野における知識・技術に加え関連分野の理解を深めることを可能とする系統的で統合性のある編成とする。
- 2 「特色科目」、「一般教養科目」、「保健医療基礎科目」、「専門科目」の4つの基本的枠組みから構成し、講義、演習、実験・実習を効果的に組合せて行う。
- 3 「特色科目」は、学科の枠を超えたチーム活動を通じて学ぶ、本学独自の科目である。千葉県民の多様な生活と価値観を体験的に学び、千葉県の保健医療福祉施策や実践活動を理解し、多職種連携による保健医療の実践力を修得することを目的とした科目を段階的に配置する。
- 4 「一般教養科目」は、人間や社会を総合的に理解する幅広い教養と知識を身につけ、科学的根拠に基づいた的確な判断や創造的に課題を発見し解決するための汎用的技能を身につけ、多様な人々との相互理解を築くための総合的な力を育成することを目的とした科目を配置する。
- 5 「保健医療基礎科目」は、保健医療専門職として求められる基礎的な知識・技術・態度を学び、その後のより専門的・体系的な学習内容につなげることを目的とした科目を配置する。
- 6 「特色科目」、「一般教養科目」、「保健医療基礎科目」いずれも、他学科・専攻の学生との交流が可能になるよう科目名称を統一し、一緒に受講できるように配置する。
- 7 「専門科目」は、各学科・専攻の専門分野に関して科学的根拠に基づく専門的知識と実践技術を段階的に学び、これらを統合して活用する力を育むとともに、生涯を通じて自己研鑽する力を育むことを目的とした科目を配置する。
- 8 常に上記の各項目の点検を怠ることなくカリキュラムを運営する。

千葉県立保健医療大学は、学部の目的を達成するために、以下のディプロマ・ポリシーと学士力（コンピテンスの領域、コンピテンシー）を設定した。

<学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）>

I 倫理観とプロフェッショナリズム

千葉県立保健医療大学生は、卒業時に倫理的な原則を遵守し、専門職としての責務をはたすことができる。

II コミュニケーション技能

千葉県立保健医療大学生は、卒業時に対象者とそれを支える人、保健・医療・教育・福祉職に対してお互いの立場を尊重した人間関係を構築し、生き生きとしたコミュニケーションをとることができる。

III 実践に必要な知識

千葉県立保健医療大学生は、卒業時に高い教養を身に付け、専門領域の実践に必要な知識を有し、それを健康づくりの支援に活用することができる。

IV 健康づくりの実践

千葉県立保健医療大学生は、卒業時に個人・家族・地域に対し健康的またはその人らしい生活を送るための問題解決と健康増進に向けて、根拠に基づいた適切で有効な健康づくりの支援を提供できる。

V 健康づくりの環境の整備・改善

千葉県立保健医療大学生は、卒業時に人々の健康的またはその人らしい生活を送るための問題解決と健康増進に向けて、健康を志向する地域環境（人・物・制度）の整備・改善に努めることができる。

VI 多職種との協働

千葉県立保健医療大学生は、卒業時に対象者を中心とした安全で質の高い保健・医療・福祉を実践するために、自身の役割を認識し、多職種との相互理解を深めながら行動することができる。

VII 生涯にわたる探究心と自己研鑽

千葉県立保健医療大学生は、卒業時に論理的思考による探究心を身につけ、自己研鑽に励み、自己および専門職として生涯にわたり成長できる資質を示すことができる。

<学士力(コンピテンスの領域、コンピテンシー)>

I 倫理観とプロフェッショナルリズム

卒業生は指導者のもと、以下ができなければならない

- 1.1 対象者の人権を尊重し、多様な価値観や社会的・文化的背景を理解し、思いやりをもって接することができる
- 1.2 対象者のニーズを優先的に考え、誠実かつ公正に対応できる
- 1.3 社会的・法的責任を自覚して、専門職としてその責務を果たすことができる

II コミュニケーション技能

卒業生は指導者のもと、以下ができなければならない

- 2.1 対象者とそれを支える人の個人的、文化的、社会的背景を尊重し、信頼関係を構築できる
- 2.2 対象者とそれを支える人、保健医療専門職からの有効な情報収集と伝達ができる
- 2.3 同一専門職や他の関係職種との間で文章による情報の伝達と共有ができる
- 2.4 国内・外からの情報を入手して、保健医療に活用し発信できる

III 実践に必要な知識

卒業生は指導者のもと、以下の知識等を有し実践に活用できなければならない

- 3.1 学際的な幅広い教養と知識
- 3.2 保健・医療・福祉に関する基礎的な知識
- 3.3 各専門領域における実践活動の基盤となる基礎的知識
- 3.4 各専門領域における実践活動の根拠となる臨床的知識
- 3.5 各専門領域の基礎的知識・専門的知識に基づいた、対象者への適切なアセスメント方法
- 3.6 対象者に合わせた適切なアプローチ方法に関する知識

IV 健康づくりの実践

卒業生は指導者のもと、以下ができなければならない

- 4.1 必要な情報を身体・心理・環境の面から正確に収集、管理できる
- 4.2 収集した情報を専門的知識によりアセスメントできる
- 4.3 アセスメントに基づき健康づくりの目標を設定できる
- 4.4 対象者の状況に合わせた健康づくりの提供計画を立てることができる
- 4.5 対象者が主体的・自律的に健康づくりに取り組めるように説明・支援できる
- 4.6 最新の科学的エビデンスに基づいた健康づくりを提供できる
- 4.7 健康づくりの提供計画に基づき、安全かつ正確な技能により実施できる
- 4.8 目標の達成度や対象者の反応に基づき、健康づくりの評価・修正ができる

V 健康づくりの環境の整備・改善

卒業生は指導者のもと、以下ができなければならない

- 5.1 健康と生活環境との相互作用をアセスメントし、社会・生活の場である地域環境（人・物・制度）の改善に向けて実践できる
- 5.2 健康づくりの提供にあたり、保健医療制度下での経済性・効率性を考慮することができる
- 5.3 現存の支援・サービスの整備・改善に必要な企画・提案ができる

VI 多職種との協働

卒業生は指導者のもと、以下ができなければならない

- 6.1 多職種の専門性と対象者の多様な価値観を理解し、尊重することができる
- 6.2 多職種と交流し、良好な関係を構築することができる
- 6.3 多職種と状況に応じて適切に協働し、問題解決できる
- 6.4 ヘルスケアチームにおける自身の立場・役割を理解し、責任ある行動をとることができる

VII 生涯にわたる探究心と自己研鑽

卒業生は指導者のもと、以下ができなければならない

- 7.1 常に探究心をもち、臨床的あるいは科学的問題を発見し、解決に取り組むことができる
- 7.2 自己主導型学習により常に自己の向上を図ることができる
- 7.3 ワークライフバランスを考えたキャリアを設計し、その達成に向けて自己管理できる
- 7.4 専門職としての自己課題を明確にし、その成長に向けて努力できる

2 看護学科

1 教育理念

高い倫理観と豊かな人間性ととともに、保健医療の高度化・専門化や社会の多様化に対応できる専門的知識と技術を身につけ、地域社会に暮らす個人や家族の健康問題等を広い視点でとらえつつ、確かな看護実践能力を的確に発揮できる人材を育成する。

また、保健医療に精通し、専門職としての責任感や柔軟性を養い、主体的に業務に取り組む力を養い、チームの一員としての役割を果たすことができる能力を備えた人材を育成する。さらに、生涯にわたって自己研鑽できる力を育み、県内の看護職として優れた指導者となりうることはもとより、国際的にも貢献できる高い資質をもった人材に育成し、よって人々の健康や保健医療及び福祉の向上と看護学の発展に貢献する。

2 学科の目的

教育理念を実現するために、以下の人材育成を学科の目的としています。

- (1) 総合的な人間理解を基盤とした高い倫理観をもち、人間への高い関心と思いやりをもって看護を提供できる人材を育成する。
- (2) 幅広い対象の看護ニーズを多角度から把握することのできる人材を育成する。
- (3) 看護専門職として基本的な知識・技術を身につけ、看護実践に生かすことのできる人材を育成する。
- (4) 保健医療を理解し、他職種と連携することのできる人材を育成する。
- (5) 看護専門職としての責任を自覚し、医療チームの一員として柔軟に対応できる人材を育成する。
- (6) 自己学習する態度を身につけ、新しい看護ケアを創造的・研究的に開発し、提供する能力を涵養できる人材を育成する。
- (7) 国際的な視野及び保健医療の企画運営の基礎的能力を養い、県内の指導者としての素養を備えた人材を育成する。

3 教育課程

看護学科における卒業に必要な取得単位数を126単位とする。卒業時には、看護師国家試験の受験資格及び保健師国家試験の受験資格を得ることができる。

【看護学科】

＜教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）＞

看護学科では、総合的な人間理解を基盤に高い倫理観と豊かな人間性を育み、確かな専門知識や技術に基づく看護実践能力を備えた看護職の育成を目指している。また、地域を基盤としたその人らしい生活の実現に向け、質の高い保健医療サービスを提供するための連携能力や、将来、リーダーとなりうる素養を備えた看護職の育成を目指している。

このような教育理念・学科の目的に基づき、ディプロマ・ポリシーを達成するために、以下の方針を基本に据え、カリキュラム（教育課程）を編成する。

- 1 高い倫理観と豊かな人間性を養うとともに、専門分野における知識・技術に加え関連分野の理解を深めることを可能とする系統的で統合性のある編成とする。とりわけ看護学科では、保健医療の高度化・専門化や社会の多様化に対応できる専門的知識と技術を身につけ、人々の健康を広い視点でとらえ、確かな看護実践能力を育む編成とする。
- 2 「特色科目」、「一般教養科目」、「保健医療基礎科目」、「専門科目」の4つの基本的枠組みから構成し、講義、演習、実験・実習を効果的に組合せて行う。
- 3 「特色科目」は、学科の枠を超えたチーム活動を通じて学ぶ、本学独自の科目である。千葉県民の多様な生活と価値観を体験的に学び、千葉県の保健医療福祉施策や実践活動を理解し、多職種連携による保健医療の実践力を修得することを目的とした科目を段階的に配置する。
- 4 「一般教養科目」は、人間や社会を総合的に理解する幅広い教養と知識を身につけ、科学的根拠に基づいた的確な判断や創造的に課題を発見し解決するための汎用的技能を身につけ、多様な人々との相互理解を築くための総合的な力を育成することを目的とした科目を配置する。とりわけ看護学科では、幅広く学問に触れるとともに、看護専門職に求められる多様な人々とのコミュニケーション力と科学的洞察力を育むための科目を必修とする。
- 5 「保健医療基礎科目」は、保健医療専門職として求められる基礎的な知識・技術・態度を学び、その後のより専門的・体系的な学習内容につなげることを目的とした科目を配置する。とりわけ看護学科では、人間のこころと身体を理解し、人々の健康づくりを実践するための基礎を学ぶための科目を必修とする。
- 6 「特色科目」、「一般教養科目」、「保健医療基礎科目」いずれも、他学科・専攻の学生との交流が可能になるよう科目名称を統一し、一緒に受講できるように配置する。
- 7 「専門科目」は、各学科・専攻の専門分野に関して科学的根拠に基づく専門的知識と実践技術を段階的に学び、これらを統合して活用する力を育むとともに、生涯を通じて自己研鑽する力を育むことを目的とした科目を配置する。とりわけ看護学科では、看護専門職として基本的な知識・技術・態度を身につけ、幅広い対象の看護ニーズを多角度から把握し、看護実践に活かすことができる力を育成するために、「専門基礎科目」から「基礎看護科目」、「実践看護科目」、「発展看護科目」へと段階的に科目を配置する。「発展看護科目」は、生涯を通して自己研鑽し、将来、リーダーとして成長できる資質と看護を創造する素地を育むための科目を配置する。
- 8 常に上記の各項目の点検を怠ることなくカリキュラムを運営する。

＜学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）＞

千葉県立保健医療大学健康科学部学位授与の方針に基づき、本学所定の単位を修め、以下に示す成果が得られた学生に卒業と同時に学士（看護学）を授与する。

I 倫理観とプロフェッショナルリズム

看護学科の学生は、卒業時に倫理的な原則を遵守し、専門職としての責務を果たすことができる。

II コミュニケーション能力

看護学科の学生は、卒業時に対象者とそれを支える人、保健・医療・教育・福祉職に対してお互いの立場を尊重した人間関係を構築して、適切にコミュニケーションをとることができる。

III 実践に必要な知識

看護学科の学生は、卒業時にヘルスケア実践や健康づくりに必要な知識を有することができる。

IV 健康づくりの実践

看護学科の学生は、卒業時に個人・家族・地域に対し、より健康的でその人らしい生活を送るために根拠に基づいた適切で有効なヘルスケアを提供できる。

V 健康づくりの環境の整備・改善

看護学科の学生は、卒業時に人々の健康のために、対象者自らが主体的に健康づくりに取り組むことを支援するとともに、健康を志向する環境（人・物・制度）の改善に努めることができる。

VI 多職種との協働

看護学科の学生は、卒業時に対象者を中心とした安全で質の高いヘルスケアを実践するために、自身の役割を認識し、多職種・対象者との相互理解を深めながら行動することができる。

VII 生涯にわたる探究心と自己研鑽

看護学科の学生は、卒業時に論理的思考を身につけ、自己および専門職として生涯にわたり成長できる資質を示すことができる。

別表（看護学科 2025 年度以降 入学生用）

科目区分		授業科目の名称	ページ	配当年次	単位数			授業形態			履修方法等	
					必修	選択	自由	講義	演習	実習・実験		
特色科目		体験ゼミナール	特色 1	1 前	1					○	必修 3 単位	
		千葉県の健康づくり	特色 2	2 後	1				○			
		専門職間の連携活動論	特色 3	4 後	1				○			
		社会実習（ボランティア活動）	特色 4	2・3・4			1			○		
一般教養科目	人間理解群	心理学	一般 1	1・2・3・4 前		2		○			選択 4 単位 (※1)	
		哲学	一般 2	1・2・3・4 前		2		○				
		文学	一般 3	1・2・3・4 前		2		○				
		歴史と文化	一般 4	1・2・3・4 前		2		○				
		生命倫理	一般 5	1・2・3・4 後		2		○				
		宗教学	一般 6	1・2・3・4 後		2		○				
		教育学	一般 7	1・2・3・4 後		2		○				
		人間関係論	一般 8	1・2・3・4 前		2		○				
		コミュニケーション理論と実際	一般 9	1・2・3・4 前		2		○				
		健康スポーツ科学	一般 10	1・2・3・4 前後		1			○			
		生涯身体運動科学	一般 11	1・2・3・4 前後		1			○			
	生活と環境群	生活とデザイン	一般 12	1・2・3・4 後		2		○			選択 6 単位 (※2)	
		法学(日本国憲法)	一般 13	1・2・3・4 前		2		○				
		社会学	一般 14	1・2・3・4 後		2		○				
		文化人類学	一般 15	1・2・3・4 前		2		○				
		経済学	一般 16	1・2・3・4 前		2		○				
		国際関係論	一般 17	1・2・3・4 後		2		○				
		社会福祉学	一般 18	1・2・3・4 前		1		○				
		国際的な健康課題	一般 19	1・2・3・4 後		1		○				
		人権・ジェンダー	一般 20	1・2・3・4 後		2		○				
		科学論	一般 21	1・2・3・4 前		2		○				
		環境変化と生態	一般 22	1・2・3・4 後		2		○				
		観察生物学入門	一般 23	1・2・3・4 前後		2		○				
		生物学	一般 24	1・2・3・4 前後		2		○				
		物理学	一般 25	1・2・3・4 前		2		○				
		化学	一般 26	1・2・3・4 前		2		○				
	情報理解群	統計学	一般 27	1 後	1				○		必修 2 単位	
		情報リテラシーⅠ	一般 28	1 前	1				○			
		情報リテラシーⅡ	一般 29	1・2・3・4 後		1			○			
		情報倫理	一般 30	1・2・3・4 後		1		○				
	外国語群	英語Ⅰ（講読）	一般 32	1・2・3・4 前		1			○		必修 2 単位 ＋ 選択 2 単位	
		英語Ⅱ（英会話）	一般 33	1・2・3・4 前		1			○			
		英語Ⅲ（講読・記述）	一般 34	1・2・3・4 後		1			○			
		英語Ⅳ（英語コミュニケーション）	一般 35	1・2・3・4 後		1			○			
		英語Ⅴ（保健医療英語）	一般 36	2 後	2			○				
		英語Ⅵ（応用英語）	一般 37	1・2・3・4 後		1			○			
		英語Ⅶ（上級英語）A	一般 38	2・3・4 後		1		○				
		英語Ⅶ（上級英語）B	一般 39	2・3・4 後		1		○				

【一般教養科目】選択科目から選択 8 単位

※1 人間理解群における選択科目の履修方法について

「人間関係論」又は「コミュニケーション理論と実際」を含み 4 単位を選択して履修する。

※2 生活と環境群における選択科目の履修方法について

「文化人類学」「国際関係論」「国際的な健康課題」から 1 科目及び生物の科目（「観察生物学入門」又は「生物学」）、「物理学」、「化学」のうち 2 科目を含む 6 単位以上を選択して履修する。

別表（看護学科 2025 年度以降 入学生用）

科目区分		授業科目の名称	ページ	配当年次	単位数			授業形態			履修方法等
					必修	選択	自由	講義	演習	実習・実験	
保健医療基礎科目	人間のこころと身体	運動生理学総論	保健1	2 前		1		○			
		生化学総論	保健2	2 前	1			○			
		栄養学Ⅰ（基礎）	保健3	1 後	1			○			
		栄養学Ⅱ（応用）	保健4	2 後		1		○			
		心の健康	保健5	1・2・3・4 後			1	○			
		薬理学Ⅰ（総論）	保健6	1 後	1			○			
		薬理学Ⅱ（各論）	保健7	1 後	1			○			
		病理学Ⅰ（総論）	保健8	1 前	1			○			
		病理学Ⅱ（各論）	保健9	1 前	1			○			
		微生物学Ⅰ（総論）	保健10	1 前	1			○			
		微生物学Ⅱ（各論）	保健11	1 前	1			○			
		発達心理学	保健12	2 前		1		○			
		臨床心理学	保健13	1 後		1			○		
	健康と保健医療システム	健康論	保健14	1 前		1		○			必修17単位 ＋ 選択2単位
		公衆衛生学Ⅰ（基礎）	保健15	1 前	1			○			
		公衆衛生学Ⅱ（応用）	保健16	1 後	1			○			
		疫学・保健統計Ⅰ（基礎）	保健17	3 前	1			○			
		疫学・保健統計Ⅱ（応用）	保健18	3 前	1			○			
		保健医療情報論		2 後	1			○			
		リハビリテーション概論	保健19	2 後		1		○			
		救命・救急の理論と実際	保健20	2 前	1			○			
		画像診断学	保健21	2 後		1		○			
		保健医療福祉論Ⅰ（基礎）	保健22	2 後	1			○			
		保健医療福祉論Ⅱ（応用）	保健23	2 後	1			○			
		食育論Ⅰ（基礎）	保健24	3 前		1		○			
		食育論Ⅱ（応用）	保健25	3 前		1		○			
		健康と運動	保健26	1 後		1		○			
		家族社会学	保健27	1 前		1		○			
		医療経営管理論	保健28	3 前		1		○			
		リスクマネジメント論	保健29	2 後	1			○			
専門科目	専門基礎科目	人体の構造と機能Ⅰ（総論、外皮・免疫系、消化器系、呼吸器系）	看1	1 前	1			○			【専門科目】 必修77単位 ＋ 選択3単位
		人体の構造と機能Ⅱ（循環器系、腎・泌尿器系、内分泌系、生殖器系）	看2	1 前	1			○			
		人体の構造と機能Ⅲ（造血器系、骨・筋肉系、神経系、感覚器系）	看3	1 後	1			○			
		病態学Ⅰ（内科系疾病論）	看4	2 前	2			○			
		病態学Ⅱ（外科系疾病論）	看5	2 前	2			○			
		病態学Ⅲ（高齢者・精神疾病論）	看6	2 前	1			○			
		臨床検査論	看7	2 前	1			○			
	基礎看護科目	看護学入門	看8	1 前	1			○			
		看護学原論	看9	1 前	1				○		
		看護倫理	看10	2 後	1			○			
		看護技術論Ⅰ（生活援助技術）	看11	1 後	2				○		

別表（看護学科 2025 年度以降 入学生用）

		看護技術論Ⅱ（フィジカルアセスメント技術）	看 12	1 後	1				○		
専門科目	基礎看護科目	看護技術論Ⅲ（検査治療技術）	看 13	2 前	2				○		【専門科目】 (再掲) 必修 7.7 単位 + 選択 3 単位
		看護技術論Ⅳ（看護過程展開技術）	看 14	2 後	1				○		
		看護技術論Ⅴ（統合技術演習）	看 15	2 後	1				○		
		日常生活調整方法論	看 16	2 前		1		○			
		看護学入門実習	看 17	1 前	2					○	
		基礎看護学実習	看 18	2 前	2					○	
	医療生活支援	臨床看護学概論	看 19	2 後	1			○			
		臨床看護学方法論Ⅰ（急性期・がん）	看 20	3 前	2			○			
		臨床看護学方法論Ⅱ（慢性期・終末期）	看 21	3 前	2			○			
		臨床看護学方法論Ⅲ（臨床看護技術演習）	看 22	3 後・4 前	1				○		
		終末期ケア論		3 前		1		○			
		急性期看護学実習	看 24	3 後・4 前	2					○	
		慢性期看護学実習	看 25	3 後・4 前	3					○	
	療養生活支援	精神看護学概論	看 26	1 後	1			○			
		高齢者・在宅看護学概論	看 27	1 後	1			○			
		高齢者看護学方法論Ⅰ		2 後	1			○			
		在宅看護学方法論Ⅰ		2 後	1				○		
		高齢者看護学方法論Ⅱ	看 29	3 前	1				○		
		在宅看護学方法論Ⅱ	看 30	3 前	1				○		
		精神看護学方法論Ⅰ	看 31	2 後	1				○		
		精神看護学方法論Ⅱ	看 32	3 前	1				○		
		退院支援論	看 33	3 前		1		○			
		高齢者看護学実習	看 34	3 後・4 前	3					○	
		在宅看護学実習	看 35	3 後・4 前	1					○	
		精神看護学実習	看 36	3 後・4 前	2					○	
	健康生活支援	地域看護学概論	看 37	2 前	2			○			
		地域看護学方法論Ⅰ	看 38	2 後	1			○			
		地域看護学方法論Ⅱ	看 39	3 前	2			○			
		地域看護学方法論Ⅲ	看 40	3 前	1				○		
		地域看護学実習	看 41	3 後・4 前	3					○	
		看護政策論	看 42	4 前	1			○			
	育成支援	育成期看護概論	看 43	2 前	1			○			
		小児看護学方法論Ⅰ	看 44	2 後	1				○		
		小児看護学方法論Ⅱ	看 45	3 前	1				○		
		小児地域ケア論	看 46	3 前		1		○			
		周産期看護方法論Ⅰ		2 後	1				○		
		周産期看護方法論Ⅱ		3 前	1				○		
		育成期看護実習		3 後・4 前	3					○	
		助産学概論	看 51	3 前		1		○			
		助産診断・技術学Ⅰ	看 52	3 前		1		○			
		助産診断・技術学Ⅱ	看 53	4 前		2			○		

別表（看護学科 2025 年度以降 入学生用）

			助産診断・技術学Ⅲ	看 54	4 通		3			○		
専門科目	実践看護科目	育成支援	助産診断・技術学Ⅳ	看 55	4 後		2			○		【専門科目】 (再掲) 必修 7 7 単位 + 選択 3 単位
			助産学実習Ⅰ（産婦ケア体験）	看 56	3 後		1				○	
			助産学実習Ⅱ（継続支援）	看 57	4 通		2				○	
			助産学実習Ⅲ（産婦ケア）	看 58	4 通		3				○	
	発展看護科目		看護管理論	看 59	4 前	1			○			
			災害看護学	看 60	3 前	1			○			
			看護キャリア発達論	看 61	2 後	1			○			
			看護管理実習	看 62	4 前	1					○	
			総合実習	看 63	4 通	3					○	
			看護研究	看 64	4 通	2				○		
			看護学統合	看 65	4 後	1				○		
			リーダーシップ論	看 66	2 前	1			○			
			国際看護論	看 67	2 前		1		○			
			家族看護論	看 68	2 後		1		○			

先修条件

【特色科目】

- 1 「千葉県の健康づくり」を履修するには「体験ゼミナール」の単位を修得済みであること。
- 2 「社会実習（ボランティア活動）」を履修するには「体験ゼミナール」の単位を修得済みであること。

【一般教養科目】

- 1 「英語Ⅶ(上級英語)A」「英語Ⅶ(上級英語)B」を履修するには「英語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、またはⅥ」の選択 2 単位を修得済みであること。

別表（看護学科 2025 年度以降 入学生用）

先修条件

【専門科目】

- 1 下記の実習科目および「看護学統合」を履修するには、表に示す所定の科目の単位を既に修得していること、又は同じ学期に単位の修得が見込まれていること。

配当年次	授業科目の名称	履修に先立って修得しておかなければならない授業科目の名称																																							
		講義科目												演習科目										実習科目																	
		看護学入門	精神看護学概論	臨床看護学概論	育成期看護概論	地域看護学概論	地域看護学方法論Ⅰ・Ⅱ	高齢者看護学方法論Ⅰ	高齢者・在宅看護概論	臨床看護学方法論Ⅰ	臨床看護学方法論Ⅱ	看護管理論	看護学原論	看護技術論Ⅰ・Ⅲ	看護技術論Ⅳ・Ⅴ	地域看護学方法論Ⅲ	精神看護学方法論Ⅰ・Ⅱ	在宅看護学方法論Ⅰ	高齢者看護学方法論Ⅱ	在宅看護学方法論Ⅱ	周産期看護学方法論Ⅰ・Ⅱ	小児看護学方法論Ⅰ・Ⅱ	臨床看護学方法論Ⅲ	助産診断・技術学Ⅱ	看護学入門実習	基礎看護学実習	急性期看護学実習	慢性期看護学実習	精神看護学実習	在宅看護学実習	地域看護学実習	高齢者看護学実習	育成期看護学実習	助産学実習Ⅰ	総合実習						
1前	看護学入門実習	○																																							
2前	基礎看護学実習	○	○									○	○												○																
3後 ～ 4前	急性期看護学実習			○					○	○				○								○		○	○																
	慢性期看護学実習			○					○	○				○										○	○																
	地域看護学実習					○	○								○	○								○	○																
	精神看護学実習		○												○		○							○	○																
	在宅看護学実習														○			○							○	○															
	高齢者看護学実習							○	○						○				○						○	○															
	育成期看護学実習				○										○						○	○			○	○															
4前	看護管理実習									○																	○	○													
4通	助産学実習Ⅱ																						○											○							
	助産学実習Ⅲ																						○											○							
4後	総合実習看護学統合																								○:選択する領域の実習																○

○：単位を既に修得していること、又は同じ学期に単位の修得が見込まれていること。

別表（看護学科 2025 年度以降 入学生用）

進級要件

以下の要件を満たした者でなければ、3 年次に進級できない。

- 1 1・2 年次に配当された特色科目および保健医療基礎科目の必修科目の単位を修得済みの者。
- 2 1・2 年次に配当された専門科目のうち、専門基礎科目、基礎看護科目の必修科目の単位を修得済みの者。

卒業要件

科目区分	必修科目	選択科目	合 計
特色科目	3 単位	0 単位	3 単位
一般教養科目	4 単位	2 0 単位	2 4 単位
保健医療基礎科目	1 7 単位	2 単位	1 9 単位
専門科目	7 7 単位	3 単位	8 0 単位
合 計	1 0 0 単位	2 6 単位	1 2 6 単位

○ 助産課程に関する特記事項

助産課程選択の場合は、「助産学概論」及び「助産診断・技術学Ⅰ」の計 2 単位を選択必修とするほか、別途、「助産診断・技術学Ⅱ」、「助産診断・技術学Ⅲ」、「助産診断・技術学Ⅳ」及び、「助産学実習Ⅰ（産婦ケア体験）」、「助産学実習Ⅱ（継続支援）」、「助産学実習Ⅲ（産婦ケア）」の計 13 単位が必要である。

○ 養護教諭二種に関する特記事項

「保健師」の免許を基礎資格として「養護教諭二種免許状」を取得する場合、「法学（日本国憲法）」、「健康スポーツ科学」、「生涯身体運動科学」、「英語Ⅴ（保健医療英語）」、「情報リテラシーⅠ」及び「情報リテラシーⅡ」の計 8 単位が必要である。

○ 総合実習と看護学統合に関する特記事項

「総合実習」と「看護学統合」の履修は、卒業に必要な単位の修得が見込まれている必要がある。

別表（看護学科 2021 年度以降 入学生用）

科目区分	授業科目の名称	ページ	配当年次	単位数			授業形態			履修方法等
				必修	選択	自由	講義	演習	実習・実験	
特色科目	体験ゼミナール	特色 1	1 前	1					○	必修 3 単位
	千葉県の健康づくり	特色 2	2 後	1				○		
	専門職間の連携活動論	特色 3	4 後	1				○		
	社会実習（ボランティア活動）	特色 4	2・3・4			1			○	
一般教養科目	人間理解群	心理学	一般 1		2		○			選択 4 単位 (※1)
		哲学	一般 2		2		○			
		文学	一般 3		2		○			
		歴史と文化	一般 4		2		○			
		生命倫理	一般 5		2		○			
		宗教学	一般 6		2		○			
		教育学	一般 7		2		○			
		人間関係論	一般 8		2		○			
		コミュニケーション理論と実際	一般 9		2		○			
		健康スポーツ科学	一般 10		1			○		
		生涯身体運動科学	一般 11		1			○		
	生活と環境群	生活とデザイン	一般 12		2		○			選択 6 単位 (※2)
		法学(日本国憲法)	一般 13		2		○			
		社会学	一般 14		2		○			
		文化人類学	一般 15		2		○			
		経済学	一般 16		2		○			
		国際関係論	一般 17		2		○			
		社会福祉学	一般 18		1		○			
		国際的な健康課題	一般 19		1		○			
		人権・ジェンダー	一般 20		2		○			
		科学論	一般 21		2		○			
		環境変化と生態	一般 22		2		○			
		観察生物学入門	一般 23		2		○			
		生物学	一般 24		2		○			
		物理学	一般 25		2		○			
		化学	一般 26		2		○			
	情報理解群	統計学	一般 27	1 後	1			○		必修 2 単位
		情報リテラシー I	一般 28	1 前	1			○		
		情報リテラシー II	一般 29	1・2・3・4 後	1			○		
		情報倫理	一般 30	1・2・3・4 後	1		○			
		実践統計学	一般 31	2・3・4 前	1		○			
	外国語群	英語 I（講読）	一般 32	1・2・3・4 前		1		○		必修 2 単位 + 選択 2 単位
		英語 II（英会話）	一般 33	1・2・3・4 前		1		○		
		英語 III（講読・記述）	一般 34	1・2・3・4 後		1		○		
		英語 IV（英語コミュニケーション）	一般 35	1・2・3・4 後		1		○		
		英語 V（保健医療英語）	一般 36	2 後	2		○			
		英語 VI（応用英語）	一般 37	1・2・3・4 後		1		○		
		英語 VII（上級英語）A	一般 38	2・3・4 後		1		○		
		英語 VII（上級英語）B	一般 39	2・3・4 後		1		○		

※1 人間理解群における選択科目の履修方法について

「人間関係論」又は「コミュニケーション理論と実際」を含み 4 単位を選択して履修する。

※2 生活と環境群における選択科目の履修方法について

「文化人類学」「国際関係論」「国際的な健康課題」から 1 科目及び生物の科目（「観察生物学入門」又は「生物学」）、「物理学」、「化学」のうち 2 科目を含む 6 単位以上を選択して履修する。

別表（看護学科 2021 年度以降 入学生用）

科目区分	授業科目の名称	ページ	配当年次	単位数			授業形態			履修方法等
				必修	選択	自由	講義	演習	実習・実験	
保健医療基礎科目	人間のこころと身体	運動生理学総論	保健1 2前		1		○			必修16単位 ＋ 選択3単位
		生化学総論	保健2 2前	1			○			
		栄養学Ⅰ（基礎）	保健3 1後	1			○			
		栄養学Ⅱ（応用）	保健4 1後		1		○			
		心の健康	保健5 1・2・3・4後			1	○			
		薬理学Ⅰ（総論）	保健6 1後	1			○			
		薬理学Ⅱ（各論）	保健7 1後	1			○			
		病理学Ⅰ（総論）	保健8 1前	1			○			
		病理学Ⅱ（各論）	保健9 1前	1			○			
		微生物学Ⅰ（総論）	保健10 1前	1			○			
		微生物学Ⅱ（各論）	保健11 1前	1			○			
		発達心理学	保健12 2前		1		○			
		臨床心理学	保健13 1後		1			○		
	健康と保健医療システム	健康論	保健14 1前		1		○			
		公衆衛生学Ⅰ（基礎）	保健15 1前	1			○			
		公衆衛生学Ⅱ（応用）	保健16 2後	1			○			
		疫学・保健統計Ⅰ（基礎）	保健17 3前	1			○			
		疫学・保健統計Ⅱ（応用）	保健18 3前	1			○			
		リハビリテーション概論	保健19 2後		1		○			
		救命・救急の理論と実際	保健20 2前	1			○			
		画像診断学	保健21 2後		1		○			
		保健医療福祉論Ⅰ（基礎）	保健22 2後	1			○			
		保健医療福祉論Ⅱ（応用）	保健23 2後	1			○			
		食育論Ⅰ（基礎）	保健24 3前		1		○			
		食育論Ⅱ（応用）	保健25 3前		1		○			
		健康と運動	保健26 1後		1		○			
		家族社会学	保健27 1前		1		○			
		医療経営管理論	保健28 3前		1		○			
		リスクマネジメント論	保健29 2後	1			○			
専門科目	専門基礎科目	人体の構造と機能Ⅰ（総論、外皮・免疫系、消化器系、呼吸器系）	看1 1前	1			○			【専門科目】 必修77単位 ＋ 選択3単位
		人体の構造と機能Ⅱ（循環器系、腎・泌尿器系、内分泌系、生殖器系）	看2 1前	1			○			
		人体の構造と機能Ⅲ（造血器系、骨・筋肉系、神経系、感覚器系）	看3 1後	1			○			
		病態学Ⅰ（内科系疾病論）	看4 2前	2			○			
		病態学Ⅱ（外科系疾病論）	看5 2前	2			○			
		病態学Ⅲ（高齢者・精神疾病論）	看6 2前	1			○			
		臨床検査論	看7 2前	1			○			
	基礎看護科目	看護学入門	看8 1前	1			○			
		看護学原論	看9 1前	1				○		
		看護倫理	看10 2後	1			○			
		看護技術論Ⅰ（生活援助技術）	看11 1後	2				○		
		看護技術論Ⅱ（フィジカルアセスメント技術）	看12 1後	1				○		

別表（看護学科 2021 年度以降 入学生用）

専門科目	基礎看護科目	看護技術論Ⅲ（検査治療技術）	看 13	2 前	2			○		
		看護技術論Ⅳ（看護過程展開技術）	看 14	2 後	1			○		
		看護技術論Ⅴ（統合技術演習）	看 15	2 後	1			○		
		日常生活調整方法論	看 16	2 前	1		○			
		看護学入門実習	看 17	1 前	2				○	
		基礎看護学実習	看 18	2 前	2				○	
	実践看護科目	医療生活支援	臨床看護学概論	看 19	2 後	1		○		
			臨床看護学方法論Ⅰ（急性期・がん）	看 20	3 前	2		○		
			臨床看護学方法論Ⅱ（慢性期・終末期）	看 21	3 前	2		○		
			臨床看護学方法論Ⅲ（臨床看護技術演習）	看 22	3 後・4 前	1			○	
			ターミナルケア論	看 23	3 前	1		○		
			急性期看護学実習	看 24	3 後・4 前	2			○	
			慢性期看護学実習	看 25	3 後・4 前	3			○	
		療養生活支援	精神看護学概論	看 26	1 後	1		○		
			高齢者・在宅看護学概論	看 27	1 後	1		○		
			高齢者・在宅看護学方法論Ⅰ	看 28	2 後	1			○	
			高齢者看護学方法論Ⅱ	看 29	3 前	1			○	
			在宅看護学方法論Ⅱ	看 30	3 前	1			○	
			精神看護学方法論Ⅰ	看 31	2 後	1			○	
			精神看護学方法論Ⅱ	看 32	3 前	1			○	
			退院支援論	看 33	3 前	1		○		
			高齢者看護学実習	看 34	3 後・4 前	3			○	
			在宅看護学実習	看 35	3 後・4 前	1			○	
			精神看護学実習	看 36	3 後・4 前	2			○	
		健康生活支援	地域看護学概論	看 37	2 前	2		○		
			地域看護学方法論Ⅰ	看 38	2 後	1		○		
			地域看護学方法論Ⅱ	看 39	3 前	2		○		
			地域看護学方法論Ⅲ	看 40	3 前	1			○	
			地域看護学実習	看 41	3 後・4 前	3			○	
			看護政策論	看 42	4 前	1		○		
		育成支援	育成期看護概論	看 43	2 前	1		○		
			小児看護学方法論Ⅰ	看 44	2 後	1			○	
			小児看護学方法論Ⅱ	看 45	3 前	1			○	
			小児地域ケア論	看 46	3 前	1		○		
			母性看護学方法論Ⅰ	看 47	2 後	1			○	
			母性看護学方法論Ⅱ	看 48	3 前	1			○	
			母性看護学実習	看 49	3 後・4 前	2			○	
			小児看護学実習	看 50	3 後・4 前	2			○	
			助産学概論	看 51	3 前	1		○		
			助産診断・技術学Ⅰ	看 52	3 前	1		○		
			助産診断・技術学Ⅱ	看 53	4 前	2			○	
			助産診断・技術学Ⅲ	看 54	4 通	3			○	

【専門科目】
（再掲）
必修 7 7 単位
＋
選択 3 単位

別表（看護学科 2021 年度以降 入学生用）

専門科目	実践看護科目	育成支援	助産診断・技術学Ⅳ	看 55	4 後		2			○		【専門科目】 (再掲) 必修 7 7 単位 + 選択 3 単位
			助産学実習Ⅰ（産婦ケア体験）	看 56	3 後		1				○	
			助産学実習Ⅱ（継続支援）	看 57	4 通		2				○	
			助産学実習Ⅲ（産婦ケア）	看 58	4 通		3				○	
	発展看護科目		看護管理論	看 59	4 前	1			○			
			災害看護学	看 60	3 前	1			○			
			看護キャリア発達論	看 61	2 後	1			○			
			看護管理実習	看 62	4 前	1					○	
			総合実習	看 63	4 通	3					○	
			看護研究	看 64	4 通	2				○		
			看護学統合	看 65	4 後	1				○		
			リーダーシップ論	看 66	2 前	1			○			
			国際看護論	看 67	2 前		1		○			
			家族看護論	看 68	2 後		1		○			

先修条件

【特色科目】

- 1 「千葉県の健康づくり」を履修するには「体験ゼミナール」の単位を修得済みであること。
- 2 「社会実習（ボランティア活動）」を履修するには「体験ゼミナール」の単位を修得済みであること。

【一般教養科目】

- 1 「実践統計学」を履修するには「統計学」の単位を修得済みであること。
- 2 「英語Ⅶ(上級英語)A」「英語Ⅶ(上級英語)B」を履修するには「英語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、またはⅥ」の選択 2 単位を修得済みであること。

別表（看護学科 2021 年度以降 入学生用）

先修条件

【専門科目】

- 1 下記の実習科目および「看護学統合」を履修するには、表に示す所定の科目の単位を既に修得していること、又は同じ学期に単位の修得が見込まれていること。

配当年次	授業科目の名称	履修に先立って修得しておかなければならない 授業科目の名称																																		
		講義科目										演習科目										実習科目														
		看護学入門	精神看護学概論	臨床看護学概論	育成期看護概論	地域看護学概論	地域看護学方法論Ⅰ・Ⅱ	高齢者・在宅看護概論	臨床看護学方法論Ⅰ	臨床看護学方法論Ⅱ	看護管理論	看護学原論	看護技術論Ⅰ～Ⅲ	看護技術論Ⅳ・Ⅴ	地域看護学方法論Ⅲ	精神看護学方法論Ⅰ・Ⅱ	高齢者・在宅看護学方法論Ⅰ	高齢者看護学方法論Ⅱ	在宅看護学方法論Ⅱ	母性看護学方法論Ⅰ・Ⅱ	小児看護学方法論Ⅰ・Ⅱ	臨床看護学方法論Ⅲ	助産診断・技術学Ⅱ	看護学入門実習	基礎看護学実習	急性期看護学実習	慢性期看護学実習	精神看護学実習	在宅看護学実習	地域看護学実習	高齢者看護学実習	母性看護学実習	小児看護学実習	助産学実習Ⅰ	総合実習	
1前	看護学入門実習	○																																		
2前	基礎看護学実習	○	○								○	○												○												
3後～4前	急性期看護学実習			○					○	○			○								○		○	○												
	慢性期看護学実習			○					○	○			○										○	○												
	地域看護学実習					○	○						○	○									○	○												
	精神看護学実習		○										○		○								○	○												
	在宅看護学実習							○					○				○		○				○	○												
	高齢者看護学実習							○					○				○	○					○	○												
	母性看護学実習				○								○							○			○	○												
4前	看護管理実習									○																○	○									
	助産学実習Ⅱ																					○												○		
4通	助産学実習Ⅲ																					○													○	
	総合実習																							○:選択する領域の実習												
4後	看護学統合																									○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

○：単位を既に修得していること、又は同じ学期に単位の修得が見込まれていること。

別表（看護学科 2021 年度以降 入学生用）

進級要件

以下の要件を満たした者でなければ、3 年次に進級できない。

- 1 1・2 年次に配当された特色科目および保健医療基礎科目の必修科目の単位を修得済みの者。
- 2 1・2 年次に配当された専門科目のうち、専門基礎科目、基礎看護科目の必修科目の単位を修得済みの者。

卒業要件

科目区分	必修科目	選択科目	合 計
特色科目	3 単位	0 単位	3 単位
一般教養科目	4 単位	2 0 単位	2 4 単位
保健医療基礎科目	1 6 単位	3 単位	1 9 単位
専門科目	7 7 単位	3 単位	8 0 単位
合 計	1 0 0 単位	2 6 単位	1 2 6 単位

○ 助産課程に関する特記事項

助産課程選択の場合は、「助産学概論」及び「助産診断・技術学Ⅰ」の計 2 単位を選択必修とするほか、別途、「助産診断・技術学Ⅱ」、「助産診断・技術学Ⅲ」、「助産診断・技術学Ⅳ」及び、「助産学実習Ⅰ（産婦ケア体験）」、「助産学実習Ⅱ（継続支援）」、「助産学実習Ⅲ（産婦ケア）」の計 13 単位が必要である。

○ 養護教諭二種に関する特記事項

「保健師」の免許を基礎資格として「養護教諭二種免許状」を取得する場合、「法学（日本国憲法）」、「健康スポーツ科学」、「生涯身体運動科学」、「英語Ⅴ（保健医療英語）」、「情報リテラシーⅠ」及び「情報リテラシーⅡ」の計 8 単位が必要である。

○ 総合実習と看護学統合に関する特記事項

「総合実習」と「看護学統合」の履修は、卒業に必要な単位の修得が見込まれている必要がある。

別表（看護学科 2019・2020 年度 入学生用）

科目区分	授業科目の名称	ページ	配当年次	単位数			授業形態			履修方法等
				必修	選択	自由	講義	演習	実験実習	
特色科目	体験ゼミナール	特色1	1 前	1					○	必修3単位
	千葉県の健康づくり	特色2	2 後	1				○		
	専門職間の連携活動論	特色3	4 後	1				○		
	社会実習（ボランティア活動）	特色4	2・3・4			1			○	
一般教養科目	人間理解群	心理学	一般1	1・2・3・4 前		2		○		選択 4単位 (※1)
		哲学	一般2	1・2・3・4 前		2		○		
		文学	一般3	1・2・3・4 前		2		○		
		歴史と文化	一般4	1・2・3・4 前		2		○		
		生命倫理	一般5	1・2・3・4 後		2		○		
		宗教学	一般6	1・2・3・4 後		2		○		
		教育学	一般7	1・2・3・4 後		2		○		
		人間関係論	一般8	1・2・3・4 前		2		○		
		コミュニケーション理論と実際	一般9	1・2・3・4 前		2		○		
		健康スポーツ科学	一般10	1・2・3・4 前後		1			○	
		生涯身体運動科学	一般11	1・2・3・4 前後		1			○	
	生活と環境群	生活とデザイン	一般12	1・2・3・4 後		2		○		選択 6単位 (※2)
		法学(日本国憲法)	一般13	1・2・3・4 前		2		○		
		社会学	一般14	1・2・3・4 後		2		○		
		文化人類学	一般15	1・2・3・4 前		2		○		
		経済学	一般16	1・2・3・4 前		2		○		
		国際関係論	一般17	1・2・3・4 後		2		○		
		社会福祉学	一般18	1・2・3・4 前		1		○		
		国際的な健康課題	一般19	1・2・3・4 後		1		○		
		人権・ジェンダー	一般20	1・2・3・4 後		2		○		
		科学論	一般21	1・2・3・4 前		2		○		
		環境変化と生態	一般22	1・2・3・4 後		2		○		
		観察生物学入門	一般23	1・2・3・4 前後		2		○		
		生物学	一般24	1・2・3・4 前後		2		○		
		物理学	一般25	1・2・3・4 前		2		○		
		化学	一般26	1・2・3・4 前		2		○		
	情報理解群	統計学	一般27	1 後	1				○	必修 2単位
		情報リテラシーⅠ	一般28	1 前	1				○	
		情報リテラシーⅡ	一般29	1・2・3・4 後		1			○	
		情報倫理	一般30	1・2・3・4 後		1		○		
		実践統計学	一般31	2・3・4 前		1		○		
	外国語群	英語Ⅰ（講読）	一般32	1・2・3・4 前		1			○	必修 2単位 ＋ 選択 2単位
		英語Ⅱ（英会話）	一般33	1・2・3・4 前		1			○	
		英語Ⅲ（講読・記述）	一般34	1・2・3・4 後		1			○	
		英語Ⅳ（英語コミュニケーション）	一般35	1・2・3・4 後		1			○	
		英語Ⅴ（保健医療英語）	一般36	2 後	2			○		
		英語Ⅵ（応用英語）	一般37	1・2・3・4 後		1			○	
		英語Ⅶ（上級英語）A	一般38	2・3・4 後		1		○		
		英語Ⅶ（上級英語）B	一般39	2・3・4 後		1		○		

※1 人間理解群における選択科目の履修方法について

「人間関係論」又は「コミュニケーション理論と実際」を含み4単位を選択して履修する。

※2 生活と環境群における選択科目の履修方法について

「文化人類学」「国際関係論」「国際的な健康課題」から1科目及び生物の科目（「観察生物学入門」又は「生物学」）、「物理学」、「化学」のうち2科目を含む6単位以上を選択して履修する。

別表（看護学科 2019・2020 年度 入学生用）

科目区分	授業科目の名称	ページ	配当年次	単位数			授業形態			履修方法等
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	
保健医療基礎科目	人間のこころと身体	運動生理学総論	保健1 2前		1		○			必修16単位 ＋ 選択4単位
		生化学総論	保健2 2前	1			○			
		栄養学Ⅰ（基礎）	保健3 1後	1			○			
		栄養学Ⅱ（応用）	保健4 1後		1		○			
		心の健康	保健5 1・2・3・4後			1	○			
		薬理学Ⅰ（総論）	保健6 1後	1			○			
		薬理学Ⅱ（各論）	保健7 1後	1			○			
		病理学Ⅰ（総論）	保健8 1前	1			○			
		病理学Ⅱ（各論）	保健9 1前	1			○			
		微生物学Ⅰ（総論）	保健10 1前	1			○			
		微生物学Ⅱ（各論）	保健11 1前	1			○			
		発達心理学	保健12 2前		1		○			
		臨床心理学	保健13 1後		1			○		
	健康と保健医療システム	健康論	保健14 1前		1		○			
		公衆衛生学Ⅰ（基礎）	保健15 1前	1			○			
		公衆衛生学Ⅱ（応用）	保健16 2後	1			○			
		疫学・保健統計Ⅰ（基礎）	保健17 3前	1			○			
		疫学・保健統計Ⅱ（応用）	保健18 3前	1			○			
		リハビリテーション概論	保健19 2後		1		○			
		救命・救急の理論と実際	保健20 2前	1			○			
		画像診断学	保健21 2後		1		○			
		保健医療福祉論Ⅰ（基礎）	保健22 2後	1			○			
		保健医療福祉論Ⅱ（応用）	保健23 2後	1			○			
		食育論Ⅰ（基礎）	保健24 3前		1		○			
		食育論Ⅱ（応用）	保健25 3前		1		○			
		健康と運動	保健26 1後		1		○			
		家族社会学	保健27 1前		1		○			
		医療経営管理論	保健28 3前		1		○			
		リスクマネジメント論	保健29 2後	1			○			
専門科目	専門基礎科目	人体の構造と機能Ⅰ（総論、外皮・免疫系、消化器系、呼吸器系）	看1 1前	1			○			【専門科目】 必修76単位 ＋ 選択3単位
		人体の構造と機能Ⅱ（循環器系、腎・泌尿器系、内分泌系、生殖器系）	看2 1前	1			○			
		人体の構造と機能Ⅲ（造血器系、骨・筋肉系、神経系、感覚器系）	看3 1後	1			○			
		病態学Ⅰ（内科系疾病論）	看4 2前	2			○			
		病態学Ⅱ（外科系疾病論）	看5 2前	2			○			
		病態学Ⅲ（高齢者・精神疾病論）	看6 2前	1			○			
		臨床検査論	看7 2前	1			○			
	基礎看護科目	看護学入門	看8 1前	1			○			
		看護学原論	看9 1前	1				○		
		看護倫理	看10 2後	1			○			
		看護技術論Ⅰ（生活援助技術）	看11 1後	2				○		
		看護技術論Ⅱ（フィジカルアセスメント技術）	看12 1後	1				○		

別表（看護学科 2019・2020 年度 入学生用）

専門科目	基礎看護科目	看護技術論Ⅲ（検査治療技術）	看 13	2 前	2			○			
		看護技術論Ⅳ（看護過程展開技術）	看 14	2 後	1			○			
		看護技術論Ⅴ（統合技術演習）	看 15	2 後	1			○			
		日常生活調整方法論	看 16	2 前		1	○				
		看護学入門実習	看 17	1 前	2					○	
		基礎看護学実習	看 18	2 前	2					○	
専門科目	医療生活支援	臨床看護学概論	看 19	2 後	1			○			
		臨床看護学方法論Ⅰ（急性期・がん）	看 20	3 前	2			○			
		臨床看護学方法論Ⅱ（慢性期・終末期）	看 21	3 前	2			○			
		臨床看護学方法論Ⅲ（臨床看護技術演習）	看 22	3 後・4 前	1				○		
		ターミナルケア論	看 23	3 前		1	○				
		急性期看護学実習	看 24	3 後・4 前	2					○	
		慢性期看護学実習	看 25	3 後・4 前	3					○	
	療養生活支援	精神看護学概論	看 26	1 後	1			○			
		高齢者・在宅看護学概論	看 27	1 後	1			○			
		高齢者・在宅看護学方法論Ⅰ	看 28	2 後	1				○		
		高齢者看護学方法論Ⅱ	看 29	3 前	1				○		
		在宅看護学方法論Ⅱ	看 30	3 前	1				○		
		精神看護学方法論Ⅰ	看 31	2 後	1				○		
		精神看護学方法論Ⅱ	看 32	3 前	1				○		
		退院支援論	看 33	3 前		1	○				
		高齢者看護学実習	看 34	3 後・4 前	3					○	
		在宅看護学実習	看 35	3 後・4 前	1					○	
		精神看護学実習	看 36	3 後・4 前	2					○	
	健康生活支援	地域看護学概論	看 37	2 前	2			○			
		地域看護学方法論Ⅰ	看 38	2 後	1			○			
		地域看護学方法論Ⅱ	看 39	3 前	2			○			
		地域看護学方法論Ⅲ	看 40	3 前	1				○		
		地域看護学実習	看 41	3 後・4 前	3					○	
		看護政策論	看 42	4 前		1	○				
	育成支援	育成期看護学概論	看 43	2 前	1			○			
		小児看護学方法論Ⅰ	看 44	2 後	1				○		
		小児看護学方法論Ⅱ	看 45	3 前	1				○		
		小児地域ケア論	看 46	3 前		1	○				
		母性看護学方法論Ⅰ	看 47	2 後	1				○		
		母性看護学方法論Ⅱ	看 48	3 前	1				○		
		母性看護学実習	看 49	3 後・4 前	2					○	
		小児看護学実習	看 50	3 後・4 前	2					○	
		助産学概論	看 51	3 前		1	○				
		助産診断・技術学Ⅰ	看 52	3 前		1	○				
		助産診断・技術学Ⅱ	看 53	4 前		2			○		
		助産診断・技術学Ⅲ	看 54	4 通		2			○		
		助産診断・技術学Ⅳ	看 55	4 後		2			○		
		助産学実習Ⅰ（産婦ケア体験）	看 56	3 後		1				○	
		助産学実習Ⅱ（継続支援）	看 57	4 通		2				○	
		助産学実習Ⅲ（産婦ケア）	看 58	4 通		3				○	

【専門科目】
（再掲）
必修76単位
＋
選択3単位

別表（看護学科 2019・2020 年度 入学生用）

発展看護科目	看護管理論	看 59	4 前	1			○			
	災害看護学	看 60	3 前	1			○			
	看護キャリア発達論	看 61	2 後	1			○			
	看護管理実習	看 62	4 前	1					○	
	総合実習	看 63	4 通	3					○	
	看護研究	看 64	4 通	2				○		
	看護学統合	看 65	4 後	1				○		
	リーダーシップ論	看 66	2 前	1			○			
	国際看護論	看 67	2 前		1		○			
	家族看護論	看 68	2 後		1		○			

先修条件

【特色科目】

- 1 「千葉県の健康づくり」を履修するには「体験ゼミナール」の単位を修得済みであること。
- 2 「社会実習（ボランティア活動）」を履修するには「体験ゼミナール」の単位を修得済みであること。

【一般教養科目】

- 1 「実践統計学」を履修するには「統計学」の単位を修得済みであること。
- 2 「英語Ⅶ(上級英語)A」「英語Ⅶ(上級英語)B」を履修するには「英語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、またはⅥ」の選択2単位を修得済みであること。

別表（看護学科 2019・2020 年度 入学生用）

先修条件

【専門科目】

- 1 下記の実習科目および「看護学統合」を履修するには、表に示す所定の科目の単位を既に修得していること、又は同じ学期に単位の修得が見込まれていること。

配当年次	授業科目の名称	履修に先立って修得しておかなければならない 授業科目の名称																																	
		講義科目										演習科目										実習科目													
		看護学入門	精神看護学概論	臨床看護学概論	育成期看護概論	地域看護学概論	地域看護学方法論Ⅰ・Ⅱ	高齢者・在宅看護概論	臨床看護学方法論Ⅰ	臨床看護学方法論Ⅱ	看護管理論	看護学原論	看護技術論Ⅰ～Ⅲ	看護技術論Ⅳ・Ⅴ	地域看護学方法論Ⅲ	精神看護学方法論Ⅰ・Ⅱ	高齢者・在宅看護学方法論Ⅰ	高齢者看護学方法論Ⅱ	在宅看護学方法論Ⅱ	母性看護学方法論Ⅰ・Ⅱ	小児看護学方法論Ⅰ・Ⅱ	臨床看護学方法論Ⅲ	助産診断・技術学Ⅱ	看護学入門実習	基礎看護学実習	急性期看護学実習	慢性期看護学実習	精神看護学実習	在宅看護学実習	地域看護学実習	高齢者看護学実習	母性看護学実習	小児看護学実習	助産学実習Ⅰ	総合実習
1前	看護学入門実習	○																																	
2前	基礎看護学実習	○	○								○	○												○											
3後～4前	急性期看護学実習			○					○	○			○								○		○	○											
	慢性期看護学実習			○					○	○			○										○	○											
	地域看護学実習					○	○						○	○									○	○											
	精神看護学実習		○										○		○								○	○											
	在宅看護学実習							○					○			○		○	○				○	○											
	高齢者看護学実習							○					○			○	○						○	○											
	母性看護学実習				○								○							○			○	○											
	小児看護学実習				○								○								○			○	○										
4前	看護管理実習									○																○	○								
4通	助産学実習Ⅱ																					○												○	
	助産学実習Ⅲ																					○												○	
4後	総合実習																							○:選択する領域の実習											
	看護学統合																								○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

○：単位を既に修得していること、又は同じ学期に単位の修得が見込まれていること。

別表（看護学科 2019・2020 年度 入学生用）

進級要件

以下の要件を満たした者でなければ、3年次に進級できない。

- 1 1・2年次に配当された特色科目および保健医療基礎科目の必修科目の単位を修得済みの者。
- 2 1・2年次に配当された専門科目のうち、専門基礎科目、基礎看護科目の必修科目の単位を修得済みの者。

卒業要件

科目区分	必修科目	選択科目	合 計
特色科目	3 単位	0 単位	3 単位
一般教養科目	4 単位	2 0 単位	2 4 単位
保健医療基礎科目	1 6 単位	4 単位	2 0 単位
専門科目	7 6 単位	3 単位	7 9 単位
合 計	9 9 単位	2 7 単位	1 2 6 単位

○ 助産課程に関する特記事項

助産課程選択の場合は、「助産学概論」及び「助産診断・技術学Ⅰ」の計2単位を選択必修とするほか、別途、「助産診断・技術学Ⅱ」、「助産診断・技術学Ⅲ」、「助産診断・技術学Ⅳ」及び、「助産学実習Ⅰ（産婦ケア体験）」、「助産学実習Ⅱ（継続支援）」、「助産学実習Ⅲ（産婦ケア）」の計12単位が必要である。

○ 養護教諭二種に関する特記事項

「保健師」の免許を基礎資格として「養護教諭二種免許状」を取得する場合、「法学（日本国憲法）」、「健康スポーツ科学」、「生涯身体運動科学」、「英語Ⅴ（保健医療英語）」、「情報リテラシーⅠ」及び「情報リテラシーⅡ」の計8単位が必要である。

○ 総合実習と看護学統合に関する特記事項

「総合実習」と「看護学統合」の履修は、卒業に必要な単位の修得が見込まれている必要がある。

別表（看護学科 2023 年度以降 編入学生用）

科目区分	授業科目の名称	ページ	配当年次	単位数			授業形態			履修方法等
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	
特色科目	体験ゼミナール	特色 1	3 前	1					○	必修 3 単位
	千葉県の健康づくり	特色 2	3 後	1				○		
	専門職間の連携活動論	特色 3	4 後	1				○		
	社会実習（ボランティア活動）	特色 4	4			1			○	
一般教養科目	人間理解群	心理学	一般 1	3・4 前		2		○		選択 4 単位 (※1)
		哲学	一般 2	3・4 前		2		○		
		文学	一般 3	3・4 前		2		○		
		歴史と文化	一般 4	3・4 前		2		○		
		生命倫理	一般 5	3・4 後		2		○		
		宗教学	一般 6	3・4 後		2		○		
		教育学	一般 7	3・4 後		2		○		
		人間関係論	一般 8	3・4 前		2		○		
		コミュニケーション理論と実際	一般 9	3・4 前		2		○		
		健康スポーツ科学	一般 10	3・4 後		1			○	
		生涯身体運動科学	一般 11	3・4 前後		1			○	
	生活と環境群	生活とデザイン	一般 12	3・4 後		2		○		選択 6 単位 (※2)
		法学(日本国憲法)	一般 13	3・4 前		2		○		
		社会学	一般 14	3・4 後		2		○		
		文化人類学	一般 15	3・4 前		2		○		
		経済学	一般 16	3・4 前		2		○		
		国際関係論	一般 17	3・4 後		2		○		
		社会福祉学	一般 18	3・4 前		1		○		
		国際的な健康課題	一般 19	3・4 後		1		○		
		人権・ジェンダー	一般 20	3・4 後		2		○		
		科学論	一般 21	3・4 前		2		○		
		環境変化と生態	一般 22	3・4 後		2		○		
		観察生物学入門	一般 23	3・4 前後		2		○		
		生物学	一般 24	3・4 前後		2		○		
		物理学	一般 25	3・4 前		2		○		
		化学	一般 26	3・4 前		2		○		
	情報理解群	統計学	一般 27	3・4 後	1				○	必修 2 単位
		情報リテラシー I	一般 28	3 前	1				○	
		情報リテラシー II	一般 29	3・4 後		1			○	
		情報倫理	一般 30	3・4 後		1		○		
		実践統計学	一般 31	4 前		1		○		
	外国語群	英語 I（講読）	一般 32	3・4 前		1			○	必修 2 単位 ＋ 選択 2 単位
		英語 II（英会話）	一般 33	3・4 前		1			○	
		英語 III（講読・記述）	一般 34	3・4 後		1			○	
		英語 IV（英語コミュニケーション）	一般 35	3・4 後		1			○	
		英語 V（保健医療英語）	一般 36	3 後	2			○		
		英語 VI（応用英語）	一般 37	3・4 後		1			○	
		英語 VII（上級英語）A	一般 38	4 後		1		○		
		英語 VII（上級英語）B	一般 39	4 後		1		○		

※1 人間理解群における選択科目の履修方法について

「人間関係論」又は「コミュニケーション理論と実際」を含み 4 単位を選択して履修する。

※2 生活と環境群における選択科目の履修方法について

「文化人類学」「国際関係論」「国際的な健康課題」から 1 科目及び生物の科目（「観察生物学入門」又は「生物学」）、「物理学」、
「化学」のうち 2 科目を含む 6 単位以上を選択して履修する。

別表（看護学科 2023 年度以降 編入学生用）

科目区分		授業科目の名称	ページ	配当年次	単位数			授業形態			履修方法等
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	
保健医療基礎科目	人間のこころと身体	運動生理学総論	保健 1	3 前		1		○			必修 16 単位 ＋ 選択 3 単位
		生化学総論	—	—	1			○			
		栄養学Ⅰ（基礎）	—	—	1			○			
		栄養学Ⅱ（応用）		3 後		1		○			
		薬理学Ⅰ（総論）	—	—	1			○			
		薬理学Ⅱ（各論）	—	—	1			○			
		病理学Ⅰ（総論）	—	—	1			○			
		病理学Ⅱ（各論）	—	—	1			○			
		微生物学Ⅰ（総論）	—	—	1			○			
		微生物学Ⅱ（各論）	—	—	1			○			
		発達心理学	保健 12	4 前		1		○			
		臨床心理学	保健 13	3 後		1			○		
	健康と保健医療システム	健康論	保健 14	3 前		1		○			
		公衆衛生学Ⅰ（基礎）		—	1			○			
		公衆衛生学Ⅱ（応用）		—	1			○			
		疫学・保健統計Ⅰ（基礎）	保健 17	3 前	1			○			
		疫学・保健統計Ⅱ（応用）	保健 18	3 前	1			○			
		リハビリテーション概論	保健 19	3 後		1		○			
		救命・救急の理論と実際	保健 20	3 前	1			○			
		画像診断学	保健 21	3 後		1		○			
		保健医療福祉論Ⅰ（基礎）	保健 22	3 後	1			○			
		保健医療福祉論Ⅱ（応用）	保健 23	3 後	1			○			
		食育論Ⅰ（基礎）	保健 24	3 前		1		○			
		食育論Ⅱ（応用）	保健 25	3 前		1		○			
		健康と運動	保健 26	3 後		1		○			
		家族社会学	保健 27	3 前		1		○			
		医療経営管理論	保健 28	3 前		1		○			
		リスクマネジメント論	保健 29	3 後	1			○			
専門科目	専門基礎科目	人体の構造と機能Ⅰ（総論、外皮・免疫系、消化器系、呼吸器系）	—	—	1			○			【専門科目】 必修 77 単位 ＋ 選択 3 単位
		人体の構造と機能Ⅱ（循環器系、腎・泌尿器系、内分泌系、生殖器系）	—	—	1			○			
		人体の構造と機能Ⅲ（造血器系、骨・筋肉系、神経系、感覚器系）	—	—	1			○			
		病態学Ⅰ（内科系疾病論）	—	—	2			○			
		病態学Ⅱ（外科系疾病論）	—	—	2			○			
		病態学Ⅲ（高齢者・精神疾病論）	—	—	1			○			
		臨床検査論	—	—	1			○			
	基礎看護科目	看護学入門	—	—	1			○			
		看護学原論	—	—	1				○		
		看護倫理	看 10	3 後	1			○			
		看護技術論Ⅰ（生活援助技術）	—	—	2				○		
		看護技術論Ⅱ（フィジカルアセスメント技術）	—	—	1				○		

別表（看護学科 2023 年度以降 編入学生用）

科目区分	授業科目の名称	ページ	配当年次	単位数			授業形態			履修方法等
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	
専門科目	基礎看護科目	看護技術論Ⅲ（検査治療技術）	—	—	2			○		【専門科目】 （再掲） 必修 77 単位 ＋ 選択 3 単位
		看護技術論Ⅳ（看護過程展開技術）	—	—	1			○		
		看護技術論Ⅴ（統合技術演習）	—	—	1			○		
		日常生活調整方法論	看 16	3・4 前	1		○			
		看護学入門実習	—	—	2				○	
		基礎看護学実習	—	—	2				○	
	医療生活支援	臨床看護学概論	看 19	3 後	1		○			
		臨床看護学方法論Ⅰ（急性期・がん）	—	—	2		○			
		臨床看護学方法論Ⅱ（慢性期・終末期）	—	—	2		○			
		臨床看護学方法論Ⅲ（臨床看護技術演習）	—	—	1			○		
		ターミナルケア論	看 23	3・4 前	1		○			
		急性期看護学実習	—	—	2				○	
		慢性期看護学実習	—	—	3				○	
	療養生活支援	精神看護学概論	看 28	3 後	1		○			
		高齢者・在宅看護学概論	看 29	3 後	1		○			
		高齢者・在宅看護学方法論Ⅰ	—	—	1			○		
		高齢者看護学方法論Ⅱ	—	—	1			○		
		在宅看護学方法論Ⅱ	—	—	1			○		
		精神看護学方法論Ⅰ	—	—	1			○		
		精神看護学方法論Ⅱ	—	—	1			○		
		退院支援論	看 35	3・4 前	1		○			
		高齢者看護学実習	—	—	3				○	
		在宅看護学実習	—	—	1				○	
		精神看護学実習	—	—	2				○	
	健康生活支援	地域看護学概論	看 39	3 前	2		○			
		地域看護学方法論Ⅰ	看 40	3 後	1		○			
		地域看護学方法論Ⅱ	看 41	3 前	2		○			
		地域看護学方法論Ⅲ	看 42	3 前	1			○		
		地域看護学実習	看 43	3 後	3				○	
		看護政策論	看 62	3・4 前	1		○			
	育成支援	育成期看護概論	看 44	3 前	1		○			
		小児看護学方法論Ⅰ	—	—	1			○		
		小児看護学方法論Ⅱ	—	—	1			○		
		小児地域ケア論	看 47	3・4 前	1		○			
		母性看護学方法論Ⅰ	—	—	1			○		
		母性看護学方法論Ⅱ	—	—	1			○		
		母性看護学実習	—	—	2				○	
		小児看護学実習	—	—	2				○	
		助産学概論	看 52	3 前	1		○			
		助産診断・技術学Ⅰ	看 53	3 前	1		○			

別表（看護学科 2023 年度以降 編入学生用）

科目区分		授業科目の名称	ページ	配当年次	単位数			授業形態			履修方法等
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	
専門科目	発展看護科目	看護管理論	—	4 前	1			○			【専門科目】 (再掲) 必修 77 単位 + 選択 3 単位
		災害看護学	看 63	3 前	1			○			
		看護キャリア発達論	看 64	3 後	1			○			
		看護管理実習	—	4 前	1					○	
		総合実習	—	4 通	3					○	
		看護研究	看 67	4 通	2				○		
		看護学統合	看 68	4 後	1				○		
		リーダーシップ論	看 69	3・4 前	1			○			
		国際看護論	看 72	3 前		1		○			
		家族看護論	看 73	3 後		1		○			

先修条件

【特色科目】

- 1 「千葉県の健康づくり」を履修するには「体験ゼミナール」の単位を修得済みであること。
- 2 「専門職間の関係活動論」を履修するには「体験ゼミナール」、「千葉県の健康づくり」の単位を修得済みであること。
- 3 「社会実習（ボランティア活動）」を履修するには「体験ゼミナール」の単位を修得済みであること。

【一般教養科目】

- 1 「実践統計学」を履修するには「統計学」の単位を修得済みであること。
- 2 「英語Ⅶ(上級英語)A」「英語Ⅶ(上級英語)B」を履修するには「英語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、またはⅥ」の選択 2 単位を修得済みであること。

別表（看護学科 2023 年度以降 編入学生用）

先修条件

【専門科目】

1 下記の実習科目および「看護学統合」を履修するには、表に示す所定の科目の単位を既に修得していること、又は同じ学期に単位の修得が見込まれていること。

配当 年次	授業科目の名称	履修に先立って修得しておかなければならない 授業科目の名称																																						
		講義科目								演習科目								実習科目																						
		看護学入門	精神看護学概論	臨床看護学概論	育成期看護概論	地域看護学概論	地域看護学方法論Ⅰ・Ⅱ	高齢者・在宅看護概論	臨床看護学方法論Ⅰ	臨床看護学方法論Ⅱ	看護管理論	看護学原論	看護技術論Ⅰ～Ⅲ	看護技術論Ⅳ・Ⅴ	地域看護学方法論Ⅲ	精神看護学方法論Ⅰ・Ⅱ	高齢者・在宅看護学方法論Ⅰ	高齢者看護学方法論Ⅱ	在宅看護学方法論Ⅱ	母性看護学方法論Ⅰ・Ⅱ	小児看護学方法論Ⅰ・Ⅱ	臨床看護学方法論Ⅲ	助産診断・技術学Ⅱ	看護学入門実習	基礎看護学実習	急性期看護学実習	慢性期看護学実習	精神看護学実習	在宅看護学実習	地域看護学実習	高齢者看護学実習	母性看護学実習	小児看護学実習	助産学実習Ⅰ	総合実習					
1前	看護学入門実習	○																																						
2前	基礎看護学実習	○	○								○	○												○																
3後 ～ 4前	急性期看護学実習			○				○	○			○									○		○	○																
	慢性期看護学実習			○					○			○											○	○																
	地域看護学実習					○	○						○	○									○	○																
	精神看護学実習		○										○		○								○	○																
	在宅看護学実習						○						○			○	○						○	○																
	高齢者看護学実習							○					○			○	○						○	○																
	母性看護学実習				○								○						○				○	○																
	小児看護学実習				○								○							○				○	○															
4前	看護管理実習								○																○	○														
4通	助産学実習Ⅱ																					○												○						
	助産学実習Ⅲ																					○												○						
4後	総合実習																							○:選択する領域の実習																
	看護学統合																									○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				

○：単位を既に修得していること、又は同じ学期に単位の修得が見込まれていること。

別表（看護学科 2023 年度以降 編入学生用）

卒業要件

科目区分	必修科目	選択科目	合 計
特色科目	3 単位	0 単位	3 単位
一般教養科目	4 単位	20 単位	24 単位
保健医療基礎科目	16 単位	3 単位	20 単位
専門科目	77 単位	3 単位	79 単位
合 計	100 単位	26 単位	126 単位

○ 養護教諭二種に関する特記事項

「保健師」の免許を基礎資格として「養護教諭二種免許状」を取得する場合、「法学（日本国憲法）」、「健康スポーツ科学」、「生涯身体運動科学」、「英語Ⅴ（保健医療英語）」、「情報リテラシーⅠ」及び「情報リテラシーⅡ」の計 8 単位が必要である。

3 栄養学科

1 教育理念

心身の健康に大きく貢献する望ましい食事を基本として、人の栄養状態を適正化することは、健康の創造、維持、増進、疾病の予防、治療、再発防止、さらには介護にとっても重要である。栄養学科では、生命科学を基本とし、基礎栄養学分野、応用栄養学分野を総合的に学び、望ましい食事及び人の栄養状態を適正化する方法を総合的・科学的に探究する。豊かな人間性、人間の尊厳への理解、高い倫理観を伴うすぐれた専門的知識・技術を身につけた管理栄養士として、対象の個性性に配慮しながら個人・家族・地域社会の健康づくりへ貢献できる人材を育成する。さらに、誇りと自信をもち、主体的に成長し続けることができる人材を育成し、国際的視野を持ちながら、栄養学と保健医療に持続的に貢献する。

2 学科の目的

教育理念を実現するために、以下の人材育成を学科の目的としています。

- (1) 保健医療の専門家にとって基本となる多様な教養と知識を身につけ、温かみがあり人間性豊かな人材を育成する。
- (2) 管理栄養士に必要とされる、科学的根拠に基づく専門的知識や技能、考え方及び対処法など、総合的能力を身につけた人材を育成する。
- (3) 疾患のある人々及び児童・生徒とのコミュニケーションを円滑に進め、対象者の望む生き方を把握・尊重した上で、多職種で連携しチームとして支援していく能力のある人材を育成する。
- (4) 保健医療と福祉について理解を深め、保健・医療・福祉・教育システムの中で、栄養・給食関連サービスのマネジメントを自ら継続的に行うことができる人材を育成する。
- (5) 国際的視野を持ちながら栄養や食育について学問的に発展させる創造力をもち、健康の保持増進、疾病の一次、二次、三次予防のための栄養指導を地域の人々を対象に行うことができる人材を育成する。

3 教育課程

栄養学科における卒業に必要な取得単位数を126単位とする。卒業時には、管理栄養士国家試験の受験資格、申請により栄養士免許を得ることができる。また、卒業要件の単位に加え、選択により栄養教諭課程必修科目23単位を履修・取得した場合、栄養教諭一種免許を取得できる。

平成31年度入学生からは、卒業時に食品衛生管理者及び食品衛生監視員の任用資格を取得することができる。

【栄養学科】

＜教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）＞

栄養学科では、専門的知識・技術の修得のみならず、豊かな人間性と高い倫理観を備えた管理栄養士として他職種と連携し、健康づくりへ貢献し、さらに主体的に成長し続けることができる人材の育成を目指している。

このような教育理念・学部目的に基づき、ディプロマ・ポリシーを達成するために、以下の方針を基本に据え、カリキュラム（教育課程）を編成する。

- 1 高い倫理観と豊かな人間性を養うとともに、専門分野における知識・技術に加え関連分野の理解を深めることを可能とする系統的で統合性のある編成とする。とりわけ栄養学科では、1年次に管理栄養士を目指す意義を確認するための導入教育を実施し、学年進行に沿って講義だけでなく演習や実験・実習による自己主導型学習を取り入れ、3年次にこれらで得られた専門知識及び実践技術を統合した臨地実習を行う。
- 2 「特色科目」、「一般教養科目」、「保健医療基礎科目」、「専門科目」の4つの基本的枠組みから構成し、講義、演習、実験・実習を効果的に組合せて行う。
- 3 「特色科目」は、学科の枠を超えたチーム活動を通じて学ぶ、本学独自の科目である。千葉県民の多様な生活と価値観を体験的に学び、千葉県の保健医療福祉施策や実践活動を理解し、多職種連携による保健医療の実践力を修得することを目的とした科目を段階的に配置する。
- 4 「一般教養科目」は、人間や社会を総合的に理解する幅広い教養と知識を身につけ、科学的根拠に基づいた的確な判断や創造的に課題を発見し解決するための汎用的技能を身につけ、多様な人々との相互理解を築くための総合的な力を育成することを目的とした科目を配置する。とりわけ栄養学科では、栄養学を学ぶ上で基盤となる基礎的な知識、倫理観や社会性、コミュニケーション能力を身につけるため、人間理解群・生活と環境群・情報理解群・外国語群から構成する選択科目を必修とする。
- 5 「保健医療基礎科目」は、保健医療専門職として求められる基礎的な知識・技術・態度を学び、その後のより専門的・体系的な学習内容につなげることを目的とした科目を配置する。とりわけ栄養学科では、専門領域を超えて保健医療専門職として求められる倫理観や使命感、知識を学ぶことができる科目を必修とする。
- 6 「特色科目」、「一般教養科目」、「保健医療基礎科目」いずれも、他学科・専攻の学生との交流が可能になるよう科目名称を統一し、一緒に受講できるように配置する。
- 7 「専門科目」は、各学科・専攻の専門分野に関して科学的根拠に基づく専門的知識と実践技術を段階的に学び、これらを統合して活用する力を育むとともに、生涯を通じて自己研鑽する力を育むことを目的とした科目を配置する。とりわけ栄養学科では、基礎知識や技術を学ぶ「専門基礎科目」、「基礎栄養学」を1年次から配置し、より深い専門知識や実践力を養う「応用栄養学」、「栄養教育論」、「臨床栄養学」、「公衆栄養学」、「給食経営管理論」、「臨地実習」を3年次まで段階的に配置する。また、課題発見、解決能力を高めて管理栄養士に必要な実践力を養う「総合演習」、科学的、論理的思考力を養い、生涯を通じて自己研鑽する力を育むことができるように「卒業研究」を4年次に配置する。児童・生徒の栄養の指導及び管理を司る教員で

ある栄養教諭としての専門知識と実践技術を身につけるため、栄養教諭一種免許取得希望者向けに「栄養教諭に関する科目」を配置する。

8 常に上記の各項目の点検を怠ることなくカリキュラムを運営する。

＜学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）＞

千葉県立保健医療大学健康科学部学位授与の方針に基づき、本学所定の単位を修め、以下に示す成果が得られた学生に卒業と同時に学士（栄養学）を授与する。

I 倫理観とプロフェッショナリズム

栄養学科の学生は、卒業時に倫理的な原則を遵守し、専門職としての責務を果たすことができる。

II コミュニケーション能力

栄養学科の学生は、卒業時に対象者とそれを支える人、保健・医療・教育・福祉職に対してお互いの立場を尊重した人間関係を構築して、生き生きとしたコミュニケーションをとることができる。

III 実践に必要な知識

栄養学科の学生は、卒業時に専門領域の実践に必要な知識を有し、それを栄養管理の実践や健康づくりの支援に活用することができる。

IV 健康づくりの実践

栄養学科の学生は、卒業時に個人・家族・地域に対し健康的またはその人らしい生活を送るための問題解決と健康増進に向けて、根拠に基づいた適切で有効な栄養管理によって健康づくりの支援を提供できる。

V 健康づくりの環境の整備・改善

栄養学科の学生は、卒業時に人々の健康のために、対象者自らが主体的に健康づくりおよび栄養管理に取り組むことを支援するとともに、健康を志向する地域環境（人・物・制度）の改善に努めることができる。

VI 多職種との協働

栄養学科の学生は、卒業時に対象者を中心とした安全で質の高い保健・医療・福祉を実践するために、自身の役割を認識し、多職種との相互理解を深めながら行動することができる。

VII 生涯にわたる探究心と自己研鑽

栄養学科の学生は、卒業時に論理的思考による探究心を身につけ、自己研鑽に励み、自己および専門職として生涯にわたり成長できる資質を示すことができる。

別表（栄養学科 2025 年以降入学生用）

科目区分	授業科目の名称	ページ	配当年次	単位数			授業形態			履修方法等
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	
特色科目	体験ゼミナール	特色 1	1 前	1					○	必修 3 単位
	千葉県健康づくり	特色 2	2 後	1				○		
	専門職間の連携活動論	特色 3	4 後	1				○		
	社会実習（ボランティア活動）	特色 4	2・3・4			1			○	
一般教養科目	人間理解群	心理学	一般 1	1・2・3・4 前	2		○			必修 2 単位 ＋ 選択 4 単位 このうち b から 1 科目以上選択
		哲学	一般 2	1・2・3・4 前	2		○			
		文学	一般 3	1・2・3・4 前	2		○			
		歴史と文化	一般 4	1・2・3・4 前	2		○			
		生命倫理	一般 5	1・2・3・4 後	2		○			
		宗教学	一般 6	1・2・3・4 後	2		○			
		教育学	一般 7	1・2・3・4 後	2		○			
		人間関係論 b	一般 8	1・2・3・4 前	2		○			
		コミュニケーション理論と実際 b	一般 9	1・2・3・4 前	2		○			
		健康スポーツ科学	一般 10	1・2・3・4 前後	1			○		
		生涯身体運動科学	一般 11	1・2・3・4 前後	1			○		
	生活と環境群	生活とデザイン	一般 12	1・2・3・4 後	2		○			選択 6 単位 このうち ※から 1 科目以上選択 #から 1 科目以上選択
		法学（日本国憲法）	一般 13	1・2・3・4 前	2		○			
		社会学※	一般 14	1・2・3・4 後	2		○			
		文化人類学	一般 15	1・2・3・4 前	2		○			
		経済学	一般 16	1・2・3・4 前	2		○			
		国際関係論※	一般 17	1・2・3・4 後	2		○			
		社会福祉学※	一般 18	1・2・3・4 前	1		○			
		国際的な健康課題※	一般 19	1・2・3・4 後	1		○			
		人権・ジェンダー	一般 20	1・2・3・4 後	2		○			
		科学論	一般 21	1・2・3・4 前	2		○			
		環境変化と生態	一般 22	1・2・3・4 後	2		○			
		観察生物学入門	一般 23	1・2・3・4 前後	2		○			
		生物学 #	一般 24	1・2・3・4 前後	2		○			
		物理学 #	一般 25	1・2・3・4 前	2		○			
		化学 #	一般 26	1・2・3・4 前	2		○			
	情報理解群	統計学	一般 27	1・2・3・4 後	1			○		必修 2 単位
		情報リテラシー I	一般 28	1・2・3・4 前	1			○		
		情報リテラシー II	一般 29	1・2・3・4 後	1			○		
		情報倫理	一般 30	1・2・3・4 後	1		○			
	外国語群	英語 I（講読）	一般 32	1・2・3・4 前	1			○		必修 2 単位 ＋ 選択 2 単位
		英語 II（英会話）	一般 33	1・2・3・4 前	1			○		
		英語 III（講読・記述）	一般 34	1・2・3・4 後	1			○		
		英語 IV（英語コミュニケーション）	一般 35	1・2・3・4 後	1			○		
		英語 V（保健医療英語）	一般 36	2 前	2		○			
		英語 VI（応用英語）	一般 37	1・2・3・4 後	1			○		
		英語 VII（上級英語） A	一般 38	2・3・4 後	1		○			
		英語 VII（上級英語） B	一般 39	2・3・4 後	1		○			

別表（栄養学科 2025 年以降入学生用）

科目区分	授業科目の名称	ページ	配当年次	単位数			授業形態			履修方法等
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	
保健医療基礎科目	人間のこころと身体	運動生理学総論	保健 1	2・4 前		1	○			必修 10 単位 ＋ 選択 4 単位
		生化学総論	保健 2	1 前		1	○			
		栄養学Ⅰ（基礎）	保健 3	2 後		1	○			
		栄養学Ⅱ（応用）	保健 4	2 後		1	○			
		心の健康	保健 5	2・4 後		1	○			
		薬理学Ⅰ（総論）	保健 6	1 後	1		○			
		薬理学Ⅱ（各論）	保健 7	1 後	1		○			
		病理学Ⅰ（総論）	保健 8	1 前	1		○			
		病理学Ⅱ（各論）	保健 9	1 前	1		○			
		微生物学Ⅰ（総論）	保健 10	1・4 前		1	○			
		微生物学Ⅱ（各論）	保健 11	1・4 前		1	○			
		発達心理学	保健 12	1・4 前		1	○			
		臨床心理学	保健 13	1・2・4 後		1		○		
	健康と保健医療システム	健康論	保健 14	1・2・4 前		1	○			
		公衆衛生学Ⅰ（基礎）	保健 15	2 前	1		○			
		公衆衛生学Ⅱ（応用）	保健 16	2 後	1		○			
		疫学・保健統計Ⅰ（基礎）	保健 17	3 前	1		○			
		疫学・保健統計Ⅱ（応用）	保健 18	3 前	1		○			
		保健医療情報論		2 後		1	○			
		リハビリテーション概論	保健 19	2・3 後		1	○			
		救命・救急の理論と実際	保健 20	2・4 前		1	○			
		画像診断学	保健 21	2・3・4 後		1	○			
		保健医療福祉論Ⅰ（基礎）	保健 22	2 後	1		○			
		保健医療福祉論Ⅱ（応用）	保健 23	2 後	1		○			
		食育論Ⅰ（基礎）	保健 24	3 前		1	○			
		食育論Ⅱ（応用）	保健 25	3 前		1	○			
		健康と運動	保健 26	1・2・4 後		1	○			
		家族社会学	保健 27	1・4 前		1	○			
		医療経営管理論	保健 28	4 前		1	○			
		リスクマネジメント論	保健 29	2・4 後		1	○			
専門科目	専門基礎科目	管理栄養士導入教育	栄 1	1 前	1		○			【専門科目】 必修 7 8 単位 ＋ 選択 7 単位
		解剖生理学Ⅰ	栄 2	1 前	2		○		○	
		解剖学実験	栄 3	1 後	1				○	
		解剖生理学Ⅱ	栄 4	1 後	2		○			
		生理学実験	栄 5	2 前	1				○	
		生化学	栄 6	1 前	2		○			
		栄養生化学	栄 7	1 後	2		○			
		生化学実験	栄 8	2 前	1				○	
		疾病論	栄 9	2 前	2		○			
		高齢者医療論	栄 10	3・4 後		1	○			
		食品学各論	栄 11	1 前	2		○			
		食品学実験	栄 12	1 後	1				○	
		食品学総論	栄 13	1 前	2		○			
		食品化学実験	栄 14	1 後	1				○	
		理化学概論	栄 15	1 前		1	○			

別表（栄養学科 2025 年以降入学生用）

科目区分		授業科目の名称	ページ	配当年次	単位数			授業形態			履修方法等
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実	
専門科目	専門基礎科目	食品衛生学	栄 16	1 後	2			○			【専門科目】 (再掲) 必修 7 8 単位 + 選択 7 単位
		食品衛生学実験	栄 17	2 前	1					○	
		食品加工学	栄 18	2 前	1			○			
		食品加工学実習	栄 19	2 後	1					○	
		食品微生物学	栄 20	3・4 後		1		○			
		食事設計と調理	栄 21	1 前	2			○			
		食事設計と調理実習	栄 22	2 前	1					○	
		調理実習	栄 23	1 後	1					○	
		調理科学実験	栄 24	1 前	1					○	
	学 栄養 基礎	基礎栄養学	栄 25	1 後	2			○			
		基礎栄養学実習	栄 26	2 後	1					○	
	応用栄養学	応用栄養学Ⅰ	栄 27	2 前	2			○			
		応用栄養学Ⅱ	栄 28	2 後	2			○			
		応用栄養学Ⅲ	栄 29	3 前	2			○			
		応用栄養学実習	栄 30	3 前	1					○	
		スポーツ栄養学	栄 31	3・4 後		1		○			
	栄養教育論	栄養教育論Ⅰ	栄 32	2 後	2			○			
		栄養教育論Ⅱ	栄 33	3 前	2			○			
		栄養教育論実習	栄 34	3 前	1					○	
		栄養教育手法論	栄 35	3 前	2			○			
	臨床栄養学	臨床栄養学Ⅰ	栄 36	2 前	2			○			
		臨床栄養学Ⅱ	栄 37	2 後	2			○			
		臨床栄養学実習	栄 38	2 後	1					○	
		栄養ケアマネジメント論	栄 39	3 前	2			○			
		栄養ケアマネジメント論実習	栄 40	3 前	1					○	
		臨床検査学	栄 41	2 前	2			○			
		在宅栄養支援論	栄 42	3・4 後		1		○			
		障害者栄養支援論	栄 43	3・4 後		1		○			
	公衆栄養学	公衆栄養学Ⅰ	栄 44	2 後	2			○			
		公衆栄養学Ⅱ	栄 45	3 前	2			○			
		公衆栄養学実習	栄 46	3 前	1					○	
		国際栄養学	栄 47	3・4 後		1		○			
	管 給食経営	給食経営管理論Ⅰ	栄 48	2 前	2			○			
		給食経営管理論Ⅱ	栄 49	2 後	2			○			
		給食経営管理実習	栄 50	3 前	2					○	
		フードマネジメント論	栄 51	3・4 後		1		○			
	演習 総合	総合演習	栄 52	4 前	1				○		
		栄養統計学	栄 53	3 後	1			○			
		管理栄養士特別演習	栄 54	4 通		2			○		
	研究	卒業研究	栄 55	4 通	2				○		
	臨地実習	臨床栄養臨地実習	栄 56	3 通	2					○	
		給食経営管理臨地実習	栄 57	3 通	2					○	
		公衆栄養臨地実習	栄 58	3 通		1				○	

別表（栄養学科 2025 年以降入学生用）

科目区分		授業科目の名称	ページ	配当年次	単位数			授業形態			履修方法等
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実	
専門科目	臨地実習	栄養管理臨地実習	栄 59	4 通		1				○	【専門科目】 （再掲） 必修 7 8 単位 ＋ 選択 7 単位
		事前指導	栄 60	3 通	1				○		
		事後指導	栄 61	3 通	1				○		

別表（栄養学科 2025 年以降入学生用）

先修条件

【特色科目】

- 1 「千葉県の健康づくり」を履修するには「体験ゼミナール」の単位を修得済みであること。
- 2 「社会実習（ボランティア活動）」を履修するには「体験ゼミナール」の単位を修得済みであること。

【一般教養科目】

- 1 「英語Ⅶ(上級英語)A」、「英語Ⅶ(上級英語) B」を履修するには「英語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、またはⅥ」の選択 2 単位を修得済みであること。

【専門科目】

- 1 「臨床栄養学実習」を履修するには、「臨床栄養学Ⅰ」の単位を修得済みであり、「臨床栄養学Ⅱ」の単位は修得見込みであること。
- 2 「公衆栄養学実習」を履修するには、「公衆栄養学Ⅱ」の単位を修得見込みであること。
- 3 「臨床栄養臨地実習」、「給食経営管理臨地実習」、「公衆栄養臨地実習」、「事前指導」及び「事後指導」を履修するには、3 年前期に配当された必修の専門科目の単位を修得見込みであること。
- 4 「栄養教諭教育実習」及び「栄養教諭教育実習：事前・事後指導」を履修するには、管理栄養士課程の「臨床栄養臨地実習」及び「給食経営管理臨地実習」を単位修得済みであり、3 年次終了までに配当された教職課程の全科目を単位修得済みであること。
- 5 「教職実践演習（栄養教諭）」を履修するには、3 年次終了までに配当された教職課程の全科目を単位修得済みであり、「栄養教諭教育実習」の単位を修得見込みであること。

進級要件

以下の要件を満たした者でなければ、3 年次に進級できない。

- 1 1・2 年次に配当された特色科目および保健医療基礎科目の必修科目の単位を修得済みの者。
- 2 1・2 年次に配当された専門科目の必修科目の単位を修得済みの者。

卒業要件

科目区分	必修科目	選択科目	合計
特色科目	3 単位	0 単位	3 単位
一般教養科目	6 単位	1 8 単位	2 4 単位
保健医療基礎科目	1 0 単位	4 単位	1 4 単位
専門科目	7 8 単位	7 単位	8 5 単位
合 計	9 7 単位	2 9 単位	1 2 6 単位

別表（栄養学科 2025 年以降入学生用）

教職（栄養教諭一種）課程選択

栄養教諭一種免許取得希望者は、下表に指定する一般教養科目を含む卒業要件の 1 2 6 単位のほか、栄養教諭に関する科目を履修し、その単位を取得しなければならない。卒業時の取得単位数は 1 4 9 単位とする。

栄養教諭一種免許取得希望者の履修内容は次のとおりである。

科目区分		授業科目の名称	ページ	配当年次	単位数	履修方法等
一般教養科目	理人 解群 間	健康スポーツ科学 (再掲)	一般 10	1・2・3 前後	1	
		生涯身体運動科学 (再掲)	一般 11	1・2・3 前後	1	
	環生 境活 と	法学（日本国憲法） (再掲)	一般 13	1・2・3 前	2	
	理情 解群 報	情報リテラシーⅠ (再掲)	一般 28	1・2・3 前	1	
		情報リテラシーⅡ (再掲)	一般 29	1・2・3 後	1	
	外国 語群	英語Ⅱ（英会話） (再掲)	一般 33	1・2・3 前	1	3 科目のうち 2 単位を 選択必修とする
		英語Ⅳ（英語コミュニケーション） (再掲)	一般 35	1・2・3 後	1	
		英語Ⅵ（応用英語） (再掲)	一般 37	1・2・3 後	1	
栄養教諭に関する科目	栄養に係る教育 に関する科目	食生活教育論	栄 62	3 前	2	
		学校栄養教育論	栄 63	3 後	2	
	教育の基礎的理解に関する 科目	教職論	栄 64	1 前	2	
		教育学概論	栄 65	2 前	1	
		教育心理	栄 66	1 後	2	
		教育制度論	栄 67	2 前	1	
		カリキュラム論	栄 68	2 後	1	
		特別支援教育論	栄 69	3 前	1	
	道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談等に関する科目	教育の方法と技術	栄 70	3 前	2	
		道徳・総合的な学習・特別活動論	栄 71	2 後	1	
		生徒指導論	栄 72	3 後	1	
		教育相談	栄 73	3 前	2	
	教育実践に関する科目	教職実践演習（栄養教諭）	栄 74	4 後	2	
		栄養教諭教育実習：事前・事後指導	栄 75	4 通	1	
		栄養教諭教育実習	栄 76	4 通	2	

別表（栄養学科 2019 年以降入学生用）

科目区分	授業科目の名称	ページ	配当年次	単位数			授業形態			履修方法等
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	
特色科目	体験ゼミナール	特色 1	1 前	1					○	必修 3 単位
	千葉県健康づくり	特色 2	2 後	1				○		
	専門職間の連携活動論	特色 3	4 後	1				○		
	社会実習（ボランティア活動）	特色 4	2・3・4			1			○	
一般教養科目	人間理解群	心理学	一般 1	1・2・3・4 前	2	2		○		必修 2 単位 ＋ 選択 4 単位 このうち b から 1 科目以上選択
		哲学	一般 2	1・2・3・4 前		2		○		
		文学	一般 3	1・2・3・4 前		2		○		
		歴史と文化	一般 4	1・2・3・4 前		2		○		
		生命倫理	一般 5	1・2・3・4 後				○		
		宗教学	一般 6	1・2・3・4 後		2		○		
		教育学	一般 7	1・2・3・4 後		2		○		
		人間関係論 b	一般 8	1・2・3・4 前		2		○		
		コミュニケーション理論と実際 b	一般 9	1・2・3・4 前		2		○		
		健康スポーツ科学	一般 10	1・2・3・4 前後		1			○	
		生涯身体運動科学	一般 11	1・2・3・4 前後		1			○	
	生活と環境群	生活とデザイン	一般 12	1・2・3・4 後		2		○		選択 6 単位 このうち ※から 1 科目以上選択 # から 1 科目以上選択
		法学（日本国憲法）	一般 13	1・2・3・4 前		2		○		
		社会学※	一般 14	1・2・3・4 後		2		○		
		文化人類学	一般 15	1・2・3・4 前		2		○		
		経済学	一般 16	1・2・3・4 前		2		○		
		国際関係論※	一般 17	1・2・3・4 後		2		○		
		社会福祉学※	一般 18	1・2・3・4 前		1		○		
		国際的な健康課題※	一般 19	1・2・3・4 後		1		○		
		人権・ジェンダー	一般 20	1・2・3・4 後		2		○		
		科学論	一般 21	1・2・3・4 前		2		○		
		環境変化と生態	一般 22	1・2・3・4 後		2		○		
		観察生物学入門	一般 23	1・2・3・4 前後		2		○		
		生物学 #	一般 24	1・2・3・4 前後		2		○		
		物理学 #	一般 25	1・2・3・4 前		2		○		
		化学 #	一般 26	1・2・3・4 前		2		○		
	情報理解群	統計学	一般 27	1・2・3・4 後	1			○		必修 2 単位
		情報リテラシー I	一般 28	1・2・3・4 前	1			○		
		情報リテラシー II	一般 29	1・2・3・4 後		1		○		
		情報倫理	一般 30	1・2・3・4 後		1		○		
		実践統計学	一般 31	2・3・4 前		1		○		
	外国語群	英語 I（講読）	一般 32	1・2・3・4 前	2	1		○		必修 2 単位 ＋ 選択 2 単位
		英語 II（英会話）	一般 33	1・2・3・4 前		1		○		
		英語 III（講読・記述）	一般 34	1・2・3・4 後		1		○		
		英語 IV（英語コミュニケーション）	一般 35	1・2・3・4 後		1		○		
		英語 V（保健医療英語）	一般 36	2 前				○		
		英語 VI（応用英語）	一般 37	1・2・3・4 後		1		○		
		英語 VII（上級英語）A	一般 38	2・3・4 後		1		○		
		英語 VII（上級英語）B	一般 39	2・3・4 後		1		○		

別表（栄養学科 2019 年以降入学生用）

科目区分	授業科目の名称	ページ	配当年次	単位数			授業形態			履修方法等
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	
保健医療基礎科目	人間のこころと身体	運動生理学総論	保健 1	2・4 前		1	○			必修 10 単位 ＋ 選択 4 単位
		生化学総論	保健 2	1 前		1	○			
		栄養学Ⅰ（基礎）	保健 3	2 後		1	○			
		栄養学Ⅱ（応用）	保健 4	2 後		1	○			
		心の健康	保健 5	2・4 後		1	○			
		薬理学Ⅰ（総論）	保健 6	1 後	1		○			
		薬理学Ⅱ（各論）	保健 7	1 後	1		○			
		病理学Ⅰ（総論）	保健 8	1 前	1		○			
		病理学Ⅱ（各論）	保健 9	1 前	1		○			
		微生物学Ⅰ（総論）	保健 10	1・4 前		1	○			
		微生物学Ⅱ（各論）	保健 11	1・4 前		1	○			
		発達心理学	保健 12	1・4 前		1	○			
		臨床心理学	保健 13	1・2・4 後		1		○		
	健康と保健医療システム	健康論	保健 14	1・2・4 前		1	○			
		公衆衛生学Ⅰ（基礎）	保健 15	2 前	1		○			
		公衆衛生学Ⅱ（応用）	保健 16	2 後	1		○			
		疫学・保健統計Ⅰ（基礎）	保健 17	3 前	1		○			
		疫学・保健統計Ⅱ（応用）	保健 18	3 前	1		○			
		リハビリテーション概論	保健 19	2・3 後		1	○			
		救命・救急の理論と実際	保健 20	2・4 前		1	○			
		画像診断学	保健 21	2・3・4 後		1	○			
		保健医療福祉論Ⅰ（基礎）	保健 22	2 後	1		○			
		保健医療福祉論Ⅱ（応用）	保健 23	2 後	1		○			
		食育論Ⅰ（基礎）	保健 24	3 前		1	○			
		食育論Ⅱ（応用）	保健 25	3 前		1	○			
		健康と運動	保健 26	1・2・4 後		1	○			
		家族社会学	保健 27	1・4 前		1	○			
		医療経営管理論	保健 28	4 前		1	○			
		リスクマネジメント論	保健 29	2・4 後		1	○			
専門科目	専門基礎科目	管理栄養士導入教育	栄 1	1 前	1		○			【専門科目】 必修 7 8 単位 ＋ 選択 7 単位
		解剖生理学Ⅰ	栄 2	1 前	2		○			
		解剖学実験	栄 3	1 後	1				○	
		解剖生理学Ⅱ	栄 4	1 後	2		○			
		生理学実験	栄 5	2 前	1				○	
		生化学	栄 6	1 前	2		○			
		栄養生化学	栄 7	1 後	2		○			
		生化学実験	栄 8	2 前	1				○	
		疾病論	栄 9	2 前	2		○			
		高齢者医療論	栄 10	3・4 後		1	○			
		食品学各論	栄 11	1 前	2		○			
		食品学実験	栄 12	1 後	1				○	
		食品学総論	栄 13	1 前	2		○			
		食品化学実験	栄 14	1 後	1				○	
		理化学概論	栄 15	1 前		1	○			

別表（栄養学科 2019 年以降入学生用）

科目区分	授業科目の名称	ページ	配当年次	単位数			授業形態			履修方法等
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実	
専門科目	専門基礎科目	食品衛生学	栄 16	1 後	2			○		
		食品衛生学実験	栄 17	2 前	1				○	
		食品加工学	栄 18	2 前	1			○		
		食品加工学実習	栄 19	2 後	1				○	
		食品微生物学	栄 20	3・4 後		1		○		
		食事設計と調理	栄 21	1 前	2			○		
		食事設計と調理実習	栄 22	2 前	1				○	
		調理実習	栄 23	1 後	1				○	
		調理科学実験	栄 24	1 前	1				○	
	学 栄養 基礎	基礎栄養学	栄 25	1 後	2			○		
		基礎栄養学実習	栄 26	2 後	1				○	
	応用栄養学	応用栄養学Ⅰ	栄 27	2 前	2			○		
		応用栄養学Ⅱ	栄 28	2 後	2			○		
		応用栄養学Ⅲ	栄 29	3 前	2			○		
		応用栄養学実習	栄 30	3 前	1				○	
		スポーツ栄養学	栄 31	3・4 後		1		○		
	栄養教育論	栄養教育論Ⅰ	栄 32	2 後	2			○		
		栄養教育論Ⅱ	栄 33	3 前	2			○		
		栄養教育論実習	栄 34	3 前	1				○	
		栄養教育手法論	栄 35	3 前	2			○		
	臨床栄養学	臨床栄養学Ⅰ	栄 36	2 前	2			○		
		臨床栄養学Ⅱ	栄 37	2 後	2			○		
		臨床栄養学実習	栄 38	2 後	1				○	
		栄養ケアマネジメント論	栄 39	3 前	2			○		
		栄養ケアマネジメント論実習	栄 40	3 前	1				○	
		臨床検査学	栄 41	2 前	2			○		
		在宅栄養支援論	栄 42	3・4 後		1		○		
		障害者栄養支援論	栄 43	3・4 後		1		○		
	公衆栄養学	公衆栄養学Ⅰ	栄 44	2 後	2			○		
		公衆栄養学Ⅱ	栄 45	3 前	2			○		
		公衆栄養学実習	栄 46	3 前	1				○	
		国際栄養学	栄 47	3・4 後		1		○		
	管理論	給食経営管理論Ⅰ	栄 48	2 前	2			○		
		給食経営管理論Ⅱ	栄 49	2 後	2			○		
		給食経営管理実習	栄 50	3 前	2				○	
		フードマネジメント論	栄 51	3・4 後		1		○		
	演習 総合	総合演習	栄 52	4 前	1				○	
		栄養統計学	栄 53	3 後	1			○		
		管理栄養士特別演習	栄 54	4 通		2			○	
	研究	卒業研究	栄 55	4 通	2				○	
	臨地実習	臨床栄養臨地実習	栄 57	3 通	2					○
		給食経営管理臨地実習	栄 58	3 通	2					○
		公衆栄養臨地実習	栄 59	3 通		1				○

【専門科目】
（再掲）
必修 7 8 単位
＋
選択 7 単位

別表（栄養学科 2019 年以降入学生用）

科目区分		授業科目の名称	ページ	配当年次	単位数			授業形態			履修方法等
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実	
専門科目	臨地実習	栄養管理臨地実習	栄 60	4 通		1				○	【専門科目】 （再掲） 必修 7 8 単位 ＋ 選択 7 単位
		事前指導	栄 61	3 通	1				○		
		事後指導	栄 62	3 通	1				○		

別表（栄養学科 2019 年以降入学生用）

先修条件

【特色科目】

- 1 「千葉県の健康づくり」を履修するには「体験ゼミナール」の単位を修得済みであること。
- 2 「社会実習（ボランティア活動）」を履修するには「体験ゼミナール」の単位を修得済みであること。

【一般教養科目】

- 1 「実践統計学」を履修するには「統計学」の単位を修得済みであること。
- 2 「英語Ⅶ(上級英語)A」、「英語Ⅶ(上級英語) B」を履修するには「英語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、またはⅥ」の選択 2 単位を修得済みであること。

【専門科目】

- 1 「臨床栄養学実習」を履修するには、「臨床栄養学Ⅰ」の単位を修得済みであり、「臨床栄養学Ⅱ」の単位は修得見込みであること。
- 2 「公衆栄養学実習」を履修するには、「公衆栄養学Ⅱ」の単位を修得見込みであること。
- 3 「臨床栄養臨地実習」、「給食経営管理臨地実習」、「公衆栄養臨地実習」、「事前指導」及び「事後指導」を履修するには、3 年前期に配当された必修の専門科目の単位を修得見込みであること。
- 4 「栄養教諭教育実習」及び「栄養教諭教育実習：事前・事後指導」を履修するには、管理栄養士課程の「臨床栄養臨地実習」及び「給食経営管理臨地実習」を単位修得済みであり、3 年次終了までに配当された教職課程の全科目を単位修得済みであること。
- 5 「教職実践演習（栄養教諭）」を履修するには、3 年次終了までに配当された教職課程の全科目を単位修得済みであり、「栄養教諭教育実習」の単位を修得見込みであること。

進級要件

以下の要件を満たした者でなければ、3 年次に進級できない。

- 1 1・2 年次に配当された特色科目および保健医療基礎科目の必修科目の単位を修得済みの者。
- 2 1・2 年次に配当された専門科目の必修科目の単位を修得済みの者。

卒業要件

科目区分	必修科目	選択科目	合計
特色科目	3 単位	0 単位	3 単位
一般教養科目	6 単位	1 8 単位	2 4 単位
保健医療基礎科目	1 0 単位	4 単位	1 4 単位
専門科目	7 8 単位	7 単位	8 5 単位
合 計	9 7 単位	2 9 単位	1 2 6 単位

別表（栄養学科 2019 年以降入学生用）

教職（栄養教諭一種）課程選択

栄養教諭一種免許取得希望者は、下表に指定する一般教養科目を含む卒業要件の 1 2 6 単位のほか、栄養教諭に関する科目を履修し、その単位を取得しなければならない。卒業時の取得単位数は 1 4 9 単位とする。

栄養教諭一種免許取得希望者の履修内容は次のとおりである。

科目区分		授業科目の名称	ページ	配当年次	単位数	履修方法等
一般教養科目	理人 解群 間	健康スポーツ科学 (再掲)	一般 10	1・2・3 前後	1	
		生涯身体運動科学 (再掲)	一般 11	1・2・3 前後	1	
	環生 境活 群と	法学（日本国憲法） (再掲)	一般 13	1・2・3 前	2	
	理情 解群 報	情報リテラシーⅠ (再掲)	一般 28	1・2・3 前	1	
		情報リテラシーⅡ (再掲)	一般 29	1・2・3 後	1	
	外国 語群	英語Ⅱ（英会話） (再掲)	一般 33	1・2・3 前	1	3 科目のうち 2 単位を 選択必修とする
		英語Ⅳ（英語コミュニケーション） (再掲)	一般 35	1・2・3 後	1	
		英語Ⅵ（応用英語） (再掲)	一般 37	1・2・3 後	1	
栄養教諭に関する科目	栄養に係る教育 に関する科目	食生活教育論	栄 63	3 前	2	
		学校栄養教育論	栄 64	3 後	2	
	教育の基礎的理解に関する 科目	教職論	栄 65	1 後	2	
		教育学概論	栄 66	2 後	1	
		教育心理	栄 67	2 後	2	
		教育制度論	栄 68	2 後	1	
		カリキュラム論	栄 69	2 前	1	
		特別支援教育論	栄 70	3 前	1	
	道徳、総合的な学習の時間等の内容及び 生徒指導、教育相談等に関する科目	教育の方法と技術	栄 71	3 前	2	
		道徳・総合的な学習・特別活動論	栄 72	2 前	1	
		生徒指導論	栄 73	3 前	1	
		教育相談	栄 74	3 後	2	
	教育実践に関する科目	教職実践演習（栄養教諭）	栄 75	4 後	2	
		栄養教諭教育実習：事前・事後指導	栄 76	4 通	1	
		栄養教諭教育実習	栄 77	4 通	2	

4 歯科衛生学科

1 教育理念

人間としての高い倫理観と豊かな人間性を備え、多様化する社会の変化に深い理解と関心を持ちながら柔軟に実践できる人材の育成を目指す。また、科学的根拠に基づく豊富な専門的知識と確実な技術を身につけ、歯科衛生に関する問題発見・解決能力と研究能力、口腔機能管理の対象となる人々及び他専門職とのコミュニケーション・連携能力、さらに自己を高めるための研さん能力を有する人材を育成・輩出する。これらを通じて、歯科衛生士として、千葉県民をはじめ様々な地域の人々の生涯にわたる健康の維持・向上に貢献するとともに、歯科衛生学の発展に寄与する。

2 学科の目的

教育理念を実現するために、以下の人材育成を学科の目的としています。

- (1) 歯科衛生に関して、科学的根拠に基づく専門的知識や技術を身につけ、歯科衛生士として実践力のある人材を育成します。
- (2) 歯科衛生の立場から、一人ひとりの生活環境や健康状態、機能障害の有無に応じたニーズを明確に把握し、それに応じて自己の能力を的確に発揮できる人材を育成します。
- (3) 保健・医療・福祉などにおけるチーム支援で、他専門職と十分なコミュニケーションと連携をとり、協働して地域の人々の健康の保持増進、回復に貢献できる人材を育成します。
- (4) 歯科衛生学の理論や実践についての学習・研究を継続し、国際社会を視野に入れながら、新たな歯科衛生のあり方を科学的に模索し創造できる人材を育成します。

3 教育課程

歯科衛生学科における卒業に必要な取得単位数を126単位とする。卒業時には、歯科衛生士国家試験の受験資格を得ることができる。

【歯科衛生学科】

＜教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）＞

歯科衛生学科では、高い倫理観と豊かな人間性、科学的根拠に基づく豊富な専門的知識・技術を備える実践力のある人材の育成を目指している。また、歯科衛生の立場から他職種と連携・協働して多様な地域の人々の健康の保持増進に貢献し、さらに、自己研鑽能力を有する人材育成を目指している。

このような教育理念・学科の目的に基づき、ディプロマ・ポリシーを達成するために、以下の方針を基本に据え、カリキュラム（教育課程）を編成する。

- 1 高い倫理観と豊かな人間性を養うとともに、専門分野における知識・技術に加え関連分野の理解を深めることを可能とする系統的で統合性のある編成とする。とりわけ歯科衛生学科では、地域社会に貢献し、口腔保健の専門知識と技能を身につけるための科学的探究心をもち、保健医療の実践に対応できる人材の育成を目指す。
- 2 「特色科目」、「一般教養科目」、「保健医療基礎科目」、「専門科目」の4つの基本的枠組みから構成し、講義、演習、実験・実習を効果的に組合せて行う。
- 3 「特色科目」は、学科の枠を超えたチーム活動を通じて学ぶ、本学独自の科目である。千葉県民の多様な生活と価値観を体験的に学び、千葉県の保健医療福祉施策や実践活動を理解し、多職種連携による保健医療の実践力を修得することを目的とした科目を段階的に配置する。
- 4 「一般教養科目」は、人間や社会を総合的に理解する幅広い教養と知識を身につけ、科学的根拠に基づいた的確な判断や創造的に課題を発見し解決するための汎用的技能を身につけ、多様な人々との相互理解を築くための総合的な力を育成することを目的とした科目を配置する。とりわけ歯科衛生学科では、医療人となるための必要な倫理感、論理的思考力、表現力を育成しつつ、コミュニケーション能力、科学的洞察力を育むことを目的とした科目を必修とする。
- 5 「保健医療基礎科目」は、保健医療専門職として求められる基礎的な知識・技術・態度を学び、その後のより専門的・体系的な学習内容につなげることを目的とした科目を配置する。とりわけ歯科衛生学科では、歯科衛生士としての「専門科目」の理解・発展のために必要な科目を必修とする。
- 6 「特色科目」、「一般教養科目」、「保健医療基礎科目」いずれも、他学科・専攻の学生との交流が可能になるよう科目名称を統一し、一緒に受講できるように配置する。
- 7 「専門科目」は、各学科・専攻の専門分野に関して科学的根拠に基づく専門的知識と実践技術を段階的に学び、これらを統合して活用する力を育むとともに、生涯を通じて自己研鑽する力を育むことを目的とした科目を配置する。とりわけ歯科衛生学科では、国際的な情報をふまえて科学的根拠に基づく専門知識と実践技術を段階的に学び、多様な対象者に対応するために自己研鑽する力を身につけ、卒業研究などの科目の充実により問題解決能力および研究能力の修得を図るための「専門科目」として「歯科衛生基礎」、「生涯歯科衛生」、「歯科衛生健康推進」、「臨床・臨地実習」の4群を配置する。
- 8 常に上記の各項目の点検を怠ることなくカリキュラムを運営する。

＜学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）＞

千葉県立保健医療大学健康科学部学位授与の方針に基づき、本学所定の単位を修め、以下に示す成果が得られた学生に卒業と同時に学士（歯科衛生学）を授与する。

I 倫理観とプロフェッショナリズム

歯科衛生学科の学生は、卒業時に倫理的な原則を遵守し、専門職としての責務を果たすことができる。

II コミュニケーション能力

歯科衛生学科の学生は、卒業時に対象者とそれを支える人、保健・医療・教育・福祉職に対してお互いの立場を尊重した人間関係を構築し、生き生きとしたコミュニケーションをとることができる。

III 実践に必要な知識

歯科衛生学科の学生は、卒業時に歯科衛生学領域の実践に必要な知識を有し、それを健康づくりの支援に活用することができる。

IV 健康づくりの実践

歯科衛生学科の学生は、卒業時に個人・家族・地域に対し健康的またはその人らしい生活を送るための問題解決と健康増進に向けて、歯科衛生学の根拠に基づいた適切で有効な健康づくりの支援を提供できる。

V 健康づくりの環境の整備・改善

歯科衛生学科の学生は、卒業時に人々の健康的またはその人らしい生活を送るための問題解決と健康増進に向けて、健康を志向する地域環境（人・物・制度）の整備・改善に努めることができる。

VI 多職種との協働

歯科衛生学科の学生は、卒業時に対象者を中心とした安全で質の高い保健・医療・福祉を実践するために、歯科衛生士の役割を認識し、多職種と相互理解を深めながら行動することができる。

VII 生涯にわたる探究心と自己研鑽

歯科衛生学科の学生は、卒業時に論理的思考による探究心を身につけ、自己研鑽に励み、自己および歯科衛生士として生涯にわたり成長できる資質を示すことができる。

別表（歯科衛生学科 2025 年度以降入学生用）

科目区分		授業科目の名称	ページ	配当年次	単位数			授業形態			履修方法等
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実	
特色科目	体験ゼミナール	特色 1	1 前	1					○	必修 3 単位	
	千葉県の健康づくり	特色 2	2 後	1				○			
	専門職間の連携活動論	特色 3	4 後	1				○			
	社会実習（ボランティア活動）	特色 4	2・3・4			1			○		
一般教養科目	人間理解群	心理学	一般 1	1・2・3・4 前		2		○			必修 9 単位
		哲学	一般 2	1・2・3・4 前		2		○			
		文学	一般 3	1・2・3・4 前		2		○			
		歴史と文化	一般 4	1・2・3・4 前		2		○			
		生命倫理	一般 5	1・2・3・4 後	2			○			
		宗教学	一般 6	1・2・3・4 後		2		○			
		教育学	一般 7	1・2・3・4 後		2		○			
		人間関係論	一般 8	1・2・3・4 前		2		○			
		コミュニケーション理論と実際	一般 9	1・2・3・4 前		2		○			
		健康スポーツ科学	一般 10	1・2・3・4 前後	1				○		
		生涯身体運動科学	一般 11	1・2・3・4 前後		1			○		
	生活と環境群	生活とデザイン	一般 12	1・2・3・4 後	2	2		○			
		法学（日本国憲法）	一般 13	1・2・3・4 前				○			
		社会学	一般 14	1・2・3・4 後		2		○			
		文化人類学	一般 15	1・2・3・4 前		2		○			
		経済学	一般 16	1・2・3・4 前		2		○			
		国際関係論	一般 17	1・2・3・4 後		2		○			
		社会福祉学	一般 18	1・2・3・4 前		1		○			
		国際的な健康課題	一般 19	1・2・3・4 後		1		○			
		人権・ジェンダー	一般 20	1・2・3・4 後		2		○			
		科学論	一般 21	1・2・3・4 前		2		○			
		環境変化と生態	一般 22	1・2・3・4 後		2		○			
		観察生物学入門	一般 23	1・2・3・4 前後		2		○			
		生物学	一般 24	1・2・3・4 前後	2		○				
		物理学	一般 25	1・2・3・4 前		2		○			
		化学	一般 26	1・2・3・4 前		2		○			
	情報理解群	統計学	一般 27	1・2・3・4 後	1				○		
		情報リテラシーⅠ	一般 28	1・2・3・4 前	1				○		
		情報リテラシーⅡ	一般 29	1・2・3・4 後		1			○		
		情報倫理	一般 30	1・2・3・4 後		1		○			
	外国語群	英語Ⅰ（講読）	一般 32	1・2・3・4 前	2	1			○		必修 2 単位 ＋ 選択 2 単位
		英語Ⅱ（英会話）	一般 33	1・2・3・4 前			1		○		
		英語Ⅲ（講読・記述）	一般 34	1・2・3・4 後			1		○		
		英語Ⅳ（英語コミュニケーション）	一般 35	1・2・3・4 後			1		○		
		英語Ⅴ（保健医療英語）	一般 36	2 前				○			
		英語Ⅵ（応用英語）	一般 37	1・2・3・4 後			1		○		
		英語Ⅶ（上級英語）A	一般 38	2・3・4 後			1		○		
		英語Ⅶ（上級英語）B	一般 39	2・3・4 後			1		○		

【一般教養科目】選択科目から選択 11 単位

別表（歯科衛生学科 2025 年度以降入学生用）

科目区分	授業科目の名称	ページ	配当年次	単位数			授業形態			履修方法等
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	
保健医療基礎科目	人間のこころと身体	運動生理学総論	保健 1 2 前		1		○			必修 13 単位 ＋ 選択 3 単位
		生化学総論	保健 2 1 前		1		○			
		栄養学Ⅰ（基礎）	保健 3 1 後	1			○			
		栄養学Ⅱ（応用）	保健 4 1 後	1			○			
		心の健康	保健 5 1 後		1		○			
		薬理学Ⅰ（総論）	保健 6 1 後	1			○			
		薬理学Ⅱ（各論）	保健 7 1 後	1			○			
		病理学Ⅰ（総論）	保健 8 1 前	1			○			
		病理学Ⅱ（各論）	保健 9 1 前	1			○			
		微生物学Ⅰ（総論）	保健 10 1 前	1			○			
		微生物学Ⅱ（各論）	保健 11 1 前	1			○			
		発達心理学	保健 12 1 前		1		○			
		臨床心理学	保健 13 1 後		1			○		
	健康と保健医療システム	健康論	保健 14 1 前		1		○			
		公衆衛生学Ⅰ（基礎）	保健 15 2 前	1			○			
		公衆衛生学Ⅱ（応用）	保健 16 2 後		1		○			
		疫学・保健統計Ⅰ（基礎）	保健 17 3 前		1		○			
		疫学・保健統計Ⅱ（応用）	保健 18 3 前		1		○			
		保健医療情報論	2 後		1		○			
		リハビリテーション概論	保健 19 2 後	1			○			
		救命・救急の理論と実際	保健 20 2 前	1			○			
		画像診断学	保健 21 2・3・4 後		1		○			
		保健医療福祉論Ⅰ（基礎）	保健 22 2 後	1			○			
		保健医療福祉論Ⅱ（応用）	保健 23 2 後	1			○			
		食育論Ⅰ（基礎）	保健 24 3 前		1		○			
		食育論Ⅱ（応用）	保健 25 3 前		1		○			
		健康と運動	保健 26 1 後		1		○			
		家族社会学	保健 27 1 前		1		○			
		医療経営管理論	保健 28 4 後		1		○			
		リスクマネジメント論	保健 29 2 後		1		○			
専門科目	歯科衛生基礎	解剖学	歯 1 1 前	2			○			必修 27 単位
		生理学	歯 2 1 後	2			○			
		内科学概論	歯 3 1 後	1			○			
		高齢者医療論	歯 4 2 後	1			○			
		口腔解剖学	歯 5 1 前	2			○			
		口腔生理学	歯 6 2 前	1			○			
		口腔病理学	歯 7 1 後	1			○			
		口腔微生物学	歯 8 1 後	1			○			
		歯科薬理学	歯 9 2 前	1			○			
		口腔生化学	歯 10 1 後	1			○			
		口腔衛生学	歯 11 1 後	2			○			
		歯科診断学	歯 12 2 後	1			○			
		歯科矯正学	歯 13 3 前	1			○			
		歯科材料学	歯 14 2 前	1			○			
		歯科保存学	歯 15 2 前	2			○			

別表（歯科衛生学科 2025 年度以降入学生用）

科目区分		授業科目の名称	ページ	配当年次	単位数			授業形態			履修方法等	
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習		
専門科目	歯科衛生基礎	歯周治療学	歯 16	2 前	1			○				
		歯科補綴学	歯 17	2 前	2			○				
		顎口腔外科学	歯 18	2 前	2			○				
		口腔機能・臨床検査		2 前	1			○				
		歯科衛生基礎演習	歯 20	2 前	1				○			
	生涯歯科衛生	歯科衛生学概論	歯 21	1 前	2			○			必修 17 単位	生涯歯科衛生及び歯科衛生健康推進から選択2単位
		チーム歯科医療論	歯 23	2 前	1			○				
		歯科疾患予防学	歯 24	2 後	1			○				
		発達歯科衛生学Ⅰ	歯 25	2 後	2			○				
		発達歯科衛生学Ⅱ(成人・高齢者)	歯 26	2 後	2			○				
		歯科衛生体験演習	歯 27	1 後	1				○			
		歯科診療補助演習	歯 29	3 前	2				○			
		歯科予防処置演習	歯 30	3 前	2				○			
		顎口腔機能リハビリテーション論	歯 31	2 後	1			○				
		顎口腔機能リハビリテーション演習	歯 32	3 前	2				○			
		在宅歯科衛生管理論Ⅰ	歯 33	3 前	1			○				
		在宅歯科衛生管理論Ⅱ	歯 34	4 前		1		○				
	歯科衛生健康推進	歯科衛生アセスメント論	歯 35	3 前	1			○			必修 11 単位	
		保健行動科学論	歯 36	1 後	1			○				
		歯科保健指導・健康教育論	歯 37	2 前	1			○				
		歯科保健指導演習Ⅰ	歯 38	2 後	2				○			
		歯科保健指導演習Ⅱ	歯 39	3 前	1				○			
		歯科衛生統計演習	歯 40	3 前	1				○			
		地域歯科衛生学	歯 41	2 前	1			○				
		地域歯科衛生演習	歯 42	3 前	1				○			
		保健医療福祉行政論		3 前	2			○				
		国際歯科衛生学	歯 44	3 前		1		○				
		歯科医療管理論	歯 45	4 前		1		○				
		総合演習		3 後	1				○			
	臨床・臨地実習	歯科診療室基礎実習	歯 47	3 前	2					○	必修22 単位	
		歯科診療所実習	歯 48	3 後	4					○		
		病院実習	歯 49	4 後	3					○		
		継続・個別支援実習Ⅰ	歯 50	3 後	2					○		
		継続・個別支援実習Ⅱ	歯 51	4 前	2					○		
		発達歯科衛生実習Ⅰ（小児）	歯 52	4 前	2					○		
		発達歯科衛生実習Ⅱ（成人・高齢者）	歯 53	4 前	2					○		
		地域歯科衛生実習	歯 54	4 前	1					○		
		歯科診療室総合実習Ⅰ	歯 55	3 後	2					○		
		歯科診療室総合実習Ⅱ	歯 56	4 前	2					○		
	研究	卒業研究Ⅰ		3 後	1				○		必修3単位	
		卒業研究Ⅱ		4 通	2				○			

先修条件

【特色科目】

- 1 「千葉県の健康づくり」を履修するには「体験ゼミナール」の単位を修得済みであること。
- 2 「社会実習（ボランティア活動）」を履修するには「体験ゼミナール」の単位を修得済みであること。

【一般教養科目】

- 1 「英語Ⅶ（上級英語）A」、「英語Ⅶ（上級英語）B」を履修するには「英語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、またはⅥ」の選択2科目の単位（2単位）を修得済みであること。

【専門科目】

- 1 歯科衛生基礎演習を履修するには、口腔微生物学、口腔衛生学の単位を修得済みであること。
- 2 歯科保健指導演習Ⅰを履修するには、保健行動科学論、歯科保健指導・健康教育論の単位を修得済みであること。
- 3 歯科保健指導演習Ⅱを履修するには、歯科衛生アセスメント論の単位を修得済みであること。
- 4 歯科診療室基礎実習を履修するには、歯科診療補助演習の単位を修得済みであること。
- 5 歯科診療室基礎実習及び病院実習を除く臨床・臨地実習を履修するには、保健医療基礎科目及び専門科目のうち、3年次前期までに配当されているすべての必修科目の単位を修得済みであること。
- 6 病院実習を履修するには、3年次後期までに配当されているすべての必修科目の単位を修得済みで、4年次前期に配当されているすべての必修科目の単位を修得済みであること。
- 7 卒業研究を履修するには、原則として3年次前期までに配当されているすべての必修科目の単位を修得済みであること。

進級要件

以下の要件を満たした者でなければ、3年次に進級できない。

- 1 1・2年次に配当された特色科目および保健医療基礎科目の必修科目の単位を修得済みの者。
- 2 1・2年次に配当された専門科目のうち、専門基礎科目、歯科衛生基礎科目の単位を修得済みの者。

卒業要件

科目区分	必修科目	選択科目	合 計
特色科目	3 単位	0 単位	3 単位
一般教養科目	11 単位	13 単位	24 単位
保健医療基礎科目	13 単位	3 単位	16 単位
専門科目	81 単位	2 単位	83 単位
合 計	108 単位	18 単位	126 単位

別表（歯科衛生学科 2019 年度以降入学生用）

科目区分		授業科目の名称	ページ	配当年次	単位数			授業形態			履修方法等	
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習		
特色科目		体験ゼミナール	特色 1	1 前	1					○	必修 3 単位	
		千葉県の健康づくり	特色 2	2 後	1				○			
		専門職間の連携活動論	特色 3	4 後	1				○			
		社会実習（ボランティア活動）	特色 4	2・3・4			1			○		
一般教養科目	人間理解群	心理学	一般 1	1・2・3・4 前		2		○			必修 9 単位	【一般教養科目】 選択科目から選択 1 単位
		哲学	一般 2	1・2・3・4 前		2		○				
		文学	一般 3	1・2・3・4 前		2		○				
		歴史と文化	一般 4	1・2・3・4 前		2		○				
		生命倫理	一般 5	1・2・3・4 後	2			○				
		宗教学	一般 6	1・2・3・4 後		2		○				
		教育学	一般 7	1・2・3・4 後		2		○				
		人間関係論	一般 8	1・2・3・4 前		2		○				
		コミュニケーション理論と実際	一般 9	1・2・3・4 前		2		○				
		健康スポーツ科学	一般 10	1・2・3・4 前後	1				○			
		生涯身体運動科学	一般 11	1・2・3・4 前後		1			○			
	生活と環境群	生活とデザイン	一般 12	1・2・3・4 後		2		○				
		法学（日本国憲法）	一般 13	1・2・3・4 前	2			○				
		社会学	一般 14	1・2・3・4 後		2		○				
		文化人類学	一般 15	1・2・3・4 前		2		○				
		経済学	一般 16	1・2・3・4 前		2		○				
		国際関係論	一般 17	1・2・3・4 後		2		○				
		社会福祉学	一般 18	1・2・3・4 前		1		○				
		国際的な健康課題	一般 19	1・2・3・4 後		1		○				
		人権・ジェンダー	一般 20	1・2・3・4 後		2		○				
		科学論	一般 21	1・2・3・4 前		2		○				
		環境変化と生態	一般 22	1・2・3・4 後		2		○				
		観察生物学入門	一般 23	1・2・3・4 前後		2		○				
		生物学	一般 24	1・2・3・4 前後	2			○				
		物理学	一般 25	1・2・3・4 前		2		○				
		化学	一般 26	1・2・3・4 前		2		○				
	情報理解群	統計学	一般 27	1・2・3・4 後	1				○			
		情報リテラシーⅠ	一般 28	1・2・3・4 前	1				○			
		情報リテラシーⅡ	一般 29	1・2・3・4 後		1			○			
		情報倫理	一般 30	1・2・3・4 後		1		○				
		実践統計学	一般 31	2・3・4 前		1		○				
	外国語群	英語Ⅰ（講読）	一般 32	1・2・3・4 前		1			○		必修 2 単位 ＋ 選択 2 単位	
		英語Ⅱ（英会話）	一般 33	1・2・3・4 前		1			○			
		英語Ⅲ（講読・記述）	一般 34	1・2・3・4 後		1			○			
		英語Ⅳ（英語コミュニケーション）	一般 35	1・2・3・4 後		1			○			
		英語Ⅴ（保健医療英語）	一般 36	2 前	2			○				
		英語Ⅵ（応用英語）	一般 37	1・2・3・4 後		1			○			
		英語Ⅶ（上級英語）A	一般 38	2・3・4 後		1		○				
		英語Ⅶ（上級英語）B	一般 39	2・3・4 後		1		○				

別表（歯科衛生学科 2019 年度以降入学生用）

科目区分		授業科目の名称	ページ	配当年次	単位数			授業形態			履修方法等	
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習		
保健医療基礎科目	人間のこころと身体	運動生理学総論	保健 1	2 前		1		○			必修 13 単位 ＋ 選択 3 単位	
		生化学総論	保健 2	1 前		1		○				
		栄養学Ⅰ（基礎）	保健 3	1 後	1			○				
		栄養学Ⅱ（応用）	保健 4	1 後	1			○				
		心の健康	保健 5	1 後		1		○				
		薬理学Ⅰ（総論）	保健 6	1 後	1			○				
		薬理学Ⅱ（各論）	保健 7	1 後	1			○				
		病理学Ⅰ（総論）	保健 8	1 前	1			○				
		病理学Ⅱ（各論）	保健 9	1 前	1			○				
		微生物学Ⅰ（総論）	保健 10	1 前	1			○				
		微生物学Ⅱ（各論）	保健 11	1 前	1			○				
		発達心理学	保健 12	1 前		1		○				
		臨床心理学	保健 13	1 後		1			○			
	健康と保健医療システム	健康論	保健 14	1 前		1		○				
		公衆衛生学Ⅰ（基礎）	保健 15	2 前	1			○				
		公衆衛生学Ⅱ（応用）	保健 16	2 後		1		○				
		疫学・保健統計Ⅰ（基礎）	保健 17	3 前		1		○				
		疫学・保健統計Ⅱ（応用）	保健 18	3 前		1		○				
		リハビリテーション概論	保健 19	2 後	1			○				
		救命・救急の理論と実際	保健 20	2 前	1			○				
		画像診断学	保健 21	2・3・4 後		1		○				
		保健医療福祉論Ⅰ（基礎）	保健 22	2 後	1			○				
		保健医療福祉論Ⅱ（応用）	保健 23	2 後	1			○				
		食育論Ⅰ（基礎）	保健 24	3 前		1		○				
		食育論Ⅱ（応用）	保健 25	3 前		1		○				
		健康と運動	保健 26	1 後		1		○				
		家族社会学	保健 27	1 前		1		○				
		医療経営管理論	保健 28	4 後		1		○				
		リスクマネジメント論	保健 29	2 後		1		○				
専門科目	歯科衛生基礎	解剖学	歯 1	1 前	2			○			必修 27 単位	
		生理学	歯 2	1 後	2			○				
		内科学概論	歯 3	1 後	1			○				
		高齢者医療論	歯 4	2 後	1			○				
		口腔解剖学	歯 5	1 前	2			○				
		口腔生理学	歯 6	2 前	1			○				
		口腔病理学	歯 7	1 後	1			○				
		口腔微生物学	歯 8	1 後	1			○				
		歯科薬理学	歯 9	2 前	1			○				
		歯科生化学・臨床検査法		1 後	1			○				
		口腔衛生学	歯 11	1 後	2			○				
		歯科診断学	歯 12	2 後	1			○				
		歯科矯正学	歯 13	3 前	1			○				
		歯科材料学	歯 14	2 前	1			○				
		歯科保存学	歯 15	2 前	2			○				

別表（歯科衛生学科 2019 年度以降入学生用）

科目区分	授業科目の名称	ページ	配当年次	単位数			授業形態			履修方法等
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	
専門科目	歯科衛生基礎	歯周治療学	歯 16	2 前	1		○			
		歯科補綴学	歯 17	2 前	2		○			
		顎口腔外科学	歯 18	2 前	2		○			
		顎口腔機能論	歯 19	2 前	1		○			
		歯科衛生基礎演習	歯 20	2 前	1			○		
	生涯歯科衛生	歯科衛生学概論	歯 21	1 前	2		○			必修 19 単位
		歯科医療安全論	歯 22	2 前	1		○			
		チーム歯科医療論	歯 23	2 前	1		○			
		歯科疾患予防学	歯 24	2 後	1		○			
		発達歯科衛生学Ⅰ(小児)	歯 25	2 後	2		○			
		発達歯科衛生学Ⅱ(成人・高齢者)	歯 26	2 後	3		○			
		歯科衛生体験演習Ⅰ		1 後	1			○		
		歯科衛生体験演習Ⅱ	歯 28	2 後	1			○		
		歯科診療補助演習	歯 29	3 前	2			○		
		歯科予防処置演習	歯 30	3 前	2			○		
		顎口腔機能リハビリテーション論	歯 31	2 後	1		○			
		顎口腔機能リハビリテーション演習	歯 32	3 前	1			○		
		在宅歯科衛生管理論Ⅰ	歯 33	3 前	1		○			
		在宅歯科衛生管理論Ⅱ	歯 34	4 前		1	○			
	歯科衛生健康推進	歯科衛生アセスメント論	歯 35	3 前	1		○			必修 11 単位
		保健行動科学論	歯 36	1 後	1		○			
		歯科保健指導・健康教育論	歯 37	2 前	1		○			
		歯科保健指導演習Ⅰ	歯 38	2 後	2			○		
		歯科保健指導演習Ⅱ	歯 39	3 前	1			○		
		歯科衛生統計演習	歯 40	3 前	1			○		
		地域歯科衛生学	歯 41	2 前	1		○			
		地域歯科衛生演習	歯 42	3 前	1			○		
		衛生行政	歯 43	2 後	1		○			
		国際歯科衛生学	歯 44	3 前		1	○			
		歯科医療管理論	歯 45	4 前		1	○			
		社会保障・社会保険論	歯 46	3 前	1		○			
	臨床・臨地実習	歯科診療室基礎実習	歯 47	3 前	2				○	必修 22 単位
		歯科診療所実習	歯 48	3 後	4				○	
		病院実習	歯 49	4 後	3				○	
		継続・個別支援実習Ⅰ	歯 50	3 後	2				○	
		継続・個別支援実習Ⅱ	歯 51	4 前	2				○	
		発達歯科衛生実習Ⅰ(小児)	歯 52	4 前	2				○	
		発達歯科衛生実習Ⅱ(成人・高齢者)	歯 53	4 前	2				○	
		地域歯科衛生実習	歯 54	4 前	1				○	
		歯科診療室総合実習Ⅰ	歯 55	3 後	2				○	
		歯科診療室総合実習Ⅱ	歯 56	4 前	2				○	
	研究	卒業研究	歯 57	3 後～4 通	2			○		必修 2 単位

別表（歯科衛生学科 2019 年度以降入学生用）

先修条件

【特色科目】

- 1 「千葉県の健康づくり」を履修するには「体験ゼミナール」の単位を修得済みであること。
- 2 「社会実習（ボランティア活動）」を履修するには「体験ゼミナール」の単位を修得済みであること。

【一般教養科目】

- 1 「実践統計学」を履修するには「統計学」の単位を修得済みであること。
- 2 「英語Ⅶ（上級英語）A」、「英語Ⅶ（上級英語）B」を履修するには「英語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、またはⅥ」の選択2科目の単位（2単位）を修得済みであること。

【専門科目】

- 1 歯科衛生基礎演習を履修するには、口腔微生物学、口腔衛生学の単位を修得済みであること。
- 2 歯科保健指導演習Ⅰを履修するには、保健行動科学論、歯科保健指導・健康教育論の単位を修得済みであること。
- 3 歯科保健指導演習Ⅱを履修するには、歯科衛生アセスメント論の単位を修得済みであること。
- 4 歯科診療室基礎実習を履修するには、歯科診療補助演習の単位を修得済みであること。
- 5 歯科診療室基礎実習及び病院実習を除く臨床・臨地実習を履修するには、保健医療基礎科目及び専門科目のうち、3年次前期までに配当されているすべての必修科目の単位を修得済みであること。
- 6 病院実習を履修するには、3年次後期までに配当されているすべての必修科目の単位を修得済みで、4年次前期に配当されているすべての必修科目の単位を修得済みであること。
- 7 卒業研究を履修するには、原則として3年次前期までに配当されているすべての必修科目の単位を修得済みであること。

進級要件

以下の要件を満たした者でなければ、3年次に進級できない。

- 1 1・2年次に配当された特色科目および保健医療基礎科目の必修科目の単位を修得済みの者。
- 2 1・2年次に配当された専門科目のうち、専門基礎科目、歯科衛生基礎科目の単位を修得済みの者。

卒業要件

科目区分	必修科目	選択科目	合 計
特色科目	3 単位	0 単位	3 単位
一般教養科目	11 単位	13 単位	24 単位
保健医療基礎科目	13 単位	3 単位	16 単位
専門科目	81 単位	2 単位	83 単位
合 計	108 単位	18 単位	126 単位

5 リハビリテーション学科

1 教育理念

リハビリテーション学科では、学生教育を重視し、卒業後も地域における保健医療及び福祉の分野で実践活動ができる専門職の人材を育成することを基本的役割とする。

障害のある者又は障害が予測される者、及びその家族を含め地域で生活する人々が、その住みなれた地域で生活の質を維持することができるように、保健医療及び福祉に関する基本的な能力を身につけた理学療法士・作業療法士を育成する。

多様化する社会的ニーズに対応できるよう、科学的根拠に基づいた専門的な知識・技術・技能の基礎を習得し、実践技術の基本的な能力を身につけ、広く社会に貢献できる人材を育成する。

さらに、生涯学習を基にした自己研鑽ができる能力を育み、県内の優れた理学療法士・作業療法士の指導者になりうることは勿論、国際貢献ができる高い資質をもち、人々の健康や保健医療及び福祉の向上とリハビリテーションの発展に貢献する人材を育成する。

2 学科の目的

教育理念を実現するために、以下の人材育成を学科の目的としています。

- (1) それぞれの病期・年齢・障害など、対象者に応じて適切なリハビリテーション技術としての支援・援助・指導の基本的能力と対象者とその家族に接する基本的態度を培う。
- (2) 高い倫理観に基づき、また、人権を重視して、保健・医療・福祉現場で分け隔てることなく生活自立を支援できる能力を育成する。
- (3) 「障害のある人もない人も共に暮らしやすい千葉県づくり条例」を理解し、障害の有無にかかわらずリハビリテーション実践を考えることができる基本的態度を培う。
- (4) 臨床現場での疑問に関して、関連文献などを幅広く吟味した上でリハビリテーション技術の妥当性を評価し、対象者の価値観や意向などを科学的に判断して専門的な知識・技術・技能を提供できる能力を育成する。
- (5) リハビリテーションに関する問題解決に主体的に取り組み、また、その発展に生涯にわたって貢献することができる能力を育成する。
- (6) 国際交流や国際貢献などを含め、専門職種に求められる広い視野を持ち、国内外を問わず幅広く専門性を追求できる能力を育成する。

3 教育課程

(1) 理学療法学専攻

理学療法学専攻における卒業に必要な取得単位数を126単位とする。ただし、平成31年度入学生からは卒業に必要な取得単位数を130単位とする。卒業時には、理学療法士国家試験の受験資格を得ることができる。

(2) 作業療法学専攻

作業療法学専攻における卒業に必要な取得単位数を126単位とする。ただし、平成31年度入学生からは卒業に必要な取得単位数を130単位とする。卒業時には、作業療法士国家試験の受験資格を得ることができる。

【リハビリテーション学科理学療法学専攻】

＜教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）＞

リハビリテーション学科理学療法学専攻では、知識や技術の習得のみならず、豊かな人間性と高い倫理観を備え、多職種と連携・協働し、質の高い理学療法を提供できる人材の育成を目指している。また、将来、リーダーを取り得る素養を備えた理学療法士の育成を目指している。

このような教育理念・学科の目的に基づき、ディプロマ・ポリシーを達成するために、以下の方針を基本に据え、カリキュラム（教育課程）を編成する。

- 1 高い倫理観と豊かな人間性を養うとともに、専門分野における知識・技術に加え関連分野の理解を深めることを可能とする系統的で統合性のある編成とする。とりわけリハビリテーション学科理学療法学専攻では、多職種と連携・協働し、質の高いリハビリテーションサービスを提供できる人材の育成のための実践力重視のカリキュラムを編成する。
- 2 「特色科目」、「一般教養科目」、「保健医療基礎科目」、「専門科目」の4つの基本的枠組みから構成し、講義、演習、実験・実習を効果的に組合せて行う。
- 3 「特色科目」は、学科の枠を超えたチーム活動を通じて学ぶ、本学独自の科目である。千葉県民の多様な生活と価値観を体験的に学び、千葉県の保健医療福祉施策や実践活動を理解し、多職種連携による保健医療の実践力を修得することを目的とした科目を段階的に配置する。
- 4 「一般教養科目」は、人間や社会を総合的に理解する幅広い教養と知識を身につけ、科学的根拠に基づいた的確な判断や創造的に課題を発見し解決するための汎用的技能を身につけ、多様な人々との相互理解を築くための総合的な力を育成することを目的とした科目を配置する。とりわけリハビリテーション学科理学療法学専攻では、課題解決能力やそれを達成するためのコミュニケーション能力、科学的な洞察力を育むことを目的とした科目を必修とする。
- 5 「保健医療基礎科目」は、保健医療専門職として求められる基礎的な知識・技術・態度を学び、その後のより専門的・体系的な学習内容につなげることを目的とした科目を配置する。とりわけリハビリテーション学科理学療法学専攻では、健康づくり、疾病・障害の概念を理解し、社会構造や社会的ニーズの変化に対応し、地域環境の整備・改善に取り組むことができる力を育むことを目的とした科目を必修とする。
- 6 「特色科目」、「一般教養科目」、「保健医療基礎科目」いずれも、他学科・専攻の学生との交流が可能になるよう科目名称を統一し、一緒に受講できるように配置する。
- 7 「専門科目」は、各学科・専攻の専門分野に関して科学的根拠に基づく専門的知識と実践技術を段階的に学び、これらを統合して活用する力を育むとともに、生涯を通じて自己研鑽する力を育むことを目的とした科目を配置する。とりわけリハビリテーション学科理学療法学専攻では、リハビリテーションの基礎となる医学的知識を修得できるよう作業療法学専攻と合同で「リハビリテーション専門基礎科目」を配置する。理学療法学の専門科目は、「理学療法専門基礎科目」で専門的な基礎知識を段階的に学習し、「理学療法専門科目」で理学療法の各領域における専門的知識・技術を習得し、「臨床実習」で知識・技術を臨床現場において統合し、「卒業研究」で科学的探究心を育成できるよう配置する。
- 8 常に上記の各項目の点検を怠ることなくカリキュラムを運営する。

【リハビリテーション学科理学療法学専攻】

＜学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）＞

千葉県立保健医療大学健康科学部学位授与の方針に基づき、本学所定の単位を修め、以下に示す成果が得られた学生に卒業と同時に学士（理学療法学）を授与する。

I 倫理観とプロフェッショナリズム

理学療法学専攻の学生は、卒業時に倫理的な原則を遵守し、理学療法士としての責務を果たすことができる。

II コミュニケーション能力

理学療法学専攻の学生は、卒業時に対象者とそれを支える人、保健・医療・教育・福祉職に対してお互いの立場を尊重した人間関係を構築して、適切にコミュニケーションをとることができる。

III 実践に必要な知識

理学療法学専攻の学生は、卒業時に高い教養を身に付け、理学療法の実践に必要な知識を有し、それを健康づくり・介護予防の支援に活用することができる。

IV 健康づくりの実践

理学療法学専攻の学生は、卒業時に個人・家族・地域に対し健康的またはその人らしい生活を送るための問題解決と健康増進に向けて、根拠に基づいた適切で有効な理学療法技術を提供できる。

V 健康づくりの環境の整備・改善

理学療法学専攻の学生は、卒業時に人々の健康のために、対象者自らが主体的に健康づくりおよびリハビリテーションに取り組むことを支援するとともに、健康を志向する地域環境（人・物・制度）の整備・改善に努めることができる。

VI 多職種との協働

理学療法学専攻の学生は、卒業時に対象者を中心とした安全で質の高い保健・医療・福祉を実践するために、自身の役割を認識し、多職種との相互理解を深めながら行動することができる。

VII 生涯にわたる探究心と自己研鑽

理学療法学専攻の学生は、卒業時に論理的思考による探究心を身につけ、自己研鑽に励み、自己および専門職として生涯にわたり成長できる資質を示すことができる。

【リハビリテーション学科作業療法学専攻】

＜教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）＞

リハビリテーション学科作業療法学専攻では、地域を基盤としたその人らしい生活の実現に向け、知識や技術の習得のみならず、高い倫理観と豊かな人間性を備え、多職種と連携・協働し、質の高い作業療法を提供できる人材の育成を目指している。

このような教育理念・学部の目的に基づき、ディプロマ・ポリシーを達成するために、以下の方針を基本に据え、カリキュラム（教育課程）を編成する。

- 1 高い倫理観と豊かな人間性を養うとともに、専門分野における知識・技術に加え関連分野の理解を深めることを可能とする系統的で統合性のある編成とする。とりわけリハビリテーション学科作業療法学専攻では、保健医療福祉等の幅広い領域での高度化・専門化や社会の多様化に対応できる専門的知識と技術を身につけ、人々の健康を広い視点でとらえ、確かな作業療法実践能力を育む編成とする。
- 2 「特色科目」、「一般教養科目」、「保健医療基礎科目」、「専門科目」の4つの基本的枠組みから構成し、講義、演習、実験・実習を効果的に組合せて行う。
- 3 「特色科目」は、学科の枠を超えたチーム活動を通じて学ぶ、本学独自の科目である。千葉県民の多様な生活と価値観を体験的に学び、千葉県の保健医療福祉施策や実践活動を理解し、多職種連携による保健医療の実践力を修得することを目的とした科目を段階的に配置する。
- 4 「一般教養科目」は、人間や社会を総合的に理解する幅広い教養と知識を身につけ、科学的根拠に基づいた的確な判断や創造的に課題を発見し解決するための汎用的技能を身につけ、多様な人々との相互理解を築くための総合的な力を育成することを目的とした科目を配置する。とりわけリハビリテーション学科作業療法学専攻では、国際的な視点での課題解決能力やそれを達成するためのコミュニケーション能力、科学的な洞察力を育むことを目的とした科目を必修とする。
- 5 「保健医療基礎科目」は、保健医療専門職として求められる基礎的な知識・技術・態度を学び、その後のより専門的・体系的な学習内容につなげることを目的とした科目を配置する。とりわけリハビリテーション学科作業療法学専攻では、健康づくり、疾病・障害の概念を理解し、社会構造や社会的ニーズの変化に対応し、地域環境の整備・改善に取り組むことができる力を育むことを目的とした科目を必修とする。
- 6 「特色科目」、「一般教養科目」、「保健医療基礎科目」いずれも、他学科・専攻の学生との交流が可能になるよう科目名称を統一し、一緒に受講できるように配置する。
- 7 「専門科目」は、各学科・専攻の専門分野に関して科学的根拠に基づく専門的知識と実践技術を段階的に学び、これらを統合して活用する力を育むとともに、生涯を通じて自己研鑽する力を育むことを目的とした科目を配置する。とりわけリハビリテーション学科作業療法学専攻では、リハビリテーションの基礎となる医学的知識を理学療法学専攻と合同で修得できるよう「リハビリテーション専門基礎科目」を配置する。作業療法学の専門科目は、「基礎作業療法学」「実践作業療法学」「臨床実習」「研究」で構成され、系統的に学修できるよう各科目を配置する。
- 8 常に上記の各項目の点検を怠ることなくカリキュラムを運営する。

【リハビリテーション学科作業療法学専攻】

＜学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）＞

千葉県立保健医療大学健康科学部学位授与の方針に基づき、本学所定の単位を修め、以下の学習成果が得られた学生に卒業と同時に学士（作業療法学）の学位を授与する。

I 倫理観とプロフェッショナリズム

作業療法学専攻の学生は、卒業時に倫理的な原則を遵守し、専門職としての責務を果たすことができる。

II コミュニケーション能力

作業療法学専攻の学生は、卒業時に対象者とそれを支える人、保健・医療・教育・福祉職に対してお互いの立場を尊重した人間関係を構築し、生き生きとしたコミュニケーションをとることができる。

III 実践に必要な知識

作業療法学専攻の学生は、卒業時に専門領域の実践に必要な知識を有し、健康づくりの支援に活用することができる。

IV 健康づくりの実践

作業療法学専攻の学生は、卒業時に個人・家族・地域に対し健康的またはその人らしい生活を送るための問題解決と健康増進に向けて、根拠に基づいた適切で有効な健康づくりの支援を提供できる。

V 健康づくりの環境の整備・改善

作業療法学専攻の学生は、卒業時に人々の健康的またはその人らしい生活を送るための問題解決と健康増進に向けて、健康を志向する地域環境（人・物・制度）の整備・改善に努めることができる。

VI 多職種との協働

作業療法学専攻の学生は、卒業時に対象者を中心とした安全で質の高い保健・医療・福祉を実践するために、自身の役割を認識し、多職種との相互理解を深めながら行動することができる。

VII 生涯にわたる探究心と自己研鑽

作業療法学専攻の学生は、卒業時に論理的思考を身につけ、自己および専門職として生涯にわたり成長できる資質を示すことができる。

別表（リハビリテーション学科理学療法学専攻 2025 年度以降入学生用）

科目区分	授業科目の名称	ページ	配当年次	単位数			授業形態			履修方法等
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	
特色科目	体験ゼミナール	特色 1	1 前	1					○	必修 3 単位
	千葉県の健康づくり	特色 2	2 後	1				○		
	専門職間の連携活動論	特色 3	4 後	1				○		
	社会実習（ボランティア活動）	特色 4	2・3・4			1			○	
一般教養科目	人間理解群	一般 1	1・2・3・4 前		2		○			必修 4 単位
		一般 2	1・2・3・4 前		2		○			
		一般 3	1・2・3・4 前		2		○			
		一般 4	1・2・3・4 前		2		○			
		一般 5	1・2・3・4 後		2		○			
		一般 6	1・2・3・4 後		2		○			
		一般 7	1・2・3・4 後		2		○			
		一般 8	1・2・3・4 前	2			○			
		一般 9	1・2・3・4 前	2			○			
		一般 10	1・2・3・4 前後		1			○		
		一般 11	1・2・3・4 前後		1			○		
	生活と環境群	一般 12	1・2・3・4 後		2		○			必修 2 単位 一般教養科目から選択 1 1 単位
		一般 13	1・2・3・4 前		2		○			
		一般 14	1・2・3・4 後		2		○			
		一般 15	1・2・3・4 前		2		○			
		一般 16	1・2・3・4 前		2		○			
		一般 17	1・2・3・4 後		2		○			
		一般 18	1・2・3・4 前		1		○			
		一般 19	1・2・3・4 後		1		○			
		一般 20	1・2・3・4 後		2		○			
		一般 21	1・2・3・4 前		2		○			
		一般 22	1・2・3・4 後		2		○			
		一般 23	1・2・3・4 前後		2		○			
		一般 24	1・2・3・4 前後		2		○			
		一般 25	1・2・3・4 前	2			○			
		一般 26	1・2・3・4 前		2		○			
	情報理解群	一般 27	1・2・3・4 後	1				○		必修 3 単位
		一般 28	1・2・3・4 前	1				○		
		一般 29	1・2・3・4 後		1			○		
		一般 30	1・2・3・4 後	1			○			
	外国語群	一般 32	1・2・3・4 前		1			○		必修 2 単位 ＋ 選択 2 単位
		一般 33	1・2・3・4 前		1			○		
		一般 34	1・2・3・4 後		1			○		
		一般 35	1・2・3・4 後		1			○		
		一般 36	2 前	2			○			
		一般 37	1・2・3・4 後		1			○		
		一般 38	2・3・4 後		1		○			
		一般 39	2・3・4 後		1		○			

別表（リハビリテーション学科理学療法学専攻 2025 年度以降入学生用）

科目区分	授業科目の名称	ページ	配当年次	単位数			授業形態			履修方法等
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実	
保健医療基礎科目	人間のこころと身体	運動生理学総論	保健 1	2 前	1		○			必修 1 1 単位 + 選択 2 単位
		生化学総論	保健 2	1 前	1		○			
		栄養学Ⅰ（基礎）	保健 3	1 後	1		○			
		栄養学Ⅱ（応用）	保健 4	1 後	1		○			
		心の健康	保健 5	1 後	1		○			
		薬理学Ⅰ（総論）	保健 6	1 後	1		○			
		薬理学Ⅱ（各論）	保健 7	1 後	1		○			
		病理学Ⅰ（総論）	保健 8	1 前	1		○			
		病理学Ⅱ（各論）	保健 9	1 前	1		○			
		微生物学Ⅰ（総論）	保健 10	1 前	1		○			
		微生物学Ⅱ（各論）	保健 11	1 前	1		○			
		発達心理学	保健 12	1 前	1		○			
		臨床心理学	保健 13	1 後	1			○		
	健康と保健医療システム	健康論	保健 14	1 前	1		○			
		公衆衛生学Ⅰ（基礎）	保健 15	2 前	1		○			
		公衆衛生学Ⅱ（応用）	保健 16	2 後	1		○			
		疫学・保健統計Ⅰ（基礎）	保健 17	3 前	1		○			
		疫学・保健統計Ⅱ（応用）	保健 18	3 前	1		○			
		保健医療情報論		4 後	1		○			
		リハビリテーション概論	保健 19	1 後	1		○			
		救命・救急の理論と実際	保健 20	2 前	1		○			
		画像診断学	保健 21	2 後	1		○			
		保健医療福祉論Ⅰ（基礎）	保健 22	2 後	1		○			
		保健医療福祉論Ⅱ（応用）	保健 23	2 後	1		○			
		食育論Ⅰ（基礎）	保健 24	3 前	1		○			
		食育論Ⅱ（応用）	保健 25	3 前	1		○			
		健康と運動	保健 26	1 後	1		○			
		家族社会学	保健 27	1 前	1		○			
		医療経営管理論	保健 28	4 後	1		○			
		リスクマネジメント論	保健 29	2 後	1		○			
専門科目	リハビリテーション専門基礎科目	人体の構造Ⅰ（筋・骨・神経系の構造）	理 1	1 前	1			○		必修 2 4 単位 + 選択 1 単位
		人体の構造Ⅱ（脈管・内臓・感覚器の構造）	理 2	1 後	1			○		
		人体の構造実習	理 3	1 後	1				○	
		人体の機能Ⅰ（動物性機能）	理 4	1 前	1			○		
		人体の機能Ⅱ（植物性機能）	理 5	1 後	1			○		
		人体の機能実習	理 6	2 前	1				○	
		運動学Ⅰ（運動の基礎科学）	理 7	1 前	1			○		
		運動学Ⅱ（応用的運動科学）	理 8	1 後	1			○		
		臨床運動学	理 10	2 前	1			○		
		機能解剖学	理 11	1 後	1			○		
		人間工学	理 12	2 後	1			○		
		人間発達学	理 13	2 前	1			○		
		医学総論	理 14	1 後	1		○			
		内科学総論	理 15	2 前	1			○		
		内科学各論	理 16	2 後	1			○		
		神経内科学総論	理 17	2 前	1			○		
		神経内科学各論	理 18	2 後	1			○		
		整形外科総論	理 19	2 前	1			○		

別表（リハビリテーション学科理学療法学専攻 2025 年度以降入学生用）

科目区分	授業科目の名称	ページ	配当年次	単位数			授業形態			履修方法等
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	
	整形外科学各論	理 20	2 後	1	1			○		
	精神神経科学総論	理 21	2 前	1				○		
	精神神経科学各論	理 22	2 後					○		
	臨床薬理学	理 23	2 後	1			○			
	老年科学	理 24	3 前	1				○		
	小児科学	理 25	3 前	1				○		
	臨床医学概論	理 26	3 前	1				○		
	リハビリテーション医学	理 27	3 前	1				○		
専門科目	理学療法概論	理 28	1 前	1				○		必修 2 1 単位
	理学療法管理学	理 29	4 後	2			○			
	理学療法リーダーシップ論		4 後	1			○			
	運動療法学	理 30	2 前	2			○			
	理学療法評価学Ⅰ	理 31	2 前	2			○			
	理学療法評価学演習	理 32	2 前	1				○		
	理学療法評価学Ⅱ(神経系)	理 33	2 後	2			○			
	理学療法評価学Ⅲ(統合・解釈)	理 34	2 後	1				○		
	日常生活活動学	理 36	2 前	2			○			
	日常生活活動学演習	理 37	2 後	1				○		
	物理療法学	理 38	2 後	1			○			
	物理療法学演習	理 39	2 後	1				○		
	義肢装具学	理 40	3 前	2			○			
	義肢装具学演習	理 41	3 前	1				○		
	理学療法研究方法論	理 42	3 前	1				○		
	運動器障害理学療法学	理 43	2 前	2			○			必修 2 1 単位
	運動器障害理学療法学演習	理 44	3 前	1				○		
	運動器障害理学療法治療学		3 後	1				○		
	神経系障害理学療法学	理 45	2 前	2			○			
	神経系障害理学療法学演習	理 46	3 前	1				○		
	神経系障害理学療法治療学		3 後	1				○		
	内部障害理学療法学	理 49	2 後	2			○			
	内部障害理学療法学演習	理 50	3 前	1				○		
	内部障害理学療法治療学		3 後	1				○		
	発達障害理学療法学	理 53	2 後	2			○			
	発達障害理学療法学演習	理 54	3 前	1				○		
	発達障害理学療法治療学		3 後	1			○			
	地域理学療法学	理 56	3 前	2			○			
	地域理学療法学演習	理 57	3 後	1				○		
	生体機能計測学	理 59	3 前	1				○		
	理学療法応用評価学	理 60	3 後	1				○		
	スポーツ傷害理学療法学		3 後		1		○			
	ウィメンズヘルス理学療法学		3 後		1		○			

別表（リハビリテーション学科理学療法学専攻 2025 年度以降入学生用）

	臨床実習	臨床体験実習	理 62	1 後	1					○	必修 20 単位
		評価実習	理 63	3 後	4					○	
		総合実習Ⅰ	理 64	4 前	7					○	
		総合実習Ⅱ	理 65	4 前	7					○	
		地域理学療法学実習	理 66	4 後	1					○	
研究		卒業研究Ⅰ		3 後	1			○			必修 3 単位
		卒業研究Ⅱ		4 通	2				○		

先修条件

【特色科目】

- 1 「千葉県の健康づくり」を履修するには「体験ゼミナール」の単位を修得済みであること。
- 2 「社会実習（ボランティア活動）」を履修するには「体験ゼミナール」の単位を修得済みであること。

【一般教養科目】

- 1 「英語Ⅶ(上級英語)A」「英語Ⅶ(上級英語)B」を履修するには「英語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、またはⅥ」の選択 2 単位を修得済みであること。

【専門科目】

- 1 2 年次配当の「リハビリテーション専門基礎科目」「理学療法専門基礎科目」を履修するには、1 年次配当の「リハビリテーション専門基礎科目」および「理学療法概論」の単位を修得済みであること。
- 2 「評価実習」を履修するには、3 学年前期までに開講するすべての必修科目の単位を修得済みであること。
- 3 「総合実習Ⅰ」、「総合実習Ⅱ」、「地域理学療法学実習」および「卒業研究」を履修するには、3 学年後期までに開講するすべての必修科目の単位を修得済みであること。

進級要件

以下の要件を満たした者でなければ、3 年次に進級できない。

- 1 1・2 年次に配当された特色科目および保健医療基礎科目の必修科目の単位を修得済みの者。
- 2 1・2 年次に配当された専門科目の必修科目の単位を修得済みの者。

卒業要件

科目区分	必修科目	選択科目	合 計
特色科目	3 単位	0 単位	3 単位
一般教養科目	11 単位	13 単位	24 単位
保健医療基礎科目	11 単位	2 単位	13 単位
専門科目	89 単位	1 単位	90 単位
合 計	114 単位	16 単位	130 単位

別表（リハビリテーション学科理学療法学専攻 2019年度以降入学生用）

科目区分	授業科目の名称	ページ	配当年次	単位数			授業形態			履修方法等
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	
特色科目	体験ゼミナール	特色 1	1 前	1					○	必修 3 単位
	千葉県の健康づくり	特色 2	2 後	1				○		
	専門職間の連携活動論	特色 3	4 後	1				○		
	社会実習（ボランティア活動）	特色 4	2・3・4			1			○	
一般教養科目	人間理解群	心理学	一般 1	1・2・3・4 前		2		○		必修 4 単位
		哲学	一般 2	1・2・3・4 前		2		○		
		文学	一般 3	1・2・3・4 前		2		○		
		歴史と文化	一般 4	1・2・3・4 前		2		○		
		生命倫理	一般 5	1・2・3・4 後		2		○		
		宗教学	一般 6	1・2・3・4 後		2		○		
		教育学	一般 7	1・2・3・4 後		2		○		
		人間関係論	一般 8	1・2・3・4 前	2			○		
		コミュニケーション理論と実際	一般 9	1・2・3・4 前	2			○		
		健康スポーツ科学	一般 10	1・2・3・4 前後		1			○	
		生涯身体運動科学	一般 11	1・2・3・4 前後		1			○	
	生活と環境群	生活とデザイン	一般 12	1・2・3・4 後		2		○		必修 2 単位 一般教養科目から選択 1 2 単位
		法学（日本国憲法）	一般 13	1・2・3・4 前		2		○		
		社会学	一般 14	1・2・3・4 後		2		○		
		文化人類学	一般 15	1・2・3・4 前		2		○		
		経済学	一般 16	1・2・3・4 前		2		○		
		国際関係論	一般 17	1・2・3・4 後		2		○		
		社会福祉学	一般 18	1・2・3・4 前		1		○		
		国際的な健康課題	一般 19	1・2・3・4 後		1		○		
		人権・ジェンダー	一般 20	1・2・3・4 後		2		○		
		科学論	一般 21	1・2・3・4 前		2		○		
		環境変化と生態	一般 22	1・2・3・4 後		2		○		
		観察生物学入門	一般 23	1・2・3・4 前後		2		○		
		生物学	一般 24	1・2・3・4 前後		2		○		
		物理学	一般 25	1・2・3・4 前	2			○		
		化学	一般 26	1・2・3・4 前		2		○		
	情報理解群	統計学	一般 27	1・2・3・4 後		1			○	必修 2 単位
		情報リテラシーⅠ	一般 28	1・2・3・4 前	1				○	
		情報リテラシーⅡ	一般 29	1・2・3・4 後		1			○	
		情報倫理	一般 30	1・2・3・4 後	1			○		
		実践統計学	一般 31	2・3・4 後		1		○		
	外国語群	英語Ⅰ（講読）	一般 32	1・2・3・4 前		1			○	必修 2 単位 + 選択 2 単位
		英語Ⅱ（英会話）	一般 33	1・2・3・4 前		1			○	
		英語Ⅲ（講読・記述）	一般 34	1・2・3・4 後		1			○	
		英語Ⅳ（英語コミュニケーション）	一般 35	1・2・3・4 後		1			○	
		英語Ⅴ（保健医療英語）	一般 36	2 前	2			○		
		英語Ⅵ（応用英語）	一般 37	1・2・3・4 後		1			○	
		英語Ⅶ（上級英語）A	一般 38	2・3・4 後		1		○		
		英語Ⅶ（上級英語）B	一般 39	2・3・4 後		1		○		

別表（リハビリテーション学科理学療法学専攻 2019 年度以降入学生用）

科目区分	授業科目の名称	ページ	配当年次	単位数			授業形態			履修方法等
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実	
保健医療基礎科目	人間のこころと身体	運動生理学総論	保健 1	2 前	1		○			必修 10 単位 + 選択 2 単位
		生化学総論	保健 2	1 前	1		○			
		栄養学Ⅰ（基礎）	保健 3	1 後	1		○			
		栄養学Ⅱ（応用）	保健 4	1 後	1		○			
		心の健康	保健 5	1 後	1		○			
		薬理学Ⅰ（総論）	保健 6	1 後	1		○			
		薬理学Ⅱ（各論）	保健 7	1 後	1		○			
		病理学Ⅰ（総論）	保健 8	1 前	1		○			
		病理学Ⅱ（各論）	保健 9	1 前	1		○			
		微生物学Ⅰ（総論）	保健 10	1 前	1		○			
		微生物学Ⅱ（各論）	保健 11	1 前	1		○			
		発達心理学	保健 12	1 前	1		○			
		臨床心理学	保健 13	1 後	1			○		
	健康と保健医療システム	健康論	保健 14	1 前	1		○			
		公衆衛生学Ⅰ（基礎）	保健 15	2 前	1		○			
		公衆衛生学Ⅱ（応用）	保健 16	2 後	1		○			
		疫学・保健統計Ⅰ（基礎）	保健 17	3 前	1		○			
		疫学・保健統計Ⅱ（応用）	保健 18	3 前	1		○			
		リハビリテーション概論	保健 19	1 後	1		○			
		救命・救急の理論と実際	保健 20	2 前	1		○			
		画像診断学	保健 21	2 後	1		○			
		保健医療福祉論Ⅰ（基礎）	保健 22	2 後	1		○			
		保健医療福祉論Ⅱ（応用）	保健 23	2 後	1		○			
		食育論Ⅰ（基礎）	保健 24	3 前	1		○			
		食育論Ⅱ（応用）	保健 25	3 前	1		○			
		健康と運動	保健 26	1 後	1		○			
		家族社会学	保健 27	1 前	1		○			
		医療経営管理論	保健 28	4 後	1		○			
		リスクマネジメント論	保健 29	2 後	1		○			
専門科目	リハビリテーション専門基礎科目	人体の構造Ⅰ（筋・骨・神経系の構造）	理 1	1 前	1			○		必修 25 単位 + 選択 1 単位
		人体の構造Ⅱ（脈管・内臓・感覚器の構造）	理 2	1 後	1			○		
		人体の構造実習	理 3	1 後	1				○	
		人体の機能Ⅰ（動物性機能）	理 4	1 前	1			○		
		人体の機能Ⅱ（植物性機能）	理 5	1 後	1			○		
		人体の機能実習	理 6	2 前	1				○	
		運動学Ⅰ（運動の基礎科学）	理 7	1 後	1			○		
		運動学Ⅱ（応用的運動科学）	理 8	2 前	1			○		
		運動学実習	理 9	2 後	1				○	
		臨床運動学	理 10	2 後	1			○		
		機能解剖学	理 11	1 後	1			○		
		人間工学	理 12	2 後	1			○		
		人間発達学	理 13	2 前	1			○		
		医学総論	理 14	1 後	1		○			
		内科学総論	理 15	2 前	1			○		
		内科学各論	理 16	2 後	1			○		
		神経内科学総論	理 17	2 前	1			○		
		神経内科学各論	理 18	2 後	1			○		
		整形外科総論	理 19	2 前	1			○		

別表（リハビリテーション学科理学療法学専攻 2019 年度以降入学生用）

科目区分	授業科目の名称	ページ	配当年次	単位数			授業形態			履修方法等
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	
	整形外科学各論	理 20	2 後	1	1			○		
	精神神経科学総論	理 21	2 前	1				○		
	精神神経科学各論	理 22	2 後					○		
	臨床薬理学	理 23	2 後	1			○			
	老年科学	理 24	3 前	1				○		
	小児科学	理 25	3 前	1				○		
	臨床医学概論	理 26	3 前	1				○		
	リハビリテーション医学	理 27	3 前	1				○		
専門科目	理学療法概論	理 28	1 前	1				○		必修 20 単位
	理学療法管理学	理 29	4 後	2			○			
	運動療法学	理 30	2 前	2			○			
	理学療法評価学Ⅰ	理 31	2 前	2			○			
	理学療法評価学演習	理 32	2 前	1				○		
	理学療法評価学Ⅱ(神経系)	理 33	2 後	1			○			
	理学療法評価学Ⅲ(統合・解釈)	理 34	2 後	1				○		
	理学療法評価学Ⅳ(画像評価)	理 35	3 後	1			○			
	日常生活活動学	理 36	2 前	2			○			
	日常生活活動学演習	理 37	2 後	1				○		
	物理療法学	理 38	2 後	1			○			
	物理療法学演習	理 39	2 後	1				○		
	義肢装具学	理 40	3 前	2			○			
	義肢装具学演習	理 41	3 前	1				○		
	理学療法研究方法論	理 42	3 前	1				○		
	運動器障害理学療法学	理 43	3 前	2	1	1	○			必修 22 単位 + 選択 1 単位
	運動器障害理学療法学演習	理 44	3 後	1				○		
	神経系障害理学療法学	理 45	3 前	2			○			
	神経系障害理学療法学演習	理 46	3 後	1				○		
	理学療法学特論Ⅰ(運動器・老年期)	理 47	3 後					○		
	理学療法学特論Ⅱ(神経系・内部・地域)	理 48	3 後					○		
	内部障害理学療法学	理 49	3 前	2			○			
	内部障害理学療法学演習	理 50	3 後	1				○		
	老年期障害理学療法学	理 51	3 前	2			○			
	老年期障害理学療法学演習	理 52	3 後	1				○		
	発達障害理学療法学	理 53	3 前	2			○			
	発達障害理学療法学演習	理 54	3 後	1				○		
	発達障害理学療法学特論	理 55	3 後				○			
	地域理学療法学	理 56	3 前	2			○			
	地域理学療法学演習	理 57	3 後	1				○		
	理学療法技術論	理 58	4 後	1				○		
	生体機能計測学	理 59	3 前					○		
	理学療法応用評価学	理 60	3 後	1				○		
	発展領域論(がん・予防・臨床研究解析法)	理 61	4 後	2			○			

別表（リハビリテーション学科理学療法学専攻 2019 年度以降入学生用）

	臨床実習	臨床体験実習	理 62	1 後	1					○	必修 20 単位
		評価実習	理 63	3 後	4					○	
		総合実習Ⅰ	理 64	4 前	7					○	
		総合実習Ⅱ	理 65	4 前	7					○	
		地域理学療法学実習	理 66	4 後	1					○	
	研究	卒業研究	理 67	4 通	2				○		必修 2 単位

先修条件

【特色科目】

- 1 「千葉県健康づくり」を履修するには「体験ゼミナール」の単位を修得済みであること。
- 2 「社会実習（ボランティア活動）」を履修するには「体験ゼミナール」の単位を修得済みであること。

【一般教養科目】

- 1 「実践統計学」を履修するには「統計学」の単位を修得済みであること。
- 2 「英語Ⅶ(上級英語)A」「英語Ⅶ(上級英語)B」を履修するには「英語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、またはⅥ」の選択 2 単位を修得済みであること。

【専門科目】

- 1 2 年次配当の「リハビリテーション専門基礎科目」「理学療法専門基礎科目」を履修するには、1 年次配当の「リハビリテーション専門基礎科目」および「理学療法概論」の単位を修得済みであること。
- 2 「評価実習」を履修するには、3 学年前期までに開講するすべての必修科目の単位を修得済みであること。
- 3 「総合実習Ⅰ」、「総合実習Ⅱ」、「地域理学療法学実習」および「卒業研究」を履修するには、3 学年後期までに開講するすべての必修科目の単位を修得済みであること。

進級要件

以下の要件を満たした者でなければ、3 年次に進級できない。

- 1 1・2 年次に配当された特色科目および保健医療基礎科目の必修科目の単位を修得済みの者。
- 2 1・2 年次に配当された専門科目の必修科目の単位を修得済みの者。

卒業要件

科目区分	必修科目	選択科目	合 計
特色科目	3 単位	0 単位	3 単位
一般教養科目	10 単位	14 単位	24 単位
保健医療基礎科目	10 単位	2 単位	12 単位
専門科目	89 単位	2 単位	91 単位
合 計	112 単位	18 単位	130 単位

別表（リハビリテーション学科作業療法学専攻 2025 年度以降入学生用）

Ⅴ 科目区分	授業科目の名称	ページ	配当年次	単位数			授業形態			履修方法等
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実	
特色科目	体験ゼミナール	特色 1	1 前	1					○	必修 3 単位
	千葉県の健康づくり	特色 2	2 後	1				○		
	専門職間の連携活動論	特色 3	4 後	1				○		
	社会実習（ボランティア活動）	特色 4	2・3・4			1			○	
一般教養科目	人間理解群	心理学	一般 1	1・2・3・4 前	2		○			必修 2 単位 ＋ 選択 2 単位 (※4)
		哲学	一般 2	1・2・3・4 前		2	○			
		文学	一般 3	1・2・3・4 前		2	○			
		歴史と文化	一般 4	1・2・3・4 前		2	○			
		生命倫理	一般 5	1・2・3・4 後		2	○			
		宗教学	一般 6	1・2・3・4 後		2	○			
		教育学	一般 7	1・2・3・4 後		2	○			
		人間関係論	一般 8	1・2・3・4 前		2	○			
		コミュニケーション理論と実際	一般 9	1・2・3・4 前		2	○			
		健康スポーツ科学	一般 10	1・2・3・4 前後		1		○		
		生涯身体運動科学	一般 11	1・2・3・4 前後		1		○		
	生活と環境群	生活とデザイン	一般 12	1・2・3・4 後		2	○			必修 2 単位
		法学（日本国憲法）	一般 13	1・2・3・4 前		2	○			
		社会学	一般 14	1・2・3・4 後		2	○			
		文化人類学	一般 15	1・2・3・4 前		2	○			
		経済学	一般 16	1・2・3・4 前		2	○			
		国際関係論	一般 17	1・2・3・4 後		2	○			
		社会福祉学	一般 18	1・2・3・4 前		1	○			
		国際的な健康課題	一般 19	1・2・3・4 後		1	○			
		人権・ジェンダー	一般 20	1・2・3・4 後		2	○			
		科学論	一般 21	1・2・3・4 前		2	○			
		環境変化と生態	一般 22	1・2・3・4 後		2	○			
		観察生物学入門	一般 23	1・2・3・4 前後		2	○			
		生物学	一般 24	1・2・3・4 前後		2	○			
		物理学	一般 25	1・2・3・4 前	2		○			
		化学	一般 26	1・2・3・4 前		2	○			
	情報理解群	統計学	一般 27	1 後	1			○		必修 2 単位
		情報リテラシーⅠ	一般 28	1 前	1			○		
		情報リテラシーⅡ	一般 29	1・2・3・4 後		1		○		
		情報倫理	一般 30	1・2・3・4 後		1	○			
	外国語群	英語Ⅰ（講読）	一般 32	1・2・3・4 前		1		○		必修 2 単位 ＋ 選択 2 単位
		英語Ⅱ（英会話）	一般 33	1・2・3・4 前		1		○		
		英語Ⅲ（講読・記述）	一般 34	1・2・3・4 後		1		○		
		英語Ⅳ（英語コミュニケーション）	一般 35	1・2・3・4 後		1		○		
		英語Ⅴ（保健医療英語）	一般 36	2 前	2		○			
		英語Ⅵ（応用英語）	一般 37	1・2・3・4 後		1		○		
		英語Ⅶ（上級英語）A	一般 38	2・3・4 後		1		○		
		英語Ⅶ（上級英語）B	一般 39	2・3・4 後		1		○		

【一般教養科目】選択科目から選択 12 単位

別表（リハビリテーション学科作業療法学専攻 2025 年度以降入学生用）

科目区分		授業科目の名称	ページ	配当年次	単位数			授業形態			履修方法等
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・	
保健医療基礎科目	人間のこころと身体	運動生理学総論	保健 1	2 前		1		○			
		生化学総論	保健 2	1 前		1		○			
		栄養学Ⅰ（基礎）	保健 3	1 後	1			○			
		栄養学Ⅱ（応用）	保健 4	1 後		1		○			
		心の健康	保健 5	1 後		1		○			
		薬理学Ⅰ（総論）	保健 6	1 後		1		○			
		薬理学Ⅱ（各論）	保健 7	1 後		1		○			
		病理学Ⅰ（総論）	保健 8	1 前	1			○			
		病理学Ⅱ（各論）	保健 9	1 前		1		○			
		微生物学Ⅰ（総論）	保健 10	1 前		1		○			
		微生物学Ⅱ（各論）	保健 11	1 前		1		○			
		発達心理学	保健 12	1 前		1		○			
		臨床心理学	保健 13	1 後	1				○		
	健康と保健医療システム	健康論	保健 14	1 前	1			○			必修 9 単位 ＋ 選択 1 単位
		公衆衛生学Ⅰ（基礎）	保健 15	2 前		1		○			
		公衆衛生学Ⅱ（応用）	保健 16	2 後		1		○			
		疫学・保健統計Ⅰ（基礎）	保健 17	3 前		1		○			
		疫学・保健統計Ⅱ（応用）	保健 18	3 前		1		○			
		保健医療情報論		2 後		1		○			
		リハビリテーション概論	保健 19	1 後	1			○			
		救命・救急の理論と実際	保健 20	2 前	1			○			
		画像診断学	保健 21	2 後	1			○			
		保健医療福祉論Ⅰ（基礎）	保健 22	2 後	1			○			
		保健医療福祉論Ⅱ（応用）	保健 23	2 後	1			○			
		食育論Ⅰ（基礎）	保健 24	3 前		1		○			
		食育論Ⅱ（応用）	保健 25	3 前		1		○			
		健康と運動	保健 26	1 後		1		○			
		家族社会学	保健 27	1 前		1		○			
		医療経営管理論	保健 28	4 後		1		○			
リスクマネジメント論	保健 29	2 後		1		○					
専門科目	リハビリテーション専門基礎科目	人体の構造Ⅰ（筋・骨・神経系の構造）	作 1	1 前	1				○		必修 26 単位 ＋ 選択 1 単位
		人体の構造Ⅱ（脈管・内臓・感覚器の構造）	作 2	1 後	1				○		
		人体の構造実習	作 3	1 後	1					○	
		人体の機能Ⅰ（動物性機能）	作 4	1 前	1				○		
		人体の機能Ⅱ（植物性機能）	作 5	1 後	1				○		
		人体の機能実習	作 6	2 前	1					○	
		体表解剖学	作 7	1 後	1			○			
		作業運動学Ⅰ（作業運動の基礎）	作 8	1 後	1				○		
		作業運動学Ⅱ（作業運動の応用）	作 9	2 前	1				○		
		作業運動学演習	作 10	2 前	1				○		
		作業運動学実習	作 11	2 後	1					○	
		作業分析学	作 12	2 前		1		○			
		人間工学	作 13	2 後		1			○		
		人間発達学	作 14	2 前	1				○		
		医学総論	作 15	1 後	1			○			
		内科学総論	作 16	2 前	1				○		
		内科学各論	作 17	2 後	1				○		
		神経内科学総論	作 18	2 前	1				○		
		神経内科学各論	作 19	2 後	1				○		

別表（リハビリテーション学科作業療法学専攻 2025 年度以降入学生用）

科目区分	授業科目の名称	ページ	配当年次	単位数			授業形態			履修方法等
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実	
	整形外科学総論	作 20	2 前	1				○		
	整形外科学各論	作 21	2 後	1				○		
	精神神経科学総論	作 22	2 前	1				○		
	精神神経科学各論	作 23	2 後	1				○		
	臨床薬理学	作 24	2 後	1			○			
	老年科学	作 25	3 前	1				○		
	小児科学	作 26	3 前	1				○		
	臨床医学概論	作 27	3 前	1				○		
	リハビリテーション医学	作 28	3 前	1				○		
専門科目	基礎作業療法学	作 29	1 前	1				○		必修 6 単位 ＋ 選択 2 単位
	作業療法管理学	作 30	3 後	2			○			
	作業療法基礎理論	作 31	2 後		1			○		
	作業療法研究法	作 32	3 前	1			○			
	基礎作業学・演習	作 33	1 前	1				○		
	基礎作業学実習	作 34	1 後	1					○	
	遊びとレクリエーション論入門		2 前		1		○			
	在宅支援の作業療法入門		2 前		1		○			
	地域精神保健作業療法入門		2 前		1		○			
	実践作業療法学	作 36	1 後	1			○			必修 29 単位
	身体作業療法評価学	作 37	2 前	1			○			
	身体作業療法評価学実習	作 38	2 通	1					○	
	身体作業療法学Ⅰ	作 39	2 後	2			○			
	身体作業療法学Ⅱ	作 40	2 後	2			○			
	身体作業療法学演習	作 41	3 前	1				○		
	精神作業療法評価学	作 42	2 前	1			○			
	精神作業療法評価学実習	作 43	2 通	1					○	
	精神作業療法学	作 44	2 後	2			○			
	精神作業療法学演習	作 45	3 前	1				○		
	発達期作業療法学	作 46	2 後	1			○			
	発達期作業療法学演習	作 47	3 前	1				○		
	老年期作業療法学	作 48	2 後	1			○			
	老年期作業療法学演習	作 49	3 前	1				○		
	高次神経機能作業療法学	作 50	3 前	2			○			
	日常生活活動学	作 51	2 後	1			○			
	日常生活活動学演習	作 52	3 前	1				○		
	義肢装具学	作 53	3 前	2			○			
	福祉機器論	作 54	3 後	2			○			
	地域社会参加支援学	作 55	3 前	1			○			
	地域社会参加支援学演習	作 56	3 後	1				○		
	地域作業療法学	作 57	3 前	2			○			
	作業療法総合演習	作 58	4 通		1			○		
	アシスティブテクノロジー特論		4 通		1		○			
	司法システムと作業療法特論		4 通		1		○			
	中枢神経疾患アプローチ特論		4 通		1		○			

別表（リハビリテーション学科作業療法学専攻 2025 年度以降入学生用）

	臨床実習	臨床体験実習	作 65	1 通	1					○	必修 28 単位
		評価実習Ⅰ	作 66	3 通	4					○	
		評価実習Ⅱ	作 67	3 通	4					○	
		総合実習Ⅰ	作 68	3 後	8					○	
		総合実習Ⅱ	作 69	4 前	8					○	
		地域作業療法学実習	作 70	4 前	3					○	
	研究	卒業研究	作 71	4 通	1				○		必修 1 単位

※4 人間理解群における選択科目の履修方法について

「人間関係論」又は「コミュニケーション理論と実際」のどちらか 1 つは必ず選択して履修する。

別表（リハビリテーション学科作業療法学専攻 2025 年度以降入学生用）

先修条件

【特色科目】

- 1 「千葉県の健康づくり」を履修するには「体験ゼミナール」の単位を修得済みであること。
- 2 「社会実習（ボランティア活動）」を履修するには「体験ゼミナール」の単位を修得済みであること。

【一般教養科目】

- 1 「英語Ⅶ(上級英語)A」「英語Ⅶ(上級英語)B」を履修するには「英語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、またはⅥ」の選択2単位を修得済みであること。

【専門科目】

- 1 「総合実習Ⅰ」および「総合実習Ⅱ」を履修するには、「評価実習Ⅰ」および「評価実習Ⅱ」の両科目の単位を修得済みであること。

進級要件

以下の要件を満たさなければ、3年次に進級できない。

- 1 1・2年次に配当された特色科目および保健医療基礎科目の必修科目のすべての単位を修得済みであること。
- 2 1・2年次に配当された専門科目の必修科目のすべての単位を修得済みであること。

卒業要件

科目区分	必修科目	選択科目	合 計
特色科目	3 単位	0 単位	3 単位
一般教養科目	8 単位	1 6 単位	2 4 単位
保健医療基礎科目	9 単位	1 単位	1 0 単位
専門科目	9 0 単位	3 単位	9 3 単位
合 計	1 1 0 単位	2 0 単位	1 3 0 単位

別表（リハビリテーション学科作業療法学専攻 2019年度以降入学生用）

科目区分	授業科目の名称	ページ	配当年次	単位数			授業形態			履修方法等
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実	
特色科目	体験ゼミナール	特色 1	1 前	1					○	必修 3 単位
	千葉県の健康づくり	特色 2	2 後	1				○		
	専門職間の連携活動論	特色 3	4 後	1				○		
	社会実習（ボランティア活動）	特色 4	2・3・4			1			○	
一般教養科目	人間理解群	心理学	一般 1	1・2・3・4 前	2		○			必修 2 単位 + 選択 2 単位 (※4)
		哲学	一般 2	1・2・3・4 前		2	○			
		文学	一般 3	1・2・3・4 前		2	○			
		歴史と文化	一般 4	1・2・3・4 前		2	○			
		生命倫理	一般 5	1・2・3・4 後		2	○			
		宗教学	一般 6	1・2・3・4 後		2	○			
		教育学	一般 7	1・2・3・4 後		2	○			
		人間関係論	一般 8	1・2・3・4 前		2	○			
		コミュニケーション理論と実際	一般 9	1・2・3・4 前		2	○			
		健康スポーツ科学	一般 10	1・2・3・4 前後		1		○		
		生涯身体運動科学	一般 11	1・2・3・4 前後		1		○		
	生活と環境群	生活とデザイン	一般 12	1・2・3・4 後		2	○			必修 2 単位
		法学（日本国憲法）	一般 13	1・2・3・4 前		2	○			
		社会学	一般 14	1・2・3・4 後		2	○			
		文化人類学	一般 15	1・2・3・4 前		2	○			
		経済学	一般 16	1・2・3・4 前		2	○			
		国際関係論	一般 17	1・2・3・4 後		2	○			
		社会福祉学	一般 18	1・2・3・4 前		1	○			
		国際的な健康課題	一般 19	1・2・3・4 後		1	○			
		人権・ジェンダー	一般 20	1・2・3・4 後		2	○			
		科学論	一般 21	1・2・3・4 前		2	○			
		環境変化と生態	一般 22	1・2・3・4 後		2	○			
		観察生物学入門	一般 23	1・2・3・4 前後		2	○			
		生物学	一般 24	1・2・3・4 前後		2	○			
		物理学	一般 25	1・2・3・4 前	2		○			
		化学	一般 26	1・2・3・4 前		2	○			
	情報理解群	統計学	一般 27	1 後	1			○		必修 2 単位
		情報リテラシーⅠ	一般 28	1 前	1			○		
		情報リテラシーⅡ	一般 29	1・2・3・4 後		1		○		
		情報倫理	一般 30	1・2・3・4 後		1	○			
		実践統計学	一般 31	2・3・4 後		1	○			
	外国語群	英語Ⅰ（講読）	一般 32	1・2・3・4 前		1		○		必修 2 単位 + 選択 2 単位
		英語Ⅱ（英会話）	一般 33	1・2・3・4 前		1		○		
		英語Ⅲ（講読・記述）	一般 34	1・2・3・4 後		1		○		
		英語Ⅳ（英語コミュニケーション）	一般 35	1・2・3・4 後		1		○		
		英語Ⅴ（保健医療英語）	一般 36	2 前	2		○			
		英語Ⅵ（応用英語）	一般 37	1・2・3・4 後		1		○		
		英語Ⅶ（上級英語）A	一般 38	2・3・4 後		1	○			
		英語Ⅶ（上級英語）B	一般 39	2・3・4 後		1	○			

【一般教養科目】選択科目から選択 12 単位

別表（リハビリテーション学科作業療法学専攻 2019 年度以降入学生用）

科目区分	授業科目の名称	ページ	配当年次	単位数			授業形態			履修方法等
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実	
保健医療基礎科目	人間のこころと身体	運動生理学総論	保健 1 2 前		1		○			必修 9 単位 + 選択 1 単位
		生化学総論	保健 2 1 前		1		○			
		栄養学Ⅰ（基礎）	保健 3 1 後	1			○			
		栄養学Ⅱ（応用）	保健 4 1 後		1		○			
		心の健康	保健 5 1 後		1		○			
		薬理学Ⅰ（総論）	保健 6 1 後		1		○			
		薬理学Ⅱ（各論）	保健 7 1 後		1		○			
		病理学Ⅰ（総論）	保健 8 1 前	1			○			
		病理学Ⅱ（各論）	保健 9 1 前		1		○			
		微生物学Ⅰ（総論）	保健 10 1 前		1		○			
		微生物学Ⅱ（各論）	保健 11 1 前		1		○			
		発達心理学	保健 12 1 前		1		○			
		臨床心理学	保健 13 1 後	1				○		
	健康と保健医療システム	健康論	保健 14 1 前	1			○			
		公衆衛生学Ⅰ（基礎）	保健 15 2 前		1		○			
		公衆衛生学Ⅱ（応用）	保健 16 2 後		1		○			
		疫学・保健統計Ⅰ（基礎）	保健 17 3 前		1		○			
		疫学・保健統計Ⅱ（応用）	保健 18 3 前		1		○			
		リハビリテーション概論	保健 19 1 後	1			○			
		救命・救急の理論と実際	保健 20 2 前	1			○			
		画像診断学	保健 21 2 後	1			○			
		保健医療福祉論Ⅰ（基礎）	保健 22 2 後	1			○			
		保健医療福祉論Ⅱ（応用）	保健 23 2 後	1			○			
		食育論Ⅰ（基礎）	保健 24 3 前		1		○			
		食育論Ⅱ（応用）	保健 25 3 前		1		○			
		健康と運動	保健 26 1 後		1		○			
		家族社会学	保健 27 1 前		1		○			
		医療経営管理論	保健 28 4 後		1		○			
		リスクマネジメント論	保健 29 2 後		1		○			
専門科目	リハビリテーション専門基礎科目	人体の構造Ⅰ（筋・骨・神経系の構造）	作 1 1 前	1				○		必修 26 単位 + 選択 1 単位
		人体の構造Ⅱ（脈管・内臓・感覚器の構造）	作 2 1 後	1				○		
		人体の構造実習	作 3 1 後	1					○	
		人体の機能Ⅰ（動物性機能）	作 4 1 前	1				○		
		人体の機能Ⅱ（植物性機能）	作 5 1 後	1				○		
		人体の機能実習	作 6 2 前	1					○	
		体表解剖学	作 7 1 後	1			○			
		作業運動学Ⅰ（作業運動の基礎）	作 8 1 後	1				○		
		作業運動学Ⅱ（作業運動の応用）	作 9 2 前	1				○		
		作業運動学演習	作 10 2 前	1				○		
		作業運動学実習	作 11 2 後	1					○	
		作業分析学	作 12 2 前		1		○			
		人間工学	作 13 2 後		1			○		
		人間発達学	作 14 2 前	1				○		
		医学総論	作 15 1 後	1			○			
		内科学総論	作 16 2 前	1				○		
		内科学各論	作 17 2 後	1				○		
		神経内科学総論	作 18 2 前	1				○		
		神経内科学各論	作 19 2 後	1				○		

別表（リハビリテーション学科作業療法学専攻 2019 年度以降入学生用）

科目区分	授業科目の名称	ページ	配当年次	単位数			授業形態			履修方法等
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	
	整形外科学総論	作 20	2 前	1				○		
	整形外科学各論	作 21	2 後	1				○		
	精神神経科学総論	作 22	2 前	1				○		
	精神神経科学各論	作 23	2 後	1				○		
	臨床薬理学	作 24	2 後	1			○			
	老年科学	作 25	3 前	1				○		
	小児科学	作 26	3 前	1				○		
	臨床医学概論	作 27	3 前	1				○		
	リハビリテーション医学	作 28	3 前	1				○		
専門科目	基礎作業療法学	作 29	1 前	1				○		必修 6 単位 + 選択 2 単位
	作業療法管理学	作 30	3 後	2			○			
	作業療法基礎理論	作 31	2 後		1			○		
	作業療法研究法	作 32	3 前	1			○			
	基礎作業学・演習	作 33	1 前	1				○		
	基礎作業学実習	作 34	1 後	1					○	
	作業療法ゼミナール A	作 35	2 前		1		○			
	作業療法ゼミナール B	作 35	2 前		1		○			
	作業療法ゼミナール C	作 35	2 前		1		○			
	作業療法ゼミナール D	作 35	2 前		1		○			
	作業療法ゼミナール E	作 35	2 前		1		○			
	作業療法ゼミナール F	作 35	2 前		1		○			
	実践作業療法学	作 36	1 後	1			○			必修 2 9 単位
	身体作業療法評価学	作 37	2 前	1			○			
	身体作業療法評価学実習	作 38	2 通	1					○	
	身体作業療法学Ⅰ	作 39	2 後	2			○			
	身体作業療法学Ⅱ	作 40	2 後	2			○			
	身体作業療法学演習	作 41	3 前	1				○		
	精神作業療法評価学	作 42	2 前	1			○			
	精神作業療法評価学実習	作 43	2 通	1					○	
	精神作業療法学	作 44	2 後	2			○			
	精神作業療法学演習	作 45	3 前	1				○		
	発達期作業療法学	作 46	2 後	1			○			
	発達期作業療法学演習	作 47	3 前	1				○		
	老年期作業療法学	作 48	2 後	1			○			
	老年期作業療法学演習	作 49	3 前	1				○		
	高次神経機能作業療法学	作 50	3 前	2			○			
	日常生活活動学	作 51	2 後	1			○			
	日常生活活動学演習	作 52	3 前	1				○		
	義肢装具学	作 53	3 前	2			○			
	福祉機器論	作 54	3 後	2			○			
	地域社会参加支援学	作 55	3 前	1			○			
	地域社会参加支援学演習	作 56	3 後	1				○		
	地域作業療法学	作 57	3 前	2			○			

別表（リハビリテーション学科作業療法学専攻 2019 年度以降入学生用）

	作業療法総合演習	作 58	4 通		1			○	
	作業療法学特論 A	作 59	4 通		1		○		
	作業療法学特論 B	作 60	4 通		1		○		
	作業療法学特論 C	作 61	4 通		1		○		
	作業療法学特論 D	作 62	4 通		1		○		
	作業療法学特論 E	作 63	4 通		1		○		
	作業療法学特論 F	作 64	4 通		1		○		
臨床実習	臨床体験実習	作 65	1 通	1				○	必修 28 単位
	評価実習 I	作 66	3 通	4				○	
	評価実習 II	作 67	3 通	4				○	
	総合実習 I	作 68	3 後	8				○	
	総合実習 II	作 69	4 前	8				○	
	地域作業療法学実習	作 70	4 前	3				○	
研究	卒業研究	作 71	4 通	1				○	必修 1 単位

※4 人間理解群における選択科目の履修方法について

「人間関係論」又は「コミュニケーション理論と実際」のどちらか 1 つは必ず選択して履修する。

別表（リハビリテーション学科作業療法学専攻 2019 年度以降入学生用）

先修条件

【特色科目】

- 1 「千葉県健康づくり」を履修するには「体験ゼミナール」の単位を修得済みであること。
- 2 「社会実習（ボランティア活動）」を履修するには「体験ゼミナール」の単位を修得済みであること。

【一般教養科目】

- 1 「実践統計学」を履修するには「統計学」の単位を修得済みであること。
- 2 「英語Ⅶ(上級英語)A」「英語Ⅶ(上級英語)B」を履修するには「英語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、またはⅥ」の選択2単位を修得済みであること。

【専門科目】

- 1 「総合実習Ⅰ」および「総合実習Ⅱ」を履修するには、「評価実習Ⅰ」および「評価実習Ⅱ」の両科目の単位を修得済みであること。

進級要件

以下の要件を満たさなければ、3年次に進級できない。

- 1 1・2年次に配当された特色科目および保健医療基礎科目の必修科目のすべての単位を修得済みであること。
- 2 1・2年次に配当された専門科目の必修科目のすべての単位を修得済みであること。

卒業要件

科目区分	必修科目	選択科目	合 計
特色科目	3 単位	0 単位	3 単位
一般教養科目	8 単位	1 6 単位	2 4 単位
保健医療基礎科目	9 単位	1 単位	1 0 単位
専門科目	9 0 単位	3 単位	9 3 単位
合 計	1 1 0 単位	2 0 単位	1 3 0 単位

旧カリキュラム科目と新カリキュラム科目の読替表

科目群	旧カリキュラム科目（2024年度入学生まで）			新カリキュラム科目（2025年度入学生から）		備考
	科目名	単位数	最終開講年度	科目名	単位数	
一般教養科目情報理解群	実践統計学	1	2024			廃止
保健医療基礎科目 健康と保健医療システム (看護学科、理学療法専攻)				保健医療情報論	1	新設（2027年度から必修）
保健医療基礎科目 健康と保健医療システム (栄養学科、歯科衛生学科、 作業療法専攻)				保健医療情報論	1	新設（2027年度から選択）
看護学科専門科目	ターミナルケア論	1	2026	終末期ケア論	1	
	高齢者・在宅看護学方法論Ⅰ	1	2025	高齢者看護学方法論Ⅰ	1	演習から講義に変更
				在宅看護学方法論Ⅰ	1	
	母性看護学方法論Ⅰ	1	2025	周産期看護学方法論Ⅰ	1	
	母性看護学方法論Ⅱ	1	2026	周産期看護学方法論Ⅱ	1	
	母性看護学実習	2	2027	育成期看護実習	3	育成期看護実習の受講に加え、別途課題を課して4単位とする
	小児看護学実習	2	2027			
歯科衛生学科専門科目	歯科生化学・臨床検査法	1	2024	口腔生化学	1	
	顎口腔機能論	1	2025	口腔機能・臨床検査	1	
	歯科医療安全論	1	2025			チーム歯科医療論に含む
	歯科衛生体験演習Ⅰ	1	2024	歯科衛生体験演習	1	
	歯科衛生体験演習Ⅱ	1	2025			歯科衛生体験演習に含む
	発達歯科衛生学Ⅱ（成人・高齢者）	3	2025	発達歯科衛生学Ⅱ（成人・高齢者）	2	
	顎口腔機能リハビリテーション演習	1	2026	顎口腔機能リハビリテーション演習	2	
	衛生行政	1	2025	保健医療福祉行政論	2	
	社会保障・社会保険論	1	2026	保健医療福祉行政論	2	
				総合演習	1	新設
	卒業研究	2	2027	卒業研究Ⅰ	1	
				卒業研究Ⅱ	2	
理学療法専攻専門科目	運動学Ⅰ	1	2024	運動学Ⅰ	1	配当年次変更（1年後期から1年前期）
	運動学Ⅱ	1	2025	運動学Ⅱ	1	配当年次変更（2年前期から1年後期）
	運動学実習	1	2025			生体機能計測学に含む
	臨床運動学	1	2025	臨床運動学	1	配当年次変更（2年後期から2年前期）
				理学療法リーダーシップ論	1	新設（2028年度から必修）
	理学療法評価学Ⅱ	1	2025	理学療法評価学Ⅱ	2	
	理学療法評価学Ⅳ（画像評価）	1	2026			各疾患別理学療法学に含む
	運動器障害理学療法学	2	2026	運動器障害理学療法学	2	配当年次変更（3年前期から2年前期）
	運動器障害理学療法学演習	1	2026	運動器障害理学療法学演習	1	配当年次変更（3年後期から3年前期）
				運動器障害理学療法治療学	1	新設（2027年度から必修）
	神経系障害理学療法学	2	2026	神経系障害理学療法学	2	配当年次変更（3年前期から2年前期）
	神経系障害理学療法学演習	1	2026	神経系障害理学療法学演習	1	配当年次変更（3年後期から3年前期）
				神経系障害理学療法治療学	1	新設（2027年度から必修）
	内部障害理学療法学	2	2026	内部障害理学療法学	2	配当年次変更（3年前期から2年後期）
	内部障害理学療法学演習	1	2026	内部障害理学療法学演習	1	配当年次変更（3年後期から3年前期）
				内部障害理学療法治療学	1	新設（2027年度から必修）
	老年期障害理学療法学	2	2026			地域理学療法学に含む
	老年期障害理学療法学演習	1	2026			地域理学療法学演習に含む
	発達障害理学療法学	2	2026	発達障害理学療法学	2	配当年次変更（3年前期から2年後期）
	発達障害理学療法学演習	1	2026	発達障害理学療法学演習	1	配当年次変更（3年後期から3年前期）
	発達障害理学療法学特論	1	2026	発達障害理学療法治療学	1	名称変更し、必修とする
	理学療法技術論	1	2027			各疾患別理学療法治療学に含む
	生体機能計測学	1	2026	生体機能計測学	1	2027年度から必修
	理学療法学特論Ⅰ（運動器・神経系）	1	2026			各疾患別理学療法学演習に含む
	理学療法学特論Ⅱ（内部・老年期・地域）	1	2026			各疾患別理学療法学演習に含む
	発展領域論（がん、予防、研究解析法）	2	2027			各疾患別理学療法学、卒業研究Ⅰ・Ⅱに含む
				スポーツ傷害理学療法学	1	新設（2027年度から選択）
				ウィメンズヘルス理学療法学	1	新設（2027年度から選択）
				卒業研究Ⅰ	1	新設（2027年度から必修）
	卒業研究	2	2027	卒業研究Ⅱ	2	名称変更
作業療法専攻専門科目	作業療法基礎理論	1	2024	作業療法基礎理論	1	配当年次変更（2年前期から2年後期）
	高次神経機能作業療法学	2	2024	高次神経機能作業療法学	2	配当年次変更（2年後期から3年前期）
	作業療法ゼミナールA～F	1	2024	遊びとレクリエーション入門 在宅支援の作業療法入門 地域精神保健作業療法入門	1	名称変更
	作業療法学特論A～F	1	2024	アシスティブテクノロジー特論 司法システムと作業療法特論 中枢神経疾患アプローチ特論	1	名称変更

第2部 シラバス（授業概要）